

（案）

## 農薬評価書

# メフェントリフル コナゾール

2019年10月25日

食品安全委員会農薬専門調査会

目次

1		頁
2		
3	○ 審議の経緯.....	3
4	○ 食品安全委員会委員名簿.....	3
5	○ 食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿.....	3
6	○ 要約.....	5
7		
8	I. 評価対象農薬の概要.....	6
9	1. 用途.....	6
10	2. 有効成分の一般名.....	6
11	3. 化学名.....	6
12	4. 分子式.....	6
13	5. 分子量.....	6
14	6. 構造式.....	6
15	7. 開発の経緯.....	6
16		
17	II. 安全性に係る試験の概要.....	8
18	1. 動物体内運命試験.....	8
19	(1) ラット.....	8
20	(2) マウス.....	19
21	(3) ヤギ.....	20
22	(4) ニワトリ.....	23
23	2. 植物体内運命試験.....	26
24	(1) 小麦.....	26
25	(2) だいず.....	27
26	(3) ぶどう.....	29
27	3. 土壌中運命試験.....	30
28	(1) 好氣的土壌中運命試験.....	30
29	4. 水中運命試験.....	31
30	(1) 加水分解試験.....	31
31	(2) 水中光分解試験.....	31
32	5. 土壌残留試験.....	32
33	6. 作物等残留試験.....	33
34	(1) 作物残留試験.....	33
35	(2) 畜産物残留試験.....	33
36	7. 一般薬理試験.....	34
37	8. 急性毒性試験.....	35
38	(1) 急性毒性試験.....	35

1	(2) 急性神経毒性試験（ラット）	35
2	9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験	36
3	10. 亜急性毒性試験	36
4	(1) 90 日間亜急性毒性試験（ラット）	36
5	(2) 90 日間亜急性毒性試験（マウス）	37
6	(3) 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）	38
7	(4) 28 日間亜急性経皮毒性試験（ラット）	39
8	(5) 28 日間亜急性毒性試験（マウス、代謝物 F022）	39
9	11. 慢性毒性試験及び発がん性試験	40
10	(1) 1 年間慢性毒性試験（イヌ）	40
11	(2) 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）	41
12	(3) 18 か月間発がん性試験（マウス）	42
13	12. 生殖発生毒性試験	43
14	(1) 2 世代繁殖試験（ラット）	43
15	(2) 発生毒性試験（ラット）	44
16	(3) 発生毒性試験（ウサギ）	44
17	13. 遺伝毒性試験	45
18		
19	III. 食品健康影響評価	47
20		
21	・別紙 1：代謝物/分解物略称	54
22	・別紙 2：検査値等略称	57
23	・別紙 3：作物残留試験成績（海外）	58
24	・別紙 4：畜産物残留試験成績	119
25	・参照	126
26		

1 <審議の経緯>

- 2019年 3月 1日 インポートトレランス設定の要請（小麦、大麦等）  
2019年 5月 23日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発生食0522第9号）、関係書類の  
接受（参照1～60）  
2019年 5月 28日 第743回食品安全委員会（要請事項説明）  
2019年 9月 30日 第64回農薬専門調査会評価第四部会  
2019年 10月 25日 第176回農薬専門調査会幹事会

2

3 <食品安全委員会委員名簿>

（2018年7月1日から）

- 佐藤 洋（委員長）  
山本茂貴（委員長代理）  
川西 徹  
吉田 緑  
香西みどり  
堀口逸子  
吉田 充

4

5 <食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿>

（2018年4月1日から）

・幹事会

- |            |       |      |
|------------|-------|------|
| 西川秋佳（座長）   | 代田真理子 | 本間正充 |
| 納屋聖人（座長代理） | 清家伸康  | 松本清司 |
| 赤池昭紀       | 中島美紀  | 森田 健 |
| 浅野 哲       | 永田 清  | 與語靖洋 |
| 小野 敦       | 長野嘉介  |      |

・評価第一部会

- |            |      |       |
|------------|------|-------|
| 浅野 哲（座長）   | 篠原厚子 | 福井義浩  |
| 平塚 明（座長代理） | 清家伸康 | 藤本成明  |
| 堀本政夫（座長代理） | 豊田武士 | 森田 健  |
| 赤池昭紀       | 中塚敏夫 | 吉田 充* |
| 石井雄二       |      |       |

・評価第二部会

- |            |       |      |
|------------|-------|------|
| 松本清司（座長）   | 栗形麻樹子 | 山手丈至 |
| 平林容子（座長代理） | 中島美紀  | 山本雅子 |
| 義澤克彦（座長代理） | 本多一郎  | 若栗 忍 |

小澤正吾

増村健一

渡邊栄喜

久野壽也

・評価第三部会

小野 敦 (座長)

佐藤 洋

中山真義

納屋聖人 (座長代理)

杉原数美

八田稔久

美谷島克宏 (座長代理)

高木篤也

藤井咲子

太田敏博

永田 清

安井 学

腰岡政二

・評価第四部会

本間正充 (座長)

加藤美紀

玉井郁巳

長野嘉介 (座長代理)

川口博明

中島裕司

與語靖洋 (座長代理)

代田眞理子

西川秋佳

乾 秀之

高橋祐次

根岸友恵

\* : 2018年6月30日まで

1

2 <第176回農薬専門調査会幹事会専門参考人名簿>

三枝 順三

林 真

3

1 要 約

2  
3 トリアゾール骨格を有する「メフェントリフルコナゾール」（CAS No.  
4 1417782-03-6）について、各種資料を用いて食品健康影響評価を実施した。

5 評価に用いた試験成績は、動物体内運命（ラット、ヤギ、ニワトリ等）、植物体内  
6 運命（小麦、だいず等）、作物等残留、亜急性毒性（ラット、マウス及びイヌ）、慢  
7 性毒性（イヌ）、慢性毒性/発がん性併合（ラット）、発がん性（マウス）、2 世代繁  
8 殖（ラット）、発生毒性（ラット及びウサギ）、遺伝毒性等の試験成績である。

9 各種毒性試験結果から、メフェントリフルコナゾール投与による影響は体重（増加  
10 抑制）及び肝臓（肝細胞肥大、肝細胞壊死：マウス）に認められた。  
11 神経毒性、発がん性、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。

12 ラットを用いた 2 世代繁殖試験成績において、F<sub>1</sub> 親動物の着床数が僅かに減少し、  
13 産児数の減少が認められた。

14 各種試験結果から、農産物中の暴露評価対象物質をメフェントリフルコナゾール  
15 （親化合物のみ）、畜産物中の暴露評価対象物質をメフェントリフルコナゾール及び  
16 代謝物 F022（抱合体を含む。）と設定した。

17 各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、マウスを用いた 18 か月間発がん性試  
18 験の 3.5 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除し  
19 た 0.035 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

20 また、メフェントリフルコナゾールの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒  
21 性影響に対する無毒性量及び最小毒性量のうち最小値は、ラットを用いた急性神経毒  
22 性試験の 600 mg/kg 体重であり、カットオフ値（500 mg/kg 体重）以上であったこ  
23 とから、急性参照用量（ARfD）は設定する必要がないと判断した。

24

1 **I. 評価対象農薬の概要**

2 **1. 用途**

3 殺菌剤

4

5 **2. 有効成分の一般名**

6 和名：メフェントリフルコナゾール

7 英名：mefentrifluconazole

8

9 **3. 化学名**

10 **IUPAC**

11 和名：(2*RS*)-2-[4-(4-クロロフェノキシ)-2-(トリフルオロメチル)  
12 フェニル]-1-(1,2,4-トリアゾール-1-イル)プロパン-2-オール

13 英名：(2*RS*)-2-[4-(4-chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)  
14 phenyl]-1-(1*H*-1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-ol

15

16 **CAS (No. 1417782-03-6)**

17 和名：α-[4-(4-クロロフェノキシ)-2-(トリフルオロメチル)フェニル]-α-メチル  
18 -1*H*-1,2,4-トリアゾール-1-エタノール

19 英名：alpha-[4-(4-chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-alpha-methyl  
20 -1*H*-1,2,4-triazol-1-ethanol

21

22 **4. 分子式**

23  $C_{18}H_{15}ClF_3N_3O_2$

24

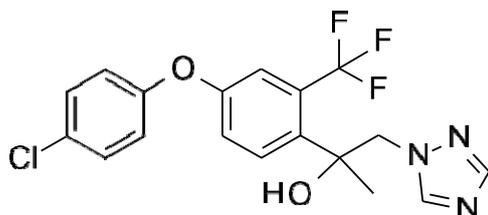
25 **5. 分子量**

26 397.8

27

28 **6. 構造式**

29



30

31

32 **7. 開発の経緯**

33 メフェントリフルコナゾールは、BASF社により開発されたトリアゾール骨格を  
34 有する殺菌剤であり、病原菌の細胞膜のステロール生合成阻害剤の一種で、エルゴ

- 1 ステロールの生合成の過程において C14 位の脱メチル化を阻害することにより、
- 2 菌類の正常な生育を阻害すると考えられている。
- 3 国内での農薬登録はなされていない。今回、インポートトレランス設定の要請（小
- 4 麦、大麦等）がなされている。海外においては EU 等で登録されている。
- 5

## 1 II. 安全性に係る試験の概要

各種運命試験 [II. 1～4] は、メフェントリフルコナゾールのクロロフェニル環の炭素を  $^{14}\text{C}$  で均一に標識したもの（以下「[chl- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾール」という。）、トリフルオロメチルフェニル環の炭素を  $^{14}\text{C}$  で均一に標識したもの（以下「[tfm- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾール」という。）又はトリアゾール環の 3 位若しくは 5 位の炭素を  $^{14}\text{C}$  で標識したもの（以下「[taz- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾール」という。）を用いて実施された。放射能濃度及び代謝物濃度は、特に断りがない場合は比放射能（質量放射能）からメフェントリフルコナゾールの濃度（mg/kg 又は  $\mu\text{g/g}$ ）に換算した値として示した。

代謝物/分解物略称及び検査値等略称は、別紙 1 及び 2 に示されている。

### 1. 動物体内運命試験

#### (1) ラット

##### ① 吸収

##### a. 血中濃度推移

Wistar Hannover ラット（一群雌雄各 3 匹）に [chl- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾールを 5 mg/kg 体重（以下 [1. (1)] において「低用量」という。）若しくは 180 mg/kg 体重（以下 [1. (1)] において「高用量」という。）で単回経口投与又は [taz- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾールを 5、40、120 若しくは 360 mg/kg 体重で単回経口投与（一群雌雄各 4 匹）若しくは 0.4 mg/kg 体重で単回静脈内投与（一群雌雄各 6 匹）して、血中濃度推移が検討された。

血漿中薬物動態学的パラメータは表 1 及び表 2 に示されている。

経口投与後の [chl- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾールは速やかに吸収され、血漿中放射能濃度は投与 0.5～5.5 時間後に  $C_{\max}$  に達した。雄は雌に比べて  $T_{\max}$ 、 $T_{1/2}$  及び  $C_{\max}$  が大きく、AUC は雌のほぼ 2 倍であり、性差が認められた。高用量投与群における  $C_{\max}$  は低用量投与群に対して用量比以下の増加であったが、AUC は用量比と同等以上の増加であった。[taz- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾール投与群においても、雄は雌に比べて  $C_{\max}$  及び AUC が大きく、性差が認められた。また、血漿中放射能濃度の推移に標識体による顕著な差は認められなかった。

[taz- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾールの静脈内投与及び経口投与試験の結果から、5 mg/kg 体重投与後のバイオアベイラビリティは雄で 80%、雌で 111% と算出された。（参照 2～4）

表 1 血漿中薬物動態学的パラメータ

標識体	[chl- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾール			
投与方法	単回経口			
投与量	5 mg/kg 体重		180 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雌

標識体		[chl- <sup>14</sup> C]メフェントリフルコナゾール			
投与方法		単回経口			
投与量		5 mg/kg 体重		180 mg/kg 体重	
性別		雄	雌	雄	雌
T <sub>max</sub> (hr)		1.2	0.5	5.5	0.7
C <sub>max</sub> (μg/g)		2.04	1.67	62.5	49.9
T <sub>1/2</sub> (hr)	分布相	7.68	2.56 <sup>1)</sup>	12.9	3.99 <sup>1)</sup>
	最終消失相	85.7 <sup>1)</sup>	62.1 <sup>1), 2)</sup>	87.7 <sup>1)</sup>	78.3 <sup>1), 3)</sup>
AUC <sub>0-168</sub> (hr・μg/g)		34.9	15.7	1,650	845
AUC <sub>0-∞</sub> (hr・μg/g)		39.6 <sup>1)</sup>	15.3 <sup>1), 2)</sup>	1,810 <sup>1)</sup>	807 <sup>1), 3)</sup>

注) 数値は3匹の平均値。ただし、<sup>1)</sup>は概算値、<sup>2)</sup>は1匹の値、<sup>3)</sup>は2匹の平均値。

表2 血漿中薬物動態学的パラメータ

標識体		[taz- <sup>14</sup> C]メフェントリフルコナゾール									
投与方法		単回静脈内		単回経口							
投与量		0.4 mg/kg 体重		5 mg/kg 体重		40 mg/kg 体重		120 mg/kg 体重		360 mg/kg 体重	
性別		雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
C <sub>max</sub> (μg/g)*		1.35	1.17	3.04	2.07	23.1	13.8	53.7	34.4	57.1	20.3
									20.4	56.0	29.2
T <sub>max</sub> (hr)*	投与直後	投与直後	1	1	1	1	1	1	1	1	1
									8	24	8
T <sub>1/2</sub> (hr)		12.5	10.0	43.8	34.1	20.4	41.9	17.4	58.4	30.1	38.7
AUC <sub>0-∞</sub> (hr・μg/g)		3.60	1.29	38	17	296	119	886	467	2,630	1,150

\*: 上段は第1ピーク、下段は第2ピーク

## b. 吸収率

胆汁中排泄試験 [1.(1)④b.] において得られた胆汁、尿、ケージ洗浄液及び組織中の放射能の合計から、投与後72~168時間の吸収率は、低用量投与群で77.5%~84.8%、高用量投与群で49.8%~70.6%と算出された。

## ② 分布

Wistar Hannover ラット (一群雌雄各3~4匹) に[chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール若しくは[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールを低用量若しくは高用量で単回経口投与又は高用量で14日間反復投与して体内分布試験が実施された。また、[tfm-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールを高用量で単回経口投与し、体内分布試験が実施された。

主要臓器及び組織における残留放射能濃度は表3及び表4に示されている。

残留放射能濃度は、いずれの投与群においても、T<sub>max</sub>付近では消化管、肝臓、副腎及び腎臓で比較的高く認められた。残留放射能の分布に、標識体及び投与量

1 による顕著な差は認められなかったが、いずれの投与群においても雌に比べて雄  
 2 の残留放射能の減少速度が遅かった。投与 168 時間後の臓器及び組織における  
 3 残留放射能は、主に肝臓とカーカス<sup>1</sup>に、[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール  
 4 投与群では皮膚にも比較的高濃度で分布していたが、臓器及び組織における合計  
 5 はいずれの投与群においても 1.18%TAR 以下であった。（参照 2～4）

6

7

表 3 主要臓器及び組織における残留放射能濃度 (µg/g)

標識体	投与量 (投与方法)	性別	T <sub>max</sub> 付近 <sup>a</sup>	最終測定時間 <sup>b</sup>
[chl- <sup>14</sup> C] メフェン トリフル コナゾー ル	5 mg/kg 体重 (単回経口)	雄	胃(22.4)、肝臓(12.7)、腸管(4.80)、 血漿(2.00)、腎臓(1.52)、副腎(1.31)、 全血(1.21)	肝臓(1.03 <sup>*</sup> )、腸管(0.626 <sup>*</sup> )、血漿 (0.241 <sup>*</sup> )、腎臓(0.189 <sup>*</sup> )、全血(0.134 <sup>*</sup> )
		雌	胃(15.6)、肝臓(9.72)、腸管(7.39)、 副腎(3.32)、腎臓(1.93)、血漿(1.40)、 肺(1.07)、心臓(1.04)、卵巣(1.04)、 脾臓(0.986)、全血(0.948)	腸管(1.83)、肝臓(1.29)、腎臓 (0.234)、血漿(0.155)、胃(0.132)、 全血(0.096)
	180 mg/kg 体重 (単回経口)	雄	胃(323)、肝臓(207)、腸管(178)、副 腎(99.0)、筋肉(64.9)、脾臓(61.6)、 血漿(58.8)、腎臓(51.7)、全血(42.7)	腸管(24.6)、肝臓(21.0)、血漿(11.2)、 全血(6.94)
		雌	胃(683 <sup>*</sup> )、肝臓(212)、副腎(136)、 腸管(120)、脾臓(64.0)、腎臓(62.8)、 血漿(57.0)、甲状腺(50.0)、心臓 (47.7)、卵巣(46.3)、肺(44.0)、脳 (39.6)、全血(35.1)	腸管(78.7)、肝臓(30.1)、胃(20.4)、 血漿(5.50)、腎臓(4.99)、脂肪(3.66)、 副腎(3.59)、全血(3.20)
[taz- <sup>14</sup> C] メフェン トリフル コナゾー ル	5 mg/kg 体重 (単回経口)	雄	肝臓(16.4)、胃(14.2)、腸管(6.42)、 副腎(4.68)、血漿(2.99)、甲状腺 (2.71)、腎臓(1.98)、肺(1.47)、脾臓 (1.36)、心臓(1.29)、骨髓(1.07)、血 球(0.88)	肝臓(1.07)、腸管(1.00)、甲状腺 (0.68)、胃(0.67)、副腎(0.50)、腎臓 (0.49)、骨髓(0.34)、血漿(0.29)、肺 (0.29)、皮膚(0.27)、脾臓(0.26)、精 巣(0.26)、筋肉(0.26)、心臓(0.25)、 脾臓(0.24)、カーカス(0.24)、脳 (0.22)、血球(0.20)
		雌	胃(19.7)、腸管(15.5)、肝臓(9.13)、 副腎(3.72)、甲状腺(2.53)、腎臓 (1.66)、血漿(1.53)、脾臓(1.33)、子 宮(0.64)、脳(0.59)、脾臓(0.55)、脂 肪(0.54)、カーカス(0.52)、皮膚 (0.48)、筋肉(0.41)、血球(0.30)	腸管(2.08)、肝臓(0.68)、胃(0.30)、 腎臓(0.26)、副腎(0.18)、脂肪(0.17)、 子宮(0.14)、甲状腺(0.14)、肺(0.11)、 卵巣(0.11)、骨髓(0.10)、カーカス (0.10)、血漿(0.09)、脾臓(0.09)、脾 臓(0.08)、心臓(0.07)、筋肉(0.07)、 皮膚(0.07)、脳(0.06)、血球(0.04)

<sup>1</sup> 組織・臓器を取り除いた残渣のことをカーカスという（以下同じ。）。

標識体	投与量 (投与方法)	性別	T <sub>max</sub> 付近 <sup>a</sup>	最終測定時間 <sup>b</sup>
	180 mg/kg 体重 (単回経口)	雄	胃(671)、肝臓(267)、腸管(202)、副腎(124)、血漿(71.0)、甲状腺(70.8)、腎臓(65.4)、膵臓(59.5)、肺(47.9)、心臓(45.9)、脳(37.4)、骨髄(35.1)、脾臓(31.4)、カーカス(24.9)、脂肪(22.8)、筋肉(22.7)、精巣(22.0)、血球(21.6)	腸管(24.8)、胃(22.9)、心臓(18.6)、カーカス(18.2)、肝臓(17.1)、甲状腺(17.1)、腎臓(13.5)、副腎(13.2)、皮膚(12.6)、骨髄(11.3)、肺(11.2)、血漿(10.4)、精巣(9.61)、膵臓(9.60)、血球(8.98)
		雌	胃(1,370)、腸管(400)、肝臓(221)、副腎(144)、膵臓(76.6)、甲状腺(74.5)、肺(70.5)、腎臓(69.8)、血漿(52.9)、卵巣(52.2)、心臓(48.2)、脳(47.8)、脂肪(40.5)、脾臓(34.8)、皮膚(34.5)、骨髄(34.2)、子宮(31.2)、カーカス(28.6)、筋肉(23.1)、血球(17.1)	腸管(38.9)、肝臓(13.8)、胃(6.01)、甲状腺(5.76)、副腎(4.70)、腎臓(4.13)、カーカス(3.64)、肺(3.15)、骨髄(3.15)、血漿(2.85)、子宮(2.79)、膵臓(2.58)、血球(2.57)

1 注) ・数値は3例の平均値。ただし、\* は2例の平均値。

2 ・胃及び腸管はいずれも内容物を除く。

3 a: [chl-<sup>14</sup>C] メフェントリフルコナゾール投与群では、雄の低用量群で投与1時間後、高用量群で  
4 投与2時間後、雌では低、高用量群とも投与0.5時間後、[taz-<sup>14</sup>C] メフェントリフルコナゾール  
5 投与群では投与1時間後。

6 b: [chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール投与群では、雄の低用量群で投与34時間後、高用量群で  
7 投与53時間後、雌では低、高用量群とも投与24時間後、[taz-<sup>14</sup>C] メフェントリフルコナゾール  
8 投与群では低用量群の雄28時間後、雌24時間後、高用量群の雄48時間後、雌34時間後。

10 表4 168時間後の主要臓器及び組織における残留放射能(%TAR)

標識体	投与量 (投与方法)	性別	168時間後
[chl- <sup>14</sup> C] メフェント リフルコナ ゾール	5 mg/kg 体重 (単回経口)	雄	肝臓(0.165)、カーカス(0.161)、全血(0.018)、血漿(0.013)
		雌	カーカス(0.119)、肝臓(0.067)、腎臓(0.007)、全血(0.005)、腸管(0.004)、血漿(0.003)
	180 mg/kg 体重 (単回経口)	雄	カーカス(0.118)、肝臓(0.049)、全血(0.017)、血漿(0.011)
		雌	カーカス(0.180)、肝臓(0.035)、全血(0.005)、腎臓(0.004)、腸管(0.003)、血漿(0.003)
	180 mg/kg 体重/日 (反復経口)	雄	カーカス(0.073)、肝臓(0.040)、全血(0.020)、血漿(0.013)
		雌	カーカス(0.075)、肝臓(0.027)、全血(0.005)、脂肪(0.004)、腎臓(0.003)、血漿(0.003)
[taz- <sup>14</sup> C] メフェント リフルコナ ゾール	5 mg/kg 体重 (単回経口)	雄	カーカス(0.76)、皮膚(0.30)、肝臓(0.07)、腸管(0.01)、血球(0.01)、血漿(0.00)
		雌	カーカス(0.15)、肝臓(0.09)、皮膚(0.06)、腸管(0.01)、血球(0.01)、血漿(0.00)
	180 mg/kg 体重 (単回経口)	雄	皮膚(0.11)、カーカス(0.09)、肝臓(0.01)、腸管(0.01)、血球(0.00)、血漿(0.00)
		雌	カーカス(0.08)、皮膚(0.04)、肝臓(0.02)、腸管(0.01)、血球(0.00)、血漿(0.00)

標識体	投与量 (投与方法)	性別	168 時間後
	180 mg/kg 体重/日 (反復経口)	雄	皮膚(0.18)、カーカス(0.09)、肝臓(0.01)、腸管(0.01)、 血球(0.00)、血漿(0.00)
		雌	皮膚(0.13)、カーカス(0.08)、肝臓(0.02)、腸管(0.01)、 血球(0.00)、血漿(0.00)
[tfm- <sup>14</sup> C] メフェント リフルコナ ゾール	180 mg/kg 体重 (単回経口)	雄	カーカス(0.107)、肝臓(0.023)、全血(0.013)、血漿 (0.008)
		雌	カーカス(0.096)、肝臓(0.031)、全血(0.006)、血漿 (0.004)

注) 数値は 4 例の平均値。胃及び腸管はいずれも内容物を除く。

### ③ 代謝

分布試験 [ 1. (1)② ] で得られた血漿、肝臓、腎臓及び脂肪、排泄試験 [ 1. (1)④a. 及び b. ] で得られた尿、糞及び胆汁並びに [chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール及び [tfm-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールを低用量又は高用量で単回経口投与し、168 又は 170 時間後に採取した尿、糞又は血漿、肝臓、腎臓及び脂肪を試料として、代謝物同定・定量試験が実施された。

血漿、肝臓、腎臓及び脂肪中の主要代謝物は表 5 に、尿、糞及び胆汁中の主要代謝物は表 6 に示されている。

血漿、肝臓及び腎臓中における主要成分として、未変化のメフェントリフルコナゾールのほか、代謝物 F015 及び F016/F017 が認められた。

尿及び胆汁中において、未変化のメフェントリフルコナゾールは検出されず、主要代謝物として、尿中では、 [chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール投与群では F049、F050 及び F063 が、 [taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール投与群では F001、F054 及び F071 が、 [tfm-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール投与群では F003/F049、F054 及び F063 が、それぞれ認められた。一方、胆汁中では、全ての標識体投与群で、F035、F044、F045 等が認められた。

糞中では、全ての標識体投与群で、未変化のメフェントリフルコナゾールのほか、F015 及び F016/F017 が認められた。

糞中の未変化のメフェントリフルコナゾールの立体異性体 (*S* 及び *R*-エナンチオマー) の存在比 (以下「*R* : *S* 比」という。) は約 1 : 1 であり、投与液中とほぼ同様であったが、肝臓、腎臓及び血漿中では *R* : *S* 比は 7 : 3 ~ 8 : 2 であり、*R* 体の増加が認められた。

ラットにおけるメフェントリフルコナゾールの主要代謝経路は、①クロロフェニル環の塩素転移及び水酸化による F015 の生成並びに水酸化による F016 及び F017 の生成とそれに続くグルクロン酸抱合体の生成、②トリアゾール環の脱離による F001 (1,2,4-トリアゾール) の生成と考えられた。そのほか、芳香環のジ及びトリ水酸化、クロロフェニル環塩素基置換、エーテル結合の開裂、メチル化等と、それらに続く抱合により多数の代謝物が生成すると考えられた。(参照 2、

1 5)

2

3

表5 血漿、肝臓、腎臓及び脂肪中の主要代謝物(%TAR)

標識体	投与量 (投与方法)	性別	試料	総残留 放射能 ( $\mu\text{g/g}$ )	メフェン トリフル コナゾー ル	代謝物
[chl- <sup>14</sup> C] メフェン トリフル コナゾー ル	5 mg/kg 体 重(単回経 口)	雄	血漿	2.70	0.030	ND
			肝臓	11.2	1.66	F015/F055/F067/F078(3.60)、 F016/F017/F061/F078/F089(1.61)、 F049(0.463)
			腎臓	1.70	0.112	F015/F055/F078/その他(0.055)
			脂肪	0.41		
		雌	血漿	1.96	0.007	ND
			肝臓	8.62	1.01	F015/F055/F067/F078(2.36)、 F016/F017/F061/F078/F089(2.07)
			腎臓	2.14	0.106	F015/F055/F078/その他(0.063)、 F016/F017/F061/F078/F089(0.030)
			脂肪	0.95		
	180 mg/kg 体 重(単回経 口)	雄	血漿	97.4	0.052	ND
			肝臓	262	1.88	F015/F055/F067/F078(1.73)、 F016/F017/F061/F078/F089(0.608)
			腎臓	75.8	0.188	F015/F055/F078/その他(0.046)
			脂肪	30.7	0.135	ND
雌		血漿	94.5	0.067	ND	
		肝臓	211	2.03	F015/F055/F067/F078(1.83)、 F016/F017/F061/F078/F089(0.884)、 F049(0.131)	
		腎臓	71.4	0.237	F015/F055/F078/その他(0.042)、 F016/F017/F061/F078/F089(0.015)	
		脂肪	36.8	0.224	ND	
[taz- <sup>14</sup> C] メフェン トリフル コナゾー ル	5 mg/kg 体 重(単回経 口)	雄	血漿	1.94	0.016	F001(0.037)、F015(0.009)
			肝臓	12.2	1.41	F049(0.513)、F015(3.25)、 F016/F017(1.66)
			腎臓	1.73	0.082	F001(0.049)、F015(0.037)、 F049(0.016)、F016/F017(0.012)
			脂肪	0.36		
		雌	血漿	1.36	0.003	F015(0.003)、F001(0.002)
			肝臓	9.48	1.24	F015(2.66)、F016/F017(2.20)
			腎臓	1.83	0.092	F015(0.040)、F016/F017(0.032)、 F054(0.008)
			脂肪	0.49		
	180 mg/kg 体 重(単回経 口)	雄	血漿	47.6	0.025	F001(0.014)、F015(0.003)
			肝臓	163	1.08	F015(0.948)、F016/F017(0.438)
腎臓			41.9	0.130	F015(0.017)、F001(0.007)、 F049(0.005)	

標識体	投与量 (投与方法)	性別	試料	総残留 放射能 ( $\mu\text{g/g}$ )	メフェン トリフル コナゾー ール	代謝物
			脂肪	10.5		
		雌	血漿	36.1	0.026	F001(0.006)、F015(0.006)
			肝臓	132	1.23	F015(0.907)、F016/F017(0.509)
			腎臓	39.5	0.144	F015(0.024)
			脂肪	18.0		

1 ND: 検出されず、/: 該当なし  
2 組織採取は投与1時間後( $T_{\text{max}}$ 付近)

3

4

表6 尿、糞及び胆汁中の主要代謝物 (%TAR)

標識体	投与量 (投与方法)	性別	採取 時間 <sup>a</sup> (hr)	試料	メフェン トリフル コナゾー ール	代謝物
[chl- <sup>14</sup> C] メフェント リフルコナ ゾール	5 mg/kg 体 重 (単回経口)	雄	0-48	尿	ND	F049(2.60)、F058/F081(0.902)
			0-72	糞	4.55	F016/F017(32.1)、F015(25.3)、 F062(3.97)
			0-24	胆汁	ND	F044/F049*/F087*/F035/F045(53.2)、 F084(2.48)、F049/F104(2.39)、 F075*(2.11)、F091(1.90)、F060(0.578)、 F105(0.445)
		雌	0-48	尿	ND	F063*(2.36)、F049(2.16)、F059(1.52)、 F098*(1.31)、F016/F017/F057-異性体 2(0.769)
			0-72	糞	5.44	F015(26.8)、F016/F017(23.6)、 F062(3.66)
			0-24	胆汁	ND	F044/F049*/F087*/F035/F045(49.1)、 F084(4.01)、F049/F104(3.07)
	180 mg/kg 体 重 (単回経口)	雄	0-48	尿	ND	F049(0.951)、F083(0.858)、 F050(0.725)、F017(0.596)、 F058/F081(0.500)、F052(0.139)、 F079(0.099)
			0-168	尿 <sup>b</sup>	ND	F058(0.760)、F049(0.640)、 F050/F076(0.501)、 F016/F017/F078(0.312)、 F015/F055/F078(0.203) F081(0.067)
			0-72	糞	27.9	F016/F017(23.8)、F015(12.8)
			0-72	糞 <sup>b</sup>	12.7	F016/F017(28.5)、F015(16.7)、 F062(3.03)
			0-24	胆汁	ND	F044/F049*/F087*/F035/F045(22.0)、 F069/F091(4.93)、F049/F104/ F075* (3.15)、F084(2.28)、F105(0.673)、 F060(0.652)

標識体	投与量 (投与方法)	性別	採取 時間 <sup>a</sup> (hr)	試料	メフェン トリフル コナゾール	代謝物	
		雌	0-48	尿	ND	F016/F017/F059(1.05)、F083(0.988)、 F058(0.634)、F015/F057-異性体1 (0.619)、F050(0.468)、F079(0.338)、 F059/F066*/F098/F099-異性体1 (0.092)	
			0-168	尿 <sup>b</sup>	ND	F044/F045/F087*(1.01)、 F016/F017/F061/F078/F089(0.920)、 F057/F066/F073(0.849)、F049(0.530)、 F057/F059/F066/F100(0.529)、 F058/その他(0.383)、 F015/F055/F078(0.330)、 F052/F049(0.228)	
			0-72	糞	21.1	F015(23.4)、F016/F017(17.9)	
			0-72	糞 <sup>b</sup>	7.56	F015(26.5)、F016/F017(20.7)、 F062(3.77)	
			0-24	胆汁 1	ND	F044/F049*/F087*/F035/F045(37.5)、 F084(1.16)、F069(0.392)、F015(0.139)	
		胆汁 2		ND	F044/F049*/F087*/F035/F045(45.4)、 F069(5.48)、F084(0.929)、 F075*(0.563)、F049/F104(0.532)		
		180 mg/kg 体 重/日 (反復経口)	雄	0-48	尿	ND	F082/F083(1.10)、F016/F017(0.715)、 F050(0.675)、F052(0.476)、 F049(0.450)、F015/F058/F067(0.369)、 F079(0.231)
				0-72	糞	19.6	F016/F017(31.7)、F015(21.0)
			雌	0-48	尿	ND	F059*/F066*/F082/F098/F099*(2.59)、 F063/F079/F087(2.22)、 F052/F049(0.906)、 F038/F066/F083/F098(0.763)、 F050(0.661)、F016/F017/その他 (0.656)、F043(0.298)
				0-72	糞	15.5	F015(30.2)、F016/F017(29.1)
[taz- <sup>14</sup> C] メフェント リフルコナ ゾール	5 mg/kg 体 重 (単回経口)	雄	0-48	尿	ND	F001(20.0)、F071(6.70)、F054(4.34)、 F003/F049(3.12)	
			0-72	糞	3.08	F016/F017(21.7)、F015(10.2)、 F062*(6.85)、F003(4.32)	
			0-15	胆汁	ND	F016/F017(12.3)、 F035/F045/F049(12.2)、F075*(10.5)、 F044/F049(10.4)、F015(9.49)、 F003/F049(7.04)、F091(3.32)、 F054(1.49)、F001(0.203)	

標識体	投与量 (投与方法)	性別	採取 時間 <sup>a</sup> (hr)	試料	メフェン トリフル コナゾール	代謝物	
		雌	0-48	尿	ND	F049(3.74)、F001(3.19)、F054(2.71)、 F063*(1.76)、F016/F017(1.32)、 F059(0.596)、F015(0.412)、 F098*(0.359)	
			0-72	糞	1.38	F015(41.0)、F016/F017(26.5)、 F062*(6.19)、F003(4.31)	
			0-21	胆汁	ND	F044/F49/F087(24.0)、 F035/F045/FF049*(17.5)、F015(9.97)、 F016/F017(6.51)、F003/F049(5.50)、 F075*(5.19)、F091(3.31)、F084(1.57)、 F054(0.71)、F001(0.040)	
		雄	180 mg/kg 体 重 (単回経口)	0-48	尿	ND	F001(9.58)、F071(2.06)、F003(1.53)、 F054(1.13)
				0-170	尿 <sup>b</sup>	ND	F001(10.5)、F054(2.28)、F071(2.02)、 F049(0.962)、
				0-72	糞	25.8	F016/F017(23.8)、F015(13.9)、 F003(1.80)
				0-72	糞 <sup>b</sup>	35.2	F016/F017(20.0)、F015(11.3)、 F003(1.37)
				0-24	胆汁	ND	F044/F049/F087(13.0)、 F035/F045/F049*(12.1)、F075*(5.45)、 F091(3.96)、F016/F017(3.13)、 F015(3.02)、F003/F049(1.82)、 F054(0.609)、F001(0.232)
				0-48	尿	ND	F001(3.10)、F054(1.46)、 F003/F049(1.10)、 F016/F017/F059(1.06)、 F063/F087(0.733)、F059(0.601)、 F098*(0.505)、F015(0.402)
	雌	0-168		尿 <sup>b</sup>	ND	F001(3.32)、F054(1.84)、 F044/F087*/F045(1.22)、F073(1.01)、 F049(0.777)、F016/F017(0.649)、 F015(0.309)	
		0-72		糞	29.9	F015(25.5)、F016/F017(18.1)、 F003(3.45)	
		0-72		糞 <sup>b</sup>	30.1	F015(20.4)、F016/F017(15.5)、 F003(1.16)	
		0-24	胆汁	ND	F044/F049*/F087*/F035/F045(30.7)、 F075*(5.44)、F015(3.81)、 F016/F017(2.31)、F091(0.146)、 F001(0.024)		
		180 mg/kg 体	雄	0-48	尿	ND	F001(13.8)、F003(1.86)、F071(1.59)、 F054(0.748)

標識体	投与量 (投与方法)	性別	採取 時間 <sup>a</sup> (hr)	試料	メフェン トリフル コナゾー ル	代謝物
	重/日 (反復経口)		0-72	糞	28.9	F016/F017(20.4)、F015(10.9)、 F003(1.29)
		雌	0-48	尿	ND	F001(7.70)、F054(1.58)、 F003/F049(1.37)、F016/F017(1.04)、 F015(0.380)、F098*(0.349)
			0-72	糞	23.9	F016/F017(20.0)、F015(19.9)、 F003(1.09)
[tfm- <sup>14</sup> C] メフェン トリフル コナゾー ル	180 mg/kg 体 重 (単回経口)	雄	0-72	尿	ND	F063(2.66)、F063/F087(2.57)、 F016/F017(1.91)、F015(1.16)、 F091(0.841)、F054(0.410)
			0-168	尿	ND	F071*(3.05)、F003/F049(2.84)、 F054(1.65)、F015(0.680)、 F016/F017(0.400)
			0-72	糞	17.2	F016/F017(29.0)、F015(14.7)、 F003(2.45)
			0-24	胆汁	ND	F044/F087(21.5)、 F035/F045/F049(18.8)、 F069/F085(6.93)、F084(2.07)、 F049(1.81)、F015(1.45)、F075*(1.30)、 F069(0.606)、F054(0.551)
		雌	0-72	尿	ND	F035/F044/F045/F065/F087*(4.25)、 F016/F017/F089(1.89)、 F015/F067(0.974)、F091(0.779)、 F003/F049/F108(0.609)、F054(0.479)
			0-168	尿	ND	F054(2.07)、F003/F049(2.07)、 F059/F098(1.95)、F016/F017(1.45)、 F098(0.845)、F015(0.680)、 F063*/F087(0.632)
			0-72	糞	21.1	F015(30.2)、F016/F017(21.8)、 F003(2.58)
			0-24	胆汁	ND	F044/F049*/F087/F035/F045(47.6)、 F069*/F085(3.62)、F049(3.26)、 F110(1.64)、F075(0.484)

1 ND : 検出されず、\* : 異性体を含む

2 <sup>a</sup> : 反復経口投与群では最終投与後

3 <sup>b</sup> : 排泄試験[1. (1)④a.]で得られた試料

4

#### 5 ④ 排泄

##### 6 a. 尿及び糞中排泄

7 Wistar Hannover ラット (一群雌雄各 4 匹) に[chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナ  
8 ザール若しくは[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールを低用量若しくは高用量  
9 で単回経口投与又は高用量で 14 日間反復投与した。また、[tfm-<sup>14</sup>C]メフェント  
10 リフルコナゾールを高用量で単回経口投与し、尿及び糞中排泄試験が実施された。

1 単回及び反復経口投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率は、表 7 に示されている。  
 2 いずれの投与群においても排泄は速やかで、投与放射能は投与後 48 時間で糞  
 3 中には 49.0%TAR～80.6%TAR が、尿中には 3.97%TAR～34.9%TAR が排泄さ  
 4 れた。（参照 2～4）

5  
6

表 7 経口投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率 (%TAR)

標識体	試料	単回経口投与						反復経口投与	
		5 mg/kg 体重		180 mg/kg 体重				180 mg/kg 体重	
		雄	雌	雄	雌	雄 <sup>b</sup>	雌 <sup>b</sup>	雄	雌
[chl- <sup>14</sup> C] メフェント リフルコナ ゾール	尿	8.95	12.2	6.22	8.06	4.59	6.70	5.05	10.6
	糞	88.9	87.7	86.9	85.5	78.0	70.0	86.3	80.4
	ケージ 洗浄液	0.320	0.674	0.432	0.924	0.38	0.79	0.280	0.629
	組織 <sup>a</sup>	0.381	0.206	0.222	0.232			0.164	0.119
[taz- <sup>14</sup> C] メフェント リフルコナ ゾール	尿	41.0	15.3	18.7	10.6	16.0	9.87	22.6	16.6
	糞	58.8	87.0	81.3	90.1	82.7	82.5	73.8	82.1
	ケージ 洗浄液	0.60	0.18	0.11	0.55	1.36	1.28	0.47	0.30
	組織 <sup>a</sup>	1.15	0.32	0.22	0.15			0.29	0.24
[tfm- <sup>14</sup> C] メフェント リフルコナ ゾール	尿			9.61	10.2				
	糞			75.7	84.5				
	ケージ 洗浄液			1.07	1.60				
	組織 <sup>a, b</sup>			0.165	0.144				

7 /: 該当なし  
 8 a: 消化管の内容物を除く。  
 9 b: 排泄試料調製試験として雌雄各 10 匹で実施された。

10

## 11 b. 胆汁中排泄

12 胆管カニューレを挿入した Wistar Hannover ラット（雌雄各 2～7 匹）に  
 13 [chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール若しくは[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナ  
 14 ザールを低用量若しくは高用量で単回経口投与又は[tfm-<sup>14</sup>C]メフェントリフル  
 15 コナゾールを高用量で単回経口投与して、胆汁中排泄試験が実施された。

16 投与後 72 又は 168 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率は表 8 に示されている。

17 胆汁排泄率は、低用量群で 61.4%TAR～73.5%TAR、高用量群で 31.9%TAR  
 18 ～59.6%TAR であり、標識体及び性別による差は認められなかった。

19 本試験並びに尿及び糞中排泄試験 [1.(1)④a.]における糞中排泄率から、  
 20 投与放射能は主に胆汁を介して糞中に排泄されると考えられた。（参照 2～4）

21

22

表 8 経口投与後 72 又は 168 時間の尿及び糞中排泄率 (%TAR)

標識体	試料	単回経口投与
-----	----	--------

		5 mg/kg 体重		180 mg/kg 体重	
		雄	雌	雄	雌
[chl- <sup>14</sup> C]メフェントリフルコナゾール <sup>a</sup>	胆汁	67.0	61.4	31.9	40.0/53.6*
	尿	10.1	18.4	34.4	15.5/10.2*
	糞	6.83	6.43	11.4	4.39/16.7*
	ケージ洗浄液	0.220	0.287	0.492	0.246/ 0.191*
	組織 <sup>#</sup>	0.195	0.158	0.177	0.054/ 0.074*
[taz- <sup>14</sup> C]メフェントリフルコナゾール <sup>b</sup>	胆汁	71.0	73.5	41.6	46.1
	尿	11.3	10.4	6.55	10.7
	糞	13.6	7.96	37.9	24.2
	ケージ洗浄液	0.51	0.26	0.30	0.72
	組織 <sup>#</sup>	0.90	0.61	1.30	1.24
[tfm- <sup>14</sup> C]メフェントリフルコナゾール <sup>a</sup>	胆汁			58.6	59.6
	尿			11.3	10.7
	糞			30.7	26.7
	ケージ洗浄液			0.575	0.250
	組織 <sup>#</sup>			0.149	0.078

1 /: 該当なし  
2 試料採取時間は、a: 経口投与後 168 時間、b: 72 時間  
3 #: 消化管の内容物を除く  
4 \*: n=2 及び 3 で 2 回に分けて実施  
5

## 6 (2) マウス

7 C57BL/6 マウス（一群雌雄各 4~5 匹）に[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール  
8 を 10、50 及び 75 mg/kg 体重で単回経口投与して、血中濃度推移が検討され  
9 た。

10 血漿中薬物動態学的パラメータは表 9 に示されている。

11 経口投与後の[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールは速やかに吸収され、血漿  
12 中放射能はほとんどの群で投与 0.5~1 時間後に C<sub>max</sub> に達した。一方、10 mg/kg  
13 体重投与群の雄及び 50 mg/kg 体重投与群の雌では投与 8 時間で C<sub>max</sub> に達した。  
14 10 mg/kg 体重投与群の雌、50 mg/kg 体重投与群の雄、75 mg/kg 体重投与群の  
15 雌雄で、投与後 3~8 時間に複数のピークが認められ、腸肝循環していると考え  
16 られた。

17 C<sub>max</sub> 及び AUC は用量の増加に伴って増加したが、C<sub>max</sub> の増加は用量比以下で  
18 あった。T<sub>1/2</sub> は用量の増加に伴って短くなる傾向が認められた。また、顕著な性  
19 差は認められなかった。（参照 2、6）  
20

21 表 9 マウス血漿中薬物動態学的パラメータ

投与量	10 mg/kg 体重	50 mg/kg 体重	75 mg/kg 体重
-----	-------------	-------------	-------------

性別	雄		雌		雄		雌		雄 <sup>1)</sup>			雌	
T <sub>max</sub> (hr)	8	1	4*	1	8*	8	0.5	3*	8**	0.5	8*		
C <sub>max</sub> (μg/g)	5.66	3.98	5.31*	19.8	19.2*	17.2	24.8	26.0*	26.9**	21.5	24.6*		
T <sub>1/2</sub> (hr) 最終消失相	80.4	54.2		65.2		40.1	31.8			34.6			
AUC <sub>0-168</sub> (hr・μg/g)	147	126		687		475	955			1,010			
AUC <sub>0-∞</sub> (hr・μg/g)	151	127		694		478	958			1,010			

1 数値は 4 匹の平均、ただし、<sup>1)</sup>は 5 匹の平均値

2 \*: 第 2 ピーク、\*\*第 3 ピーク

### 3 (3) ヤギ

5 泌乳ヤギ（ブリティッシュザーネン種、一群雌 1～2 頭）に[chl-<sup>14</sup>C]メフェン  
6 トリフルコナゾール、[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール又は[tfm-<sup>14</sup>C]メフェ  
7 ントリフルコナゾールを 20.7～21.2 mg/日/頭（12 mg/kg 飼料相当）の用量で 14  
8 又は 12 日間カプセル経口投与して、動物体内運命試験が実施された。乳汁は 1  
9 日 2 回、尿及び糞は 1 日 1 回、各臓器及び組織は最終投与 23 時間後に、それぞ  
10 れ採取された。

11 臓器及び組織並びに乳汁中の残留放射能濃度は表 10 に、各試料中の代謝物は  
12 表 11 に示されている。

13 投与放射能は尿及び糞中に 73.8%TAR～76.5%TAR 排出された。乳汁中の残留  
14 放射能濃度は投与後 4～7 日で定常状態となり、乳汁への移行は 0.25%TAR～  
15 2.16%TAR であった。臓器及び組織中の残留放射能濃度は、肝臓で最も高く、  
16 0.650～1.33 μg/g 認められた。

17 乳汁、乳脂肪及び無脂肪乳中の主要成分として、[chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコ  
18 ナゾール及び[tfm-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール投与群では、未変化のメフェ  
19 ントリフルコナゾールのほか、10%TRR を超える代謝物として F041、F043 及  
20 び F072 が、[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール投与群では代謝物 F001 が  
21 10%TRR を超えて認められた。

22 臓器及び組織中の主要成分として、未変化のメフェントリフルコナゾールのほ  
23 か、10%TRR を超える代謝物として、[chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール及  
24 び[tfm-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール投与群では、F016（肝臓）、F022（腎  
25 臓）、F038（肝臓及び腎臓）、F038/F064（腎臓）及び F068（腎臓）が、[taz-<sup>14</sup>C]  
26 メフェントリフルコナゾール投与群では F001（筋肉、肝臓及び腎臓）及び F016  
27 （肝臓）が認められた。

28 尿、糞及び胆汁中の主要成分として、糞中で未変化のメフェントリフルコナ  
29 ザールが認められたほか、代謝物 F001、F003、F015/F043、F016、F022、F038、  
30 F038/F042、F038/F064 及び F063 等が認められた。

また、臓器及び組織並びに乳脂肪中の未変化のメフェントリフルコナゾールの  $R:S$ 比は  $7:3 \sim 8:2$  であり、投与液中に比べて  $R$ 体の増加が認められた。

メフェントリフルコナゾールのヤギにおける主要代謝経路は、①クロロフェニル環の水酸化による F016 及び F017 の生成とそれに続く水酸化体又はグルクロン酸抱合体の生成、②クロロフェニル環の塩素転移及び水酸化による F015 の生成とそれに続くグルクロン酸抱合体の生成、③トリアゾール環の脱離による F022 及び F001 (1,2,4-トリアゾール) の生成とそれに続く F022 のグルクロン酸抱合体及び硫酸抱合体の生成並びに酸化による F038 の生成と考えられた。(参照 2、7)

表 10 組織及び乳汁中の残留放射能濃度 ( $\mu\text{g/g}$ )

試料	[chl- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾール	[taz- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾール	[tfm- $^{14}\text{C}$ ]メフェントリフルコナゾール
乳汁	0.029(0.25)	0.273(2.16)	0.062(0.35)
無脂肪乳	0.016	0.270	0.036
乳脂肪	0.207	0.289	0.521
筋肉	側腹部	(0.02)	(0.07)
	腰部	(0.01)	(0.03)
	合計 <sup>a</sup>	0.047	0.098
肝臓	1.09(0.40)	0.650(0.25)	1.33(0.52)
腎臓	0.352(0.01)	0.396(0.01)	0.429(0.02)
脂肪	皮下	(0.04)	(0.03)
	大網	(0.21)	(0.12)
	腎周囲	(0.09)	(0.03)
	合計 <sup>b</sup>	0.309	0.213
尿 <sup>c</sup>	4.15(25.9)	2.94(26.9)	5.33(40.2)
糞	5.17(47.9)	3.21(49.6)	5.54(34.5)
胆汁 <sup>c</sup>	7.39(0.02)	3.97(0.02)	11.7(0.22)
消化管内容物	(3.35)	(2.63)	(3.76)
消化管	(1.70)	(1.24)	(1.08)
全血	(<0.01)		(<0.01)
ケージ洗浄液	(0.94)	(0.53)	(0.87)

( ): %TAR、/: 該当なし

a: 腰部と側腹部の筋肉を 2:1 (w/w) の比でプールした試料

b: 大網、皮下及び腎周囲の脂肪を 2:1:1 (w/w/w) の比でプールした試料

c: 直接分析又は燃焼法による測定値 (その他は抽出法による計算値)

表 11 各試料中の代謝物 (%TRR) 永田専門委員コメントに基づき事務局修正

標識体	試料 <sup>a</sup>	総残留放射能 ( $\mu\text{g/g}$ )	メフェントリフルコナゾール <sup>c</sup>	代謝物	抽出残渣 <sup>c</sup>

標識体	試料 <sup>a</sup>	総残留放射能(μg/g)	メフェントリフルコナゾール <sup>c</sup>	代謝物	抽出残渣 <sup>e</sup>
[chl- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	乳汁	0.029	47.5 (0.014)	F043(14.2)、F041(6.0)、 F072(5.9)、F022(2.2)	3.5 (0.001)
	乳脂肪	0.207	75.6 (0.156)	F043(5.3)、F022(4.2)	1.6 (0.003)
	無脂肪乳	0.016	23.3 (0.004)	F043(35.9)、F041(11.2)、 F072(10.4)	4.7 (0.001)
	筋肉	0.047	87.9 (0.042)	F022(6.7)	1.5 (0.001)
	肝臓	1.09	49.9 (0.541)	F016(11.8)、F038(6.5)、 F022(4.8)、F068(3.0)	7.6 (0.083)
	腎臓	0.352	28.3 (0.100)	F038/F064(26.6)、F068(17.8)、 F022(5.8)	2.6 (0.009)
	脂肪	0.307 <sup>b</sup>	84.6 (0.260)	F022(4.5)	
	尿	4.15 <sup>b</sup>	3.0 (0.124)	F038/F042(28.1)、F022(25.4)、 F015/F043(10.1)、F016(7.8)、 F017(4.2)、F039(3.7)、F041(3.7)	
	糞	5.17	57.2 (2.96)	F022(5.5)、F015(4.7)、F016(3.8)、 F038(3.6)、F017(1.5)、F039(0.7)	14.0 (0.723)
	胆汁	7.39 <sup>b</sup>	2.8 (0.206)	F063(26.3)、F038(11.3)、 F022(7.5)、F016(6.3)、F015(5.5)、 F091(3.3)、F039(3.0)、 F017/F078(2.7)	
[taz- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	乳汁	0.273	3.0 (0.008)	F001(78.4)	7.5 (0.020)
	乳脂肪	0.289	15.8 (0.046)	F001(74.5)	2.9 (0.008)
	無脂肪乳	0.270	ND	F001(95.2)	1.3 (0.003)
	筋肉	0.223	11.9 (0.027)	F001(87.3)	0.7 (0.001)
	肝臓	0.650	26.2 (0.170)	F001(誘導体を含む)(31.8)、 F016(10.0)、F068(4.4)	10.1 (0.066)
	腎臓	0.396	10.3 (0.041)	F001(68.1)	1.2 (0.005)
	脂肪	0.213	84.9 (0.180)	F001(4.7)	4.0 (0.008)
	尿	2.94 <sup>b</sup>	ND	F001(69.2)、F003(16.5)、 F015(7.4)、F016(6.9)	
	糞	3.21	49.5 (1.59)	F015(8.9)、F016(8.3)、F003(5.2)、 F001(4.6)、F039(2.8)、F017(2.5)	15.1 (0.486)
	胆汁	3.97 <sup>b</sup>	ND	F063(73.5)、F001(8.0)、 F091(1.9)	

標識体	試料 <sup>a</sup>	総残留放射能 (μg/g)	メフェントリフルコナゾール <sup>c</sup>	代謝物	抽出残渣 <sup>e</sup>
[tfm- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	乳汁	0.062	44.5 (0.028)	F043(25.0)、F041(7.2)、 F072(5.8)、F022(1.2)	1.9 (0.001)
	乳脂肪	0.521	80.3 (0.419)	F043(12.3)、F022(5.2)	0.3 (0.001)
	無脂肪乳	0.036	13.9 (0.005)	F043(36.8)、F041(12.4)、 F072(9.8)	3.7 (0.001)
	筋肉	0.098	95.7 (0.094)	ND	1.2 (0.001)
	肝臓	1.33	46.7 (0.622)	F016(15.0)、F038(11.2)、 F022(7.6)、F068(4.2)	6.5* (0.086)
	腎臓	0.429	46.0 (0.198)	F038(14.0)、F022(10.7)、 F016(3.7)、F003(3.2)、F072(3.0)、 F015(2.6)	1.8 (0.008)
	脂肪	0.532	88.1 (0.469)	F022(5.8)	0.5 (0.003)
	尿	5.33 <sup>b</sup>	ND	F038/F064(47.1)、F063(26.6)、 F016(3.5)、F015(2.3)	
	糞	5.54	26.6 (1.47)	F016(13.8)、F015(8.8)、 F022(8.7)、F038(6.2)、F003(3.0)、 F017(2.9)、F039(2.1)	15.7 (0.868)
	胆汁	11.7 <sup>b</sup>	1.8 (0.213)	F063(58.3)、F091(2.7)、 F016(0.7)、F015(0.5)	

( ) : μg/g — ND : 検出されず、/ : 該当なし又は測定ミス

a : 脂肪は皮下、腎周囲及び大網脂肪の混合試料。尿及び糞は投与後 5 日のプール試料。乳汁及び乳脂肪は投与 72~96 時間後のプール試料。

b : 直接分析又は燃焼法による測定値 (その他は抽出法による計算値)

c : ( ) 内は μg/g 永田専門委員コメントに基づき事務局修文

\* : 溶媒抽出後の残渣の値が測定されていないため、プロテアーゼ処理後の残渣の値を記載

#### 【永田専門委員より】

(網掛け部) この単位は未変化体と抽出残渣に対してであり、代謝物の括弧内の値は%TRR なので、記載を変えた方がよい。

#### (4) ニワトリ

産卵鶏 (ローマン ブラウン種、一群雌 10 羽) に [chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール、[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール又は [tfm-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールを 19.0~20.1 mg/日/羽 (12 mg/kg 飼料相当) の用量で 14 日間カプセル経口投与して、動物体内運命試験が実施された。卵は 1 日 2 回、排泄物は 1 日 1 回、各臓器及び組織は最終投与 3~6 時間後に、それぞれ採取された。

臓器及び組織並びに卵 (卵黄及び卵白) 中の残留放射能濃度は表 12 に、各試料中の代謝物は表 13 に示されている。

投与放射能の 75.3%TAR~88.9%TAR が排泄物中に認められた。卵中並びに臓

器及び組織中の残留放射能は、0.23%TAR～0.72%TAR 及び 0.23%TAR～0.29%TAR であった。卵白及び卵黄中の残留放射能濃度は、投与 7 日後に定常状態に達し、それぞれ最大で 0.012～0.415 µg/g 及び 0.322～0.666 µg/g であった。

卵中並びに臓器及び組織中で 10%TRR を超える代謝物として、[chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール及び[tfm-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール投与群では、F022（卵黄、筋肉、肝臓、腎臓及び脂肪）、F023（脂肪）、F023/F024/F025（卵黄）、F024（卵黄及び脂肪）、F024/F025（卵黄、筋肉及び脂肪）、F025（脂肪）及び F034（肝臓）が認められた。[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール投与群では、いずれの試料においても F001 が 10%TRR を超えて認められた。

排泄物中の主要成分として、未変化のメフェントリフルコナゾールが認められた。

卵黄及び脂肪中の未変化のメフェントリフルコナゾールの *R* : *S* 比はいずれも約 1.32 : 1 で、投与液中に比べて *R* 体がやや増加する傾向が認められた。

ニワトリにおけるメフェントリフルコナゾールの主要代謝経路は、①トリアゾール環の離脱による F022 及び F001（1,2,4-トリアゾール）の生成、②F022 の脂肪酸抱合による F023、F024 及び F025 の生成、③クロロフェニル環の水酸化及びエポキシ化反応並びにそれに続くグルタチオン抱合による F034 の生成と考えられた。（参照 2、8）

表 12 組織及び卵中の残留放射能濃度 (µg/g)

試料	投与開始 後時間 (hr)	[chl- <sup>14</sup> C]メフェン トリフルコナゾール		[tfm- <sup>14</sup> C]メフェン トリフルコナゾール		[taz- <sup>14</sup> C]メフェン トリフルコナゾール		
		卵白	卵黄	卵白	卵黄	卵白	卵黄	
卵	0～24	0.004	0.001	0.003	0.001	0.119	0.052	
	24～48	0.009	0.043	0.008	0.039	0.260	0.138	
	96～120	0.012	0.334	0.013	0.384	0.314	0.234	
	168～192	0.009	0.595	0.0014	0.622	0.363	0.301	
	168～288	0.008 (0.01)	0.281 (0.22)	0.010 (0.02)	0.571 (0.28)	0.386 (0.55)	0.263 (0.17)	
脂肪	皮下	0.507(0.05)		1.17(0.02)		0.124(0.01)		
	大網	0.805(0.08)		1.07(0.08)		0.054(<0.00)		
	腎周囲	0.798(<0.00)		0.673(<0.00)		0.125(<0.00)		
	合計 <sup>a</sup>	0.679		1.23		0.183		
肝臓	最終投与 3～6 時間 後	0.307(0.06)		0.611(0.13)		0.146(0.03)		
腎臓		0.431(0.01)		0.612(0.01)		0.590(0.01)		
筋肉		胸部	0.038(0.01)		0.046(0.02)		0.356(0.16)	
		腿部	0.091(0.02)		0.137(0.03)		0.306(0.07)	
		合計 <sup>a</sup>	0.054		0.078		0.377	
胆汁		(0.01)		(0.02)		(<0.00)		

試料	投与開始 後時間	[chl- <sup>14</sup> C]メフェン トリフルコナゾール	[tfm- <sup>14</sup> C]メフェン トリフルコナゾール	[taz- <sup>14</sup> C]メフェン トリフルコナゾール
全血		(<0.00)	(<0.00)	(<0.00)
部分形成卵		(0.08)	(0.14)	(0.09)
消化管		(0.63)	(0.64)	(0.95)
消化管内容物		(0.51)	(1.77)	(0.67)
排泄物		(75.3)	(86.6)	(88.9)
ケージ洗浄液		(2.53)	(2.61)	(2.37)

( ): %TAR

a : 各組織全体のプール試料

1  
2  
3  
4

表13 各試料中の代謝物 (%TRR) 永田専門委員コメントに基づき事務局修正

標識体	試料	総残留 放射能 ( $\mu\text{g/g}$ )	メフェント リフルコナ ゾール <sup>b</sup>	代謝物	抽出残渣 <sup>b</sup>
[chl- <sup>14</sup> C] メフェント リフルコナ ゾール	卵白 <sup>a</sup>	0.009	—	—	—
	卵黄①	0.477	6.5 (0.031)	F022(39.0)、 F024/F025(11.4)、 F024(10.6)、F023(2.6)、 F025(0.7)	6.1 (0.029)
	卵黄②				9.1 (0.043)
	筋肉	0.050	5.6 (0.003)	F022(49.9)、 F024/F025(11.5)、 F023(8.0)	21.5 (0.011)
	肝臓①	0.320	7.2 (0.023)	F022(36.7)、F034(4.3)、 F025(3.8)、F023(2.0)、 F024(1.1)	14.6 (0.047)
	肝臓②				14.5 (0.046)
	腎臓①	0.427	4.0 (0.017)	F022(20.1)、F023(1.7)、 F025(1.4)、F024(0.8)	14.5 (0.062)
	腎臓②				12.9 (0.055)
	脂肪	0.702	5.4 (0.038)	F024/F025(27.4)、 F022(25.4)、F023(23.7)、 F025(14.2)、F024(13.3)	0.7~ 1.4(0.005 ~0.010)
	排泄物	2.92	28.6 (0.835)	F022(3.1)	29.0 (0.847)
[tfm- <sup>14</sup> C] メフェント リフルコナ ゾール	卵白 <sup>a</sup>	0.005	—	—	—
	卵黄	0.618	11.5 (0.071)	F022(46.7)、 F023/F024/F025(10.4)、 F024(9.0)、F023(5.3)、 F025(0.6)	5.1 (0.032)
	筋肉①	0.066	7.4 (0.005)	F022(77.1)、F023(5.8)、 F024/F025(4.0)	2.8 (0.002)

標識体	試料	総残留放射能 (μg/g)	メフェントリフルコナゾール <sup>b</sup>	代謝物	抽出残渣 <sup>b</sup>
	筋肉②				3.5 (0.002)
	肝臓①	0.582	5.8 (0.034)	F022(29.3)、F034(20.1)、 F024/F025(8.0)、 F023(3.6)	5.6 (0.033)
	肝臓②				7.4 (0.043)
	腎臓	0.610	3.7 (0.022)	F022(20.1)	6.3 (0.038)
	脂肪①	0.893	11.7 (0.104)	F022(41.1)、F023(27.5)、 F025(15.5)、F024(6.1)	0.1 (0.001)
	脂肪②				0.3 (0.002)
[taz- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	卵白	0.357	ND	F001(83.2)	0.2 (0.001)
	卵黄	0.269	43.7 (0.117)	F001(41.4)	2.6 (0.007)
	筋肉	0.353	ND	F001(91.4)	1.4 (0.005)
	肝臓	0.480	3.7 (0.018)	F001(85.2)、F034(6.7)	3.3 (0.016)
	腎臓	0.565	ND	F001(65.6)	2.0 (0.011)
	脂肪	0.190	20.1 (0.038)	F001(73.1)	3.2 (0.006)
	排泄物	6.34	—	—	15.2 (0.962)

( ) : μg/g、ND : 検出されず、— : 該当なし

a : 放射エネルギーが少ないため抽出・分析されず

b : ( ) 内はμg/g 永田専門委員コメントに基づき事務局修文

## 2. 植物体内運命試験

### (1) 小麦

ポット栽培の小麦（品種：Thassos）に、乳剤に調製した[chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール又は[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールを 150 g ai/ha の用量で、BBCH49 及び 69 にそれぞれ 1 回、計 2 回散布し、初回散布 15 日後（BBCH61）に未成熟茎葉部を、2 回目散布 35 日後（最終収穫時、BBCH89）にわら及び穀粒を採取して、植物体内運命試験が実施された。

小麦の各部位における放射能分布及び代謝物は表 14 に示されている。

残留放射能濃度は、わらで最も高く、穀粒への残留は僅かであった。未成熟茎葉及びわらにおける主要成分は未変化のメフェントリフルコナゾールであり、[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール処理区の穀粒で、代謝物 F029 及び F030 が 10%TRR を超えて認められた。ほかに代謝物 F001、F009、F010、F012、

F018、F019、F020 及び F021 が認められたが、いずれも 10%TRR 未満であった。また、未成熟茎葉及びわら中の未変化のメフェントリフルコナゾールの R:S 比は約 1:1 であり、処理溶液中とほぼ同様であった。(参照 2、9)

表 14 小麦の各部位における放射能分布及び代謝物 (%TRR)

永田専門委員コメントに基づき事務局修正

標識体	試料	総残留放射能 (mg/kg)	抽出液 <sup>a</sup>	抽出残渣 <sup>a</sup>	メフェントリフルコナゾール <sup>a、b</sup>	代謝物 <sup>b</sup>
[chl- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	未成熟茎葉	2.38	95.2 (2.26)	4.8 (0.114)	84.4 (2.01)	F012/F021(2.0)、 F018/F020(1.6)、F019* (0.1)
	わら	24.4	83.0 (20.2)	17.0 (4.14)	58.6 (14.3)	F018/F020(6.9)、F019* (5.8)、F012/F021(4.9)、 F018(2.9)、F012(0.6)
	穀粒	0.062	43.9 (0.027)	56.1 (0.035)	ND	ND
[taz- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	未成熟茎葉	2.31	96.0 (2.22)	4.0 (0.092)	89.3 (2.06)	F018/F020(1.6)、 F012/F021(1.1)
	わら	14.0	86.4 (12.1)	13.6 (1.90)	68.4 (9.57)	F018(5.5)、F019* (4.8)、 F018/F020(4.3)、 F012/F021(3.4)、 F009(1.2)、F010(1.3)、 F012(0.1)
	穀粒	0.620	77.9 (0.483)	22.1 (0.137)	ND	F029(45.6)、F030(21.4)、 F001(1.0)

(-) : mg/kg、ND : 検出されず

<sup>a</sup> : ( ) 内は mg/kg 永田専門委員コメントに基づき事務局修正<sup>b</sup> : 未成熟茎葉及び穀粒は抽出液中の値、わらは抽出液及び抽出残渣中の合計値

\* : 異性体を含む

## (2) だいず

ポット栽培のだいず (品種 : Sultana) に、乳剤に調製した [chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール又は [taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールを 125 g ai/ha の用量で、BBCH60、72 及び 77 にそれぞれ 1 回、計 3 回散布し、初回散布 19 日後 (BBCH71~72) に未成熟茎葉部を、最終収穫時である 3 回目散布 47 日後 ([chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール処理区) 又は 48 日後 ([taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール処理区) (BBCH89) に茎葉部 (残部植物体)、さや (子実及び外皮) 及び緑色さやを採取して、植物体内運命試験が実施された。

だいずの各部位における放射能分布及び代謝物は表 15 に示されている。

残留放射能濃度は残部植物体、緑色さや、未成熟茎葉及び外皮でそれぞれ 16.5~19.3 mg/kg、8.72~16.0 mg/kg、4.61~6.58 mg/kg 及び 3.84~4.12 mg/kg 認められた。子実中の残留放射能濃度は [taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール処理

1 区試料では 3.06 mg/kg、[chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール処理区では 0.129  
2 mg/kg と、標識体間で差が認められた。

3 子実を除く各試料において、主要成分として未変化のメフェントリフルコナ  
4 ザールが認められた。ほかに代謝物 F012 及び F018/F020 が認められたが、いず  
5 れも 10%TRR 未満であった。

6 子実では、[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール処理区において、代謝物 F029  
7 が 10%TRR を超えて認められた。ほかに代謝物 F001 及び F031 が認められたが、  
8 いずれも 10%TRR 未満であった。また、未成熟茎葉、外皮及び残部植物体中の  
9 未変化のメフェントリフルコナゾールの R : S 比は約 1 : 1 であり、処理溶液中  
10 とほぼ同様であった。(参照 2、10)

11  
12 表 15 だいたいの各部位における放射能分布及び代謝物 (%TRR)

13 永田専門委員コメントに基づき事務局修正

標識体	試料	総残留放射能 (mg/kg)	抽出液 <sup>a</sup>	抽出残渣 <sup>a</sup>	メフェントリフルコナゾール <sup>a, b</sup>	代謝物 <sup>b</sup>
[chl- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	未成熟茎葉	6.58	91.1 (5.99)	8.9 (0.587)	79.9 (5.26)	F012* (<4.0)、 F018/F020(1.9)
	残部植物体	16.5	87.1 (14.3)	12.9 (2.13)	59.8 (9.85)	F012* (6.0)、 F018/F020(4.5)
	緑色さや	8.72	83.4 (7.27)	16.6 (1.45)	68.5 (5.98)	F018/F020(3.9)、 F012(2.2)
	外皮	3.84	68.7 (2.64)	31.3 (1.20)	82.8 (3.18)	F012* (0.4)、 F018/F020(<0.1)
	子実	0.129	56.6 (0.073)	43.4 (0.056)	4.0 (0.005)	ND
[taz- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	未成熟茎葉	4.61	93.3 (4.30)	6.7 (0.307)	79.1 (3.65)	F012* (3.6)、 F018/F020(2.1)
	残部植物体	19.3	87.8 (16.9)	12.2 (2.34)	71.1 (13.7)	F018/F020(3.8)、 F012* (3.1)
	緑色さや	16.0	78.0 (12.5)	22.0 (3.52)		
	外皮	4.12	74.2 (3.06)	25.8 (1.06)	79.0 (3.26)	F012* (1.2)
	子実	3.06	75.6 (2.32)	24.4 (0.747)	0.4 (0.013)	F029(47.7)、 F031(1.3)、F001(0.3)

14 ( ) : mg/kg、-/ : 該当なし、ND : 検出されず

15 <sup>a</sup> : ( ) 内は mg/kg 永田専門委員コメントに基づき事務局修正

16 <sup>b</sup> : 抽出液及び抽出残渣中の合計値 (ただし、緑色さやは抽出液中の値)

17 \* : 異性体を含む

18

## 1 (3) ぶどう

2 ぶどう（品種：Müller-Thurgau）に、乳剤に調製した[chl-<sup>14</sup>C]メフェントリ  
3 フルコナゾール又は [taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールを 150 g ai/ha の用量  
4 で、10～11 日間隔で 3 回全面散布処理し、最終処理直前（第 1 回処理 21 日後）  
5 及び最終収穫時（BBCH89、第 3 回処理 12 日後）にぶどうの葉及び房（果実及  
6 び小果梗）を採取して、植物体内運命試験が実施された。

7 ぶどうの各部位における放射能分布及び代謝物は表 16 に示されている。

8 残留放射能濃度は葉で最も高く（7.31～7.37 mg/kg）、果実で最も低かった  
9 （0.349～0.428 mg/kg）。各試料中の主要成分として、未変化のメフェントリフ  
10 ルコナゾールのほか、葉において代謝物 F019（異性体を含む）が 10%TRR を超  
11 えて認められた。また、果実及び葉中の未変化のメフェントリフルコナゾールの  
12 *R*：*S*比は約 1：1 であり、処理溶液中とほぼ同様であった。（参照 2、11）

13  
14 表 16 ぶどうの各部位における放射能分布及び代謝物（%TRR）

標識体	試料	総残留放射能 (mg/kg)	抽出液	抽出液			抽出残渣
				メフェントリフルコナゾール	F019*	F026	
[chl- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	葉	7.37	89.0 (6.56)	60.1 (4.43)	21.1 (1.55)	1.3 (0.097)	11.0 (0.813)
	小果梗	0.648	94.1 (0.610)	85.8 (0.556)	2.3 (0.015)	ND	5.9 (0.038)
	果実 <sup>a</sup>	0.349	88.7 (0.310)	64.1 (0.224)	7.0 (0.024)	ND	
			87.4 (0.332)				12.6 (0.048)
[taz- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	葉	7.31	91.0 (6.66)	69.9 (5.11)	14.5 (1.06)	ND	9.0 (0.654)
	小果梗	1.14	92.6 (1.05)	91.5 (1.04)	ND	ND	7.4 (0.084)
	果実 <sup>a</sup>	0.428	90.1 (0.385)	70.3 (0.301)	6.1 (0.026)	ND	
			87.5 (0.318)				12.5 (0.045)

15 ( ) : mg/kg、ND : 検出されず、/ : 該当なし

16 <sup>a</sup> : 1 回目抽出試料では抽出残渣量が少なく測定ができなかったため、2 回目の抽出を実施

17 \* : 異性体を含む

18  
19 植物体内におけるメフェントリフルコナゾールの主要代謝経路は、①クロロ  
20 フェニル環の水酸化及びトリアゾール環の脱離による F001（1,2,4-トリアゾール）  
21 の生成とそれに続く F029（トリアゾールアラニン）及び F030（トリアゾール  
22 酢酸）の生成、②クロロフェニル環の水酸化体のグルコース抱合による F019

の生成とそれに続くマロニル化体、水酸化体及び糖抱合体の生成、③プロピリアゾール部位の水酸基のグルコース抱合による F011 の生成とそれに続く糖抱合体の生成であると考えられた。

### 3. 土壌中運命試験<sup>2</sup>

#### (1) 好氣的土壌中運命試験

砂壤土（ドイツ）及び壤土（米国）を最大容水量の約 40%となるよう水分含量を調整し、20±2℃の暗所条件下で 6～7 日間プレインキュベートした後、[chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール、[taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール又は[tfm-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールを 0.4 mg/kg 乾土（150 g ai/ha 相当）の用量で混合し、同条件下で 120～121 日間インキュベートして、好氣的土壌中運命試験が実施された。

好氣的土壌における放射能分布及び分解物は表 17 に示されている。

土壌中の放射能は、処理直後の 99.0%TAR～99.5%TAR から処理 120～121 日後には 65.7%TAR～82.4%TAR となった。抽出残渣中の放射能は処理 120～121 日後に最大 12.7%TAR～26.7%TAR、<sup>14</sup>CO<sub>2</sub> は最大 9.7%TAR 認められた。

主要成分は未変化のメフェントリフルコナゾールであり、分解物として F001 及び F003 が最大 5.1%TAR 及び 1.6%TAR 認められた。また、各土壌試料中の未変化のメフェントリフルコナゾールの R:S 比は約 1:1 であり、処理溶液中とほぼ同様であった。

好氣的土壌におけるメフェントリフルコナゾールの分解は緩やかであり、推定半減期は砂壤土で 544～1,000 日以上、壤土で 202～475 日と算出された。

好氣的土壌におけるメフェントリフルコナゾールの主要分解経路は、トリアゾール環の脱離による分解物 F001（1,2,4-トリアゾール）及びクロロフェニル環の脱離による F003 の生成であり、その後土壌残渣に結合又は CO<sub>2</sub> へ無機化されると考えられた。（参照 2、12、13）

表 17 好氣的土壌における放射能分布及び分解物（%TAR）

標識体	供試土壌	処理後日数（日）	抽出画分	メフェントリフルコナゾール			<sup>14</sup> CO <sub>2</sub>	抽出残渣
				メフェントリフルコナゾール	F001	F003		
[chl- <sup>14</sup> C]メフェントリフルコナゾール	砂壤土	0	99.0	98.2				1.0
		14	94.3	93.4			0.8	4.9
		30	90.9	90.0			1.5	7.0
		62	86.9	86.1			2.6	10.0
		90	84.4	83.2			3.6	11.4
		121	82.4	80.8			4.7	12.7

<sup>2</sup> 土性は USDA 分類に基づく。

標識体	供試 土壌	処理後 日数 (日)	抽出 画分	メフェント リフルコナ ゾール	F001	F003	<sup>14</sup> CO <sub>2</sub>	抽出 残渣
	壤土	0	99.2	98.3				0.8
		14	89.2	88.0			1.7	6.8
		30	83.2	81.9			3.3	10.7
		90	71.6	69.6			7.6	17.0
		120	65.7	63.3			9.7	19.5
[taz- <sup>14</sup> C] メフェントリ フルコナゾー ル	砂壤土	0	99.1	98.9	0.1	ND		0.9
		14	93.7	93.0	0.1	0.6	0.1	5.5
		30	91.5	90.3	0.2	0.5	0.1	8.2
		90	84.8	84.0	0.4	0.2	0.2	14.9
		121	81.9	81.2	0.5	ND	0.2	17.9
	壤土	0	99.5	99.2	0.2	ND		0.5
		14	94.6	91.3	1.8	1.4	0.1	7.0
		30	86.9	83.1	2.6	1.2	0.2	12.6
		90	74.9	68.6	5.1	0.9	0.4	23.7
		120	73.3	67.4	4.9	0.8	0.5	26.7
[tfm- <sup>14</sup> C] メフェントリ フルコナゾー ル	壤土	0	99.5	97.7		ND		0.5
		14	92.6	88.6		1.4	0.6	8.2
		30	87.5	83.0		1.6	1.4	12.5
		90	74.1	68.6		1.3	4.5	21.2
		121	70.1	64.9		1.2	5.7	24.0

1 /: 該当なし、ND: 検出されず

2

3 **4. 水中運命試験**4 **(1) 加水分解試験**

5 pH 4 (クエン酸/HCl 緩衝液)、pH 5 (クエン酸/NaOH 緩衝液)、pH 7 (リ  
6 ン酸緩衝液) 及び pH 9 (ホウ酸/KCl/NaOH 緩衝液) の各滅菌緩衝液に、[taz-<sup>14</sup>C]  
7 メフェントリフルコナゾールを 0.3 mg/L の用量で添加し、25°C の暗所条件下で  
8 30 日間インキュベートして、加水分解試験が実施された。

9 いずれの処理区においてもメフェントリフルコナゾールは安定で、試験終了時  
10 に加水分解は認められず、5% TAR を超える分解物は認められなかった。また、  
11 各試料中の未変化のメフェントリフルコナゾールの *R*:*S* 比は約 1:1 であり、  
12 処理溶液中とほぼ同様であった。(参照 2、14)

13

14 **(2) 水中光分解試験**

15 pH 7 の滅菌ホウ酸緩衝液に[chl-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾール又は  
16 [taz-<sup>14</sup>C]メフェントリフルコナゾールを 0.7 mg/L の用量で添加し、キセノンラ  
17 ンプ光 (光強度: 571 W/m<sup>2</sup>、波長: 290 nm 以下をフィルターでカット) を 25  
18 ±1°C で最長 15 日間照射して、水中光分解試験が実施された。また、暗所対照区  
19 が設定された。

1 各光照射区における分解物は表 18 に示されている。  
 2 メフェントリフルコナゾールは速やかに分解され、光照射による主要分解物は  
 3 F005、F006 及び F007 で、それぞれ最大 30.1%TAR～32.2%TAR、30.2%TAR  
 4 ～30.7%TAR 及び 36.1%TAR～43.9%TAR 認められた。ほかに微量成分として  
 5 F002、F008 等が認められた。<sup>14</sup>CO<sub>2</sub>は検出されなかった。また、未変化のメフェ  
 6 ントリフルコナゾールの R:S比は約 1:1 であり、処理溶液中とほぼ同様であっ  
 7 た。

8 暗所対照区において、メフェントリフルコナゾールの顕著な分解は認められな  
 9 かった。

10 メフェントリフルコナゾール、分解物 F005 及び F006 の半減期は、東京春の  
 11 太陽光換算値でそれぞれ 2.3、34.8 及び 12.4 日であった。

12 水中におけるメフェントリフルコナゾールの主要光分解経路は、①プロピル部  
 13 位の環化による F006 の生成及びクロロフェニル環塩素の水酸基置換による  
 14 F005 の生成、②F006 のクロロフェニル環の塩素の水酸基置換又は転移による  
 15 F007 又は F008 の生成、③F005 及び F007 のクロロフェニル環の脱離による  
 16 F002 及び F003 の生成と考えられた。（参照 2、15）

17  
 18

表 18 各光照射区における分解物 (%TAR)

標識体	試料採取時期	メフェントリフルコナゾール	分解物					
			F002	F003	F005	F006	F007	F008
[chl- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	0日	98.2	/	/	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ
	1日	66.1	/	/	12.1	11.2	<LOQ	1.7
	3日	41.1	/	/	23.3	21.8	3.5	2.9
	6日	20.5	/	/	29.7	29.0	11.6	5.4
	9日	9.7	/	/	30.1	30.7	18.5	5.4
	13日	3.0	/	/	27.0	24.9	32.2	7.0
	15日	1.8	/	/	28.6	21.7	36.1	5.7
[taz- <sup>14</sup> C] メフェントリフルコナゾール	0日	100	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ
	1日	67.7	<LOQ	<LOQ	12.3	12.5	1.1	1.3
	3日	35.7	0.5	1.2	25.4	24.1	5.0	4.1
	6日	15.2	1.5	1.1	32.2	30.2	15.0	5.2
	9日	5.3	1.8	1.3	30.8	28.9	25.1	6.2
	13日	1.6	3.2	0.6	25.9	22.7	38.5	7.3
	15日	0.9	3.3	1.5	24.6	21.0	43.9	6.1

19 /: 該当なし、<LOQ: 定量限界未満

20

## 21 5. 土壌残留試験

22 土壌残留試験については、参照した資料に記載がなかった。

23

## 6. 作物等残留試験

### (1) 作物残留試験

海外において、米、大豆、りんご等を用いて、メフェントリフルコナゾール並びに代謝物 F001、F029、F030 及び F031 を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。

結果は別紙 3 に示されている。

メフェントリフルコナゾールの最大残留値は、最終散布当日に収穫されたタルトチェリー（果実）の 2.43 mg/kg であった。代謝物の最大残留値は、F001 では、最終散布 21 日後に収穫されたソルガム（穀粒）、いんげんまめ（乾燥子実）、なたね（種子）及びレモン（果実）の 0.02 mg/kg、F029 では、最終散布 14 日後に収穫されたらっかせい（子実）の 8.88 mg/kg、F030 では、最終散布 21 日後に収穫された大麦（穀粒）の 0.27 mg/kg、F031 では、最終散布 14 日後に収穫されたらっかせい（子実）の 0.90 mg/kg であった。（参照 2、16～28）

### (2) 畜産物残留試験

#### ① ウシ

泌乳牛 [ホルスタイン、フリージンアン及びエアシャーの交雑種、一群雌 3 頭] をメフェントリフルコナゾール 1.57、7.49、49.0、141 及び 148 mg/kg 飼料の用量<sup>3</sup>で 1 日 1 回、28 日間カプセル経口投与して、メフェントリフルコナゾール並びに代謝物 F001、F022、F029、F030 及び F031 を分析対象化合物とした畜産物残留試験が実施された。

結果は別紙 4-①に示されている。

乳汁中において、メフェントリフルコナゾール及び代謝物 F001 はそれぞれ投与 3 及び 5 日で定常状態に達し、最大残留値は、それぞれ 148 mg/kg 飼料投与群における 0.37 µg/g 及び 141 mg/kg 飼料投与群における 0.33 µg/g であった。いずれの投与群においても、代謝物 F022、F029 及び F030 は定量限界 (0.01 µg/g) 付近又は未満であり、F031 は検出されなかった。

投与 21 日における乳脂肪及び無脂乳中の最大残留濃度は、メフェントリフルコナゾールでそれぞれ 148 mg/kg 飼料投与群における 2.16 µg/g 及び 141 mg/kg 飼料投与群における 0.10 µg/g、代謝物 F001 でそれぞれ 141 mg/kg 飼料投与群における 0.29 及び 0.31 µg/g、代謝物 F022 で 148 mg/kg 飼料投与群における 0.11 µg/g（乳脂肪）であった。代謝物 F030 及び F031 は全ての試料において検出されなかった。

臓器及び組織中におけるメフェントリフルコナゾール及び代謝物の最大残留値は、いずれも 141 mg/kg 飼料投与群で認められ、それぞれメフェントリフルコナゾールで 3.58 µg/g（肝臓）、代謝物 F001 で 0.39 µg/g（腎臓）、代謝物 F022

<sup>3</sup> 148 mg/kg 投与群は最終投与 3、7 及び 14 日後にと殺され、乳汁並びに臓器及び組織が採取された。

1 で0.21 µg/g(腎周囲脂肪)、代謝物F029で0.78 µg/g(肝臓)、代謝物F030  
2 で0.04 µg/g(腎臓)であった。代謝物F031はいずれの試料においても検出され  
3 なかった。臓器及び組織中におけるメフェントリフルコナゾール及び代謝物の残  
4 留濃度は、筋肉、肝臓及び腎臓中のF029を除き、休薬14日目には定量限界(0.01  
5 µg/g)付近又は未満となった。(参照2、29)

## 7 ② ニワトリ

8 産卵鶏[ISA brown、一群12羽(対照群のみ9羽)]にメフェントリフルコ  
9 ナゾールを0.18、1.7、5.1、17.3及び17.2 mg/kg飼料の用量<sup>4</sup>で1日1回、34  
10 日間カプセル経口投与して、メフェントリフルコナゾール並びに代謝物F001、  
11 F022、F029、F030及びF031を分析対象化合物とした畜産物残留試験が実施さ  
12 れた。

13 結果は別紙4-②に示されている。

14 卵中において、メフェントリフルコナゾール並びに代謝物F001及びF022の  
15 残留濃度は投与14日で定常状態に達し、最大残留値はそれぞれ17.3 mg/kg飼料  
16 投与群における0.04、0.10及び0.09 µg/gであった。代謝物F029、F030及び  
17 F031は、いずれの投与群においても定量限界(0.01 µg/g)未満であった。投与  
18 24日における卵黄中の最大残留濃度は、いずれも17.3 mg/kg飼料投与群で認め  
19 られ、メフェントリフルコナゾールで0.09 µg/g、代謝物F001で0.05 µg/g、代  
20 謝物F022で0.02 µg/gであった。卵白中の最大残留濃度は、代謝物F001が17.3  
21 mg/kg飼料投与群における0.09 µg/gであり、メフェントリフルコナゾール及び  
22 他の代謝物はいずれも定量限界未満であった。

23 臓器及び組織中におけるメフェントリフルコナゾール及び代謝物の最大残留  
24 値は、いずれも17.3 mg/kg飼料投与群で認められ、それぞれメフェントリフル  
25 コナゾールで0.25 µg/g(脂肪)、代謝物F001で0.12 µg/g(肝臓)、代謝物F022  
26 で0.36 µg/g(脂肪)、代謝物F029で0.03 µg/g(肝臓)であった。代謝物F030  
27 及びF031はいずれの試料においても定量限界(0.01 µg/g)未満であった。

28 卵並びに臓器及び組織中におけるメフェントリフルコナゾール及び代謝物の  
29 残留濃度は休薬7日目には定量限界(0.01 µg/g)付近又は未満となった。(参照  
30 2、30)

## 7. 一般薬理試験

33 一般薬理試験については、参照した資料に記載がなかった。

<sup>4</sup> 17.2 mg/kg投与群は最終投与2、7及び14日後にと殺され、卵並びに臓器及び組織が採取された。

## 8. 急性毒性試験

## (1) 急性毒性試験

メフェントリフルコナゾール（原体）を用いた急性毒性試験が実施された。  
結果は表 19 に示されている。（参照 2、31～33）

表 19 急性毒性試験結果概要（原体）

投与経路	動物種	LD <sub>50</sub> (mg/kg 体重)		観察された症状
		雄	雌	
経口 <sup>a</sup>	Wistar Hannover ラット 雌 6 匹	/		投与量：2,000 mg/kg 体重 うずくまり、一般状態不良及び立毛 死亡例なし
経皮 <sup>b</sup>	Wistar Hannover ラット 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	症状及び死亡例なし
吸入 <sup>c</sup>	Wistar Hannover ラット 雌雄各 5 匹	LC <sub>50</sub> (mg/L)		努力呼吸、腹式呼吸、呼吸音、眼周囲の乾性分泌物、赤色及び無色鼻汁及び/又は鼻の赤色痂皮、一般状態不良、円背位、興奮性亢進、無排便及び立毛(暴露 2 時間～11 日) 死亡例なし
		>5.31	>5.31	

/ : 該当なし

<sup>a</sup> : 毒性等級法による評価。溶媒として、コーン油が用いられた。<sup>b</sup> : 24 時間閉塞貼付<sup>c</sup> : 4 時間暴露（ダストエアロゾル）

代謝物 F022 を用いた急性経口毒性試験が実施された。

結果は表 20 に示されている。（参照 2、34）

表 20 急性経口毒性試験概要（代謝物 F022）

動物種	LD <sub>50</sub> (mg/kg 体重)	観察された症状
	雌	
Wistar Hannover ラット 雌 6 匹	>2,000	投与量：2,000 mg/kg 体重 一般状態不良、立毛、うずくまり、無気力及び呼吸困難 死亡例なし

毒性等級法による評価。溶媒として、コーン油が用いられた。

## (2) 急性神経毒性試験（ラット）

Wistar Hannover ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた単回強制経口（原体：0、200、600 及び 2,000 mg/kg 体重、溶媒：1%CMC 水溶液）投与による急性神

1 経毒性試験が実施された。

2 神経病理組織学的検査において、検体投与による影響は認められなかった。

3 本試験において、2,000 mg/kg 体重投与群の雌雄で投与当日に協調性障害（不  
4 安定歩行）及び自発運動量減少が、同投与群の雄で前肢握力低下、着地時後肢間  
5 距離増加及び体重増加抑制（投与 1～8 日）が認められたことから、無毒性量は  
6 雌雄とも 600 mg/kg 体重であると考えられた。急性神経毒性は認められなかった。  
7 （参照 2、35）

9 **9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験**

10 メフェントリフルコナゾール（原体）の NZW ウサギを用いた眼及び皮膚刺激性  
11 試験が実施された。その結果、眼結膜における発赤、浮腫及び分泌物が認められた  
12 が、いずれも軽度で 48 時間又は 72 時間後までに回復した。皮膚刺激性は認められ  
13 なかった。

14 Hartley モルモットを用いた皮膚感作性試験（Maximization 法）が実施され、  
15 結果は陽性であった。（参照 2、36～38）

17 **10. 亜急性毒性試験**

18 <亜急性毒性試験におけるメフェントリフルコナゾールの血漿中濃度について>

19 ラット及びイヌを用いた 90 日間亜急性毒性試験[10.（1）及び（3）]において、メ  
20 フェントリフルコナゾールの血漿中濃度には、雌雄とも投与量比と同等又はそれ以  
21 上の増加が認められ、代謝酵素によるメフェントリフルコナゾールの代謝過程の飽  
22 和が考えられた。

24 **（1）90 日間亜急性毒性試験（ラット）**

25 Wistar Hannover ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌（原体：0、400、  
26 1,200 及び 3,600 ppm：平均検体摂取量は表 21 参照）投与による 90 日間亜急性  
27 毒性試験が実施された。また、投与 25 日、46 日及び 67 日に全動物から眼窩静  
28 脈採血して、メフェントリフルコナゾールの血漿中濃度が測定された（血漿中濃  
29 度は表 22 参照）。

31 **表 21 90 日間亜急性毒性試験（ラット）の平均検体摂取量**

投与群		400 ppm	1,200 ppm	3,600 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	27.2	76.3	256
	雌	30.4	90.5	314

33 **表 22 メフェントリフルコナゾールの血漿中濃度 (ng/mL)**

採取日 (日)	雄			雌		
	400 ppm	1,200 ppm	3,600 ppm	400 ppm	1,200 ppm	3,600 ppm

25	110	740	4,470	182	1,030	7,940
46	119	546	2,650	116	1,140	6,930
67	53.9	320	1,700	136	722	4,750

1 数値は 10 匹の平均  
2

3 各投与群で認められた毒性所見は表 23 に示されている。

4 本試験において、1,200 ppm 以上投与群の雌雄で ALP 増加等が認められたこ  
5 とから、無毒性量は雌雄とも 400 ppm（雄：27.2 mg/kg 体重/日、雌：30.4 mg/kg  
6 体重/日）であると考えられた。（参照 2、39）  
7

8 表 23 90 日間亜急性毒性試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
3,600 ppm	・ 体重増加抑制(投与 1 週以降)	・ 体重増加抑制(投与 1 週以降) ・ ALP 及び T.Chol 増加 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">松本専門委員コメントに基づき事務局修正</span> ・ TP 及び Alb 減少 ・ 肝比重量増加 ・ 小葉中心性肝細胞肥大 <sup>§</sup>
1,200 ppm 以上	・ ALP 増加 ・ 肝比重量増加 ・ 小葉中心性肝細胞肥大 <sup>§</sup>	・ ALP 増加
400 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

9 <sup>§</sup>：統計学的検定は実施されていないが、検体投与の影響と考えられた。  
10

11 **【松本専門委員より】**

12 表 23 の雌に ALP 増加が 2 か所あります。ご確認ください。

13 **(2) 90 日間亜急性毒性試験（マウス）<sup>5</sup>**

14 C57BL/6J マウス（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌（原体：0、10、50、250  
15 及び 750 ppm：平均検体摂取量は表 24 参照）投与による 90 日間亜急性毒性試  
16 験が実施された。  
17

18 表 24 90 日間亜急性毒性試験（マウス）の平均検体摂取量

投与群		10 ppm	50 ppm	250 ppm	750 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	2	11	58	174
	雌	3	15	67	211

19 各投与群で認められた毒性所見は表 25 に示されている。

20 本試験において、50 ppm 以上投与群の雄及び 250 ppm 以上投与群の雌で肝絶

<sup>5</sup> 18 か月間発がん性試験（マウス）[11. (3)]の予備試験として実施され、機能検査、尿検査及び眼科学的検査が行われていないが、動物数のほか、その他の検査項目はガイドラインを充足していることから、評価資料とした。

1 対及び比重量増加、小葉中心性/び慢性肝細胞肥大及び T.Chol 減少が認められた  
2 ことから、無毒性量は雄で 10 ppm (2 mg/kg 体重/日)、雌で 50 ppm (15 mg/kg  
3 体重/日) であると考えられた。(参照 2、40)

5 表 25 90 日間亜急性毒性試験（マウス）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
750 ppm	・体重増加抑制(投与 4 週以降) ・ALP 増加	・PLT 増加 ・肝細胞壊死(多巣性、被膜下) <sup>§</sup>
250 ppm 以上	・PLT 増加 ・肝単細胞壊死 <sup>§</sup> 及び細胞質変化 <sup>§、a</sup>	・肝絶対及び比重量増加 ・び慢性肝細胞肥大 <sup>§</sup> ・T.Chol 減少
50 ppm 以上	・肝絶対及び比重量増加 ・小葉中心性肝細胞肥大 <sup>§</sup> ・T.Chol 減少	50 ppm 以下 毒性所見なし
10 ppm	毒性所見なし	

6 <sup>§</sup> : 統計学的検定は実施されていないが、検体投与の影響と考えられた。

7 <sup>a</sup> : 肝細胞の早期の変性を示唆する変化

9 (3) 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）

10 ビーグル犬（一群雌雄各 5 匹）を用いたカプセル経口（原体：0、15、90 及び  
11 180 mg/kg 体重/日）投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。また、投  
12 与 84 日の投与前及び投与 6 時間後に各投与群の全動物を採血して、メフェント  
13 リフルコナゾールの血漿中濃度が測定された（血漿中濃度は表 26 参照）。

15 表 26 投与 84 日のメフェントリフルコナゾールの血漿中濃度（ng/mL）

採取時期	性別及び投与量(mg/kg 体重/日)					
	雄			雌		
	15	90	180	15	90	180
投与前	202	2,640	5,550	145	985	7,450
投与 6 時間後	1,100	8,250	13,600	890	4,930	14,220

16 数値は 5 匹の平均

18 各投与群で認められた毒性所見は表 27 に示されている。

19 15 mg/kg 体重/日以上投与群の雄及び 90 mg/kg 体重/日以上投与群の雌で小  
20 葉中心性肝細胞好酸性変化が認められたが、15 mg/kg 体重/日投与群の雄及び  
21 90 mg/kg 体重/日投与群の雌では、肝毒性を示唆する血液生化学的パラメータ及  
22 び病理組織学的変化が認められなかったことから、適応性変化であると考えられ  
23 た。

24 本試験において、90 mg/kg 体重/日以上投与群の雄及び 180 mg/kg 体重/日投  
25 与群の雌で小葉中心性肝細胞好酸性変化、ALP 増加等が認められたことから、  
26 無毒性量は雄で 15 mg/kg 体重/日、雌で 90 mg/kg 体重/日であると考えられた。

1 (参照 2、41)

2  
3 表 27 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
180 mg/kg 体重/日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘔吐(投与 2 日)及び飼料摂取遅延(投与 3～10 日)(1 例)</li> <li>・体重増加抑制(投与 1 週以降)</li> <li>・TP 減少</li> <li>・肝比重量増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘔吐(投与 1～2 日、2 例)</li> <li>・体重増加抑制(投与 1 週以降)及び摂餌量減少(投与 1 週)</li> <li>・ALP 増加</li> <li>・TP 減少</li> <li>・小葉中心性肝細胞好酸性変化<sup>a</sup></li> </ul>
90 mg/kg 体重/日 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALP 増加</li> <li>・肝絶対重量増加</li> <li>・小葉中心性肝細胞好酸性変化<sup>a</sup></li> </ul>	90 mg/kg 体重/日以下 毒性所見なし
15 mg/kg 体重/日	毒性所見なし	

4 <sup>a</sup>：酵素誘導による初期変化と考えられた。

5  
6 (4) 28 日間亜急性経皮毒性試験（ラット）

7 Wistar Hannover ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた経皮（原体：0、100、  
8 300 及び 1,000 mg/kg 体重/日、6 時間/日）投与による 28 日間亜急性経皮毒性試  
9 験が実施された。

10 本試験において、いずれの投与群においても毒性影響は認められなかったので、  
11 無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 1,000 mg/kg 体重/日であると考えられた。

12 (参照 2、42)

13  
14 (5) 28 日間亜急性毒性試験（マウス、代謝物 F022）

15 C57BL/6J マウス（一群雌雄各 5 匹）を用いた混餌（代謝物 F022：0、87、872  
16 及び 2,500 ppm：平均検体摂取量は表 28 参照）投与による 28 日間亜急性毒性  
17 試験が実施された。また、投与 15 日朝に各投与群の全動物を採血して、代謝物  
18 F022 の血漿中濃度が測定された（血漿中濃度は表 29 参照）。

19  
20 表 28 28 日間亜急性毒性試験（マウス、代謝物 F022）の平均検体摂取量

投与群		87 ppm	872 ppm	2,500 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	19.5	180	587
	雌	32.2	249	718

21  
22 表 29 投与 15 日の代謝物 F022 の血漿中濃度 (ng/mL)

投与群	87 ppm	872 ppm	2,500 ppm
雄	149	326	261
雌	180	304	641

23 数値は 5 匹の平均

1 代謝物 F022 の血漿中濃度について、投与量の増加と比較して増加の程度が小  
2 さく、吸収の飽和が考えられた。

3 各投与群で認められた毒性所見は表 30 に示されている。

4 872 ppm 投与群の雌で肝絶対及び比重量増加並びに小葉中心性肝細胞肥大が  
5 認められたが、肝毒性を示唆する血液生化学的パラメータの変化及び病理組織学  
6 的变化が認められなかったことから、適応性変化であると考えられた。

7 本試験において、872 ppm 以上投与群の雄及び 2,500 ppm 投与群の雌で肝細  
8 胞壊死等が認められたことから、無毒性量は雄で 87 ppm (19.5 mg/kg 体重/日)、  
9 雌で 872 ppm (249 mg/kg 体重/日) であると考えられた。（参照 2、43）

11 表 30 28 日間亜急性毒性試験（マウス、代謝物 F022）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
2,500 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体重増加抑制(投与 1 週以降)</li> <li>・ ALT 及び ALP 増加</li> <li>・ TP、Alb 及び T.Chol 減少</li> <li>・ 肝絶対重量増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体重増加抑制（投与 1 週以降）</li> <li>・ 摂餌量減少(投与 5～8 日)<sup>§</sup></li> <li>・ ALP 増加</li> <li>・ 肝絶対及び比重量増加</li> <li>・ び慢性肝細胞肥大<sup>§</sup></li> <li>・ 肝細胞壊死(多巣性、1 例)<sup>§</sup></li> </ul>
872 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TG 減少</li> <li>・ 肝比重量増加</li> <li>・ 小葉中心性肝細胞肥大<sup>§、a</sup></li> <li>・ 肝細胞壊死(多巣性)<sup>§</sup></li> </ul>	872 ppm 以下 毒性所見なし
87 ppm	毒性所見なし	

12 §：統計学的検定は実施されていないが、検体投与の影響と考えられた。

13 a：2,500 ppm 投与群では、び慢性に認められた。

## 15 1 1. 慢性毒性試験及び発がん性試験

### 16 (1) 1 年間慢性毒性試験（イヌ）

17 ビーグル犬（一群雌雄各 5 匹）を用いたカプセル経口（原体：0、10、30 及び  
18 150 mg/kg 体重/日）投与による 1 年間慢性毒性試験が実施された。

19 各投与群で認められた毒性所見は表 31 に示されている。

21 表 31 1 年間亜急性毒性試験（イヌ）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
150 mg/kg 体重/日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALP 増加</li> <li>・ Alb、TP 及び Ca 減少</li> <li>・ 肝絶対及び比重量増加</li> <li>・ 小葉中心性/び慢性肝細胞肥大<sup>§2</sup></li> <li>・ 肝細胞好酸性変化<sup>a</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体重増加抑制(投与 1 週以降)</li> <li>・ ALP 増加</li> <li>・ Alb、TP<sup>§1</sup> 及び Ca 減少</li> <li>・ 肝絶対及び比重量増加<sup>§1</sup></li> <li>・ 小葉中心性/び慢性肝細胞肥大<sup>§2</sup></li> <li>・ 肝細胞好酸性変化<sup>a</sup></li> </ul>
30 mg/kg 体重/日 以下	毒性所見なし	毒性所見なし

22 §1：統計学的有意差はないが、検体投与の影響と考えられた。

23 §2：統計学的検定は実施されていないが、検体投与の影響と考えられた。

1 a：酵素誘導による初期変化と考えられた。

2  
3 10 mg/kg 体重/日以上投与群の雌雄で肝細胞好酸性変化が、30 mg/kg 体重/日  
4 以上投与群の雌雄で小葉中心性肝細胞肥大が認められたが、10 及び 30 mg/kg 体  
5 重/日投与群では、肝毒性を示唆する血液生化学的パラメータ及び病理組織学的変  
6 化が認められなかったことから、適応性変化であると考えられた。

7 本試験において、150 mg/kg 体重/日投与群の雌雄で小葉中心性/び慢性肝細胞  
8 肥大、ALP 増加等が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 30 mg/kg 体重/  
9 日であると考えられた。（参照 2、44）

## 11 (2) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）

12 Wistar Hannover ラット（1年間慢性毒性群：一群雌雄各 10 匹、発がん性群：  
13 一群雌雄各 50 匹）を用いた混餌（原体：0、100、600 及び 3,600 ppm：平均検  
14 体摂取量は表 32 参照）投与による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験が実施され  
15 た。

16  
17 表 32 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		100 ppm	600 ppm	3,600 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	1 年間 慢性毒性群	雄	5.9	34.2
		雌	7.5	45.4
	発がん性群	雄	4.6	28.5
		雌	6.4	41.4

18 各投与群で認められた毒性所見は表 33 に示されている。

19 検体投与により発生頻度の増加した腫瘍性病変は認められなかった。

20 本試験において、600 ppm 以上投与群の雄及び 3,600 ppm 投与群の雌で ALP  
21 増加等が認められたことから、無毒性量は雄で 100 ppm（4.6 mg/kg 体重/日）、  
22 雌で 600 ppm（41.4 mg/kg 体重/日）であると考えられた。発がん性は認められ  
23 なかった。（参照 2、45）

24  
25  
26 表 33-1 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）で認められた毒性所見  
27 (非腫瘍性病変)

投与群	雄	雌
3,600 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体重増加抑制(投与 1 週以降)</li> <li>・ PLT 減少</li> <li>・ Glu 減少</li> <li>・ 肝比重量増加</li> <li>・ 小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体重増加抑制(投与 1 週以降)</li> <li>・ PTT 減少</li> <li>・ ALP 及び T.Chol 増加</li> <li>・ Glu、TP 及び Alb 減少</li> <li>・ 肝比重量増加</li> <li>・ 小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>
600 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PTT 減少</li> </ul>	600 ppm 以下

投与群	雄	雌
	・ALP 及び尿素増加	毒性所見なし
100 ppm	毒性所見なし	

1  
2

表 33-2 1 年間慢性毒性群で認められた毒性所見（非腫瘍性病変）

投与群	雄	雌
3,600 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制(投与 1 週以降)</li> <li>・PLT 減少</li> <li>・Glu 減少</li> <li>・肝比重量増加</li> <li>・小葉中心性肝細胞肥大§</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制(投与 1 週以降)</li> <li>・PTT 減少</li> <li>・ALP 増加及び T.Chol 増加</li> <li>・Glu、TP 及び Alb 減少</li> <li>・肝比重量増加</li> <li>・小葉中心性肝細胞肥大§</li> </ul>
600 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTT 減少</li> <li>・ALP 及び尿素増加</li> </ul>	600 ppm 以下 毒性所見なし
100 ppm	毒性所見なし	

3 §：統計学的検定は実施されていないが、検体投与の影響と考えられた。  
4

## 5 (3) 18 か月間発がん性試験（マウス）

6 C56BL/6J マウス（一群雌雄各 50 匹）を用いた混餌（原体：0、20、50、200  
7（雄）及び 250 ppm（雌）：平均検体摂取量は表 34 参照）投与による 18 か月  
8 間発がん性試験が実施された。  
9

10 表 34 18 か月間発がん性試験（マウス）の平均検体摂取量

投与群		20 ppm	50 ppm	200 ppm	250 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	3.5	9.1	36.0	
	雌	4.9	12.6		61.5

11 /：実施されず  
12

13 各投与群で認められた毒性所見は表 35 に示されている。

14 検体投与により発生頻度の増加した腫瘍性病変は認められなかった。

15 本試験において、50 ppm 以上投与群の雄で肝細胞脂肪化（大滴性）等が、雌  
16 で体重増加抑制が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 20 ppm（雄：3.5  
17 mg/kg 体重/日、雌：4.9 mg/kg 体重/日）であると考えられた。発がん性は認め  
18 られなかった。（参照 2、46）  
19

20 表 35 18 か月間発がん性試験（マウス）で認められた毒性所見（非腫瘍性病変）

投与群	雄	雌
250 ppm		<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂餌量減少(投与 6 週以降)</li> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・副腎比重量増加</li> <li>・肝細胞脂肪化(大滴性)</li> <li>・肝単細胞壊死</li> <li>・副腎細胞質好酸性化</li> </ul>

投与群	雄	雌
250 ppm		<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂餌量減少(投与 6 週以降)</li> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・副腎比重量増加</li> <li>・肝細胞脂肪化(大滴性)</li> <li>・肝単細胞壊死</li> <li>・副腎細胞質好酸性化</li> </ul>
200 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制(投与 13 週以降)</li> <li>・副腎絶対及び比重量増加</li> <li>・甲状腺ろ胞細胞過形成(多巣性)</li> <li>・肝小葉中心性好酸性封入体</li> </ul>	
50 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・肝細胞脂肪化(大滴性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制(50 ppm 投与群：投与 34 週以降、250 ppm 投与群：投与 7 週以降)</li> </ul>
20 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

/: 実施されず

## 1 2. 生殖発生毒性試験

### (1) 2 世代繁殖試験 (ラット)

Wistar Hannover ラット（一群雌雄各 25 匹）を用いた混餌（原体：0、25、75 及び 200 mg/kg 体重/日：平均検体摂取量は表 36 参照）投与による 2 世代繁殖試験が実施された。

表 36 2 世代繁殖試験 (ラット) の平均検体摂取量

投与群		25 mg/kg 体重/日	75 mg/kg 体重/日	200 mg/kg 体重/日	
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	24.1	72.2	191
		雌	24.3	72.9	194
	F <sub>1</sub> 世代	雄	23.9	72.1	192
		雌	24.1	72.2	193

各投与群で認められた毒性所見は表 37 に示されている。

200 mg/kg 体重/日投与群の F<sub>1</sub> 雌で着床数が僅かに減少し、その結果、産児数が減少した。

本試験において、75 mg/kg 体重/日以上投与群の親動物で ALP 増加等、200 mg/kg 体重/日投与群の児動物で体重増加抑制等が認められたことから、一般毒性に対する無毒性量は、親動物で 25 mg/kg 体重/日（P 雄：24.1 mg/kg 体重/日、P 雌：24.3 mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub> 雄：23.9 mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub> 雌：24.1 mg/kg 体重/日）、児動物で 75 mg/kg 体重/日（P 雄：72.2 mg/kg 体重/日、P 雌：72.9 mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub> 雄：72.1 mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub> 雌：72.2 mg/kg 体重/日）であると考えられた。

また、200 mg/kg 体重/日投与群で着床数減少等が認められたことから、繁殖能に対する無毒性量は 75 mg/kg 体重/日（P 雄：72.2 mg/kg 体重/日、P 雌：

1 72.9mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub> 雄：72.1 mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub> 雌：72.2 mg/kg 体重/日）で  
2 ありと考えられた。（参照 2、47）

3

4

表 37 2 世代繁殖試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群		親：P、児：F <sub>1</sub>		親：F <sub>1</sub> 、児：F <sub>2</sub>	
		雄	雌	雄	雌
親動物	200 mg/kg 体重/日	・体重増加抑制(投与 1～7 日以降) ・摂餌量減少(投与 1～7 日以降) ・小葉中心性肝細胞肥大 <sup>§</sup>	・体重増加抑制(妊娠 1～8 日以降) ・摂餌量減少(投与 64～70 日以降)	・体重増加抑制 ・摂餌量減少 ・小葉中心性肝細胞肥大 <sup>§</sup>	・体重増加抑制 ・摂餌量減少 ・ALP 及び TG 増加 ・肝比重量増加 ・着床数減少 ・産児数減少
	75 mg/kg 体重/日	・ALP 及び T.Chol 増加 ・肝比重量増加	・ALP 増加 ・肝絶対及び比重量増加	・ALP 増加 ・肝比重量増加	毒性所見なし
	25 mg/kg 体重/日	毒性所見なし	毒性所見なし	毒性所見なし	
児動物	200 mg/kg 体重/日	・低体重、体重増加抑制		・低体重、体重増加抑制	
	75 mg/kg 体重/日以下	毒性所見なし		毒性所見なし	

5 <sup>§</sup>：統計学的検定は実施されていないが、検体投与の影響と考えられた。

6

## 7 (2) 発生毒性試験（ラット）

8 Wistar Hannover ラット（一群雌 25 匹）の妊娠 6～19 日に強制経口（原体：  
9 0、50、150 及び 400 mg/kg 体重/日、溶媒：1%CMC 水溶液）投与して、発生毒  
10 性試験が実施された。

11 本試験において、400 mg/kg 体重/日投与群の母動物で体重増加抑制（妊娠 10  
12 ～13 日以降）及び摂餌量減少（妊娠 8～10 日以降）が認められ、胎児ではいずれ  
13 の投与群でも検体投与の影響は認められなかったことから、無毒性量は母動物で  
14 150 mg/kg 体重/日、胎児で本試験の最高用量 400 mg/kg 体重/日であると考えら  
15 れた。催奇形性は認められなかった。（参照 2、48）

16

## 17 (3) 発生毒性試験（ウサギ）

18 NZW ウサギ（一群雌 27～33 匹）の妊娠 6～28 日に強制経口（原体：0、5、  
19 15 及び 25 mg/kg 体重/日<sup>6</sup>、溶媒：1%CMC 水溶液）投与して、発生毒性試験が  
20 実施された。

<sup>6</sup> 非妊娠ウサギを用いた予備試験①において、50 mg/kg 体重/日以上投与群で体重及び摂餌量減少並びに無/低排便等が認められたこと、妊娠ウサギを用いた予備試験②において、妊娠 6～28 日に投与した結果、20 mg/kg 体重/日投与群で検体投与による影響が認められなかったことから、最高用量が 25 mg/kg 体重/日と設定された。

1 本試験において、5 mg/kg 体重/日投与群及び 15 mg/kg 体重/日投与群の母動物  
2 それぞれ 1 例で流産が認められたが、自然発生的な所見であり、検体投与による  
3 影響ではないと考えられた。

4 本試験において、母動物及び胎児とも検体投与の影響は認められなかったこと  
5 から、無毒性量は本試験の最高用量 25 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇  
6 形性は認められなかった。(参照 2、49)

### 8 13. 遺伝毒性試験

9 メフェントリフルコナゾール(原体)の細菌を用いた復帰突然変異試験、マウス  
10 リンパ腫由来細胞(L5178Y TK<sup>+/+</sup>)を用いた *in vitro* 遺伝子突然変異試験、チャイ  
11 ニーズハムスター肺由来細胞(V79)及びヒト末梢血リンパ球を用いた *in vitro* 小  
12 核試験並びにマウスを用いた *in vivo* 小核試験が実施された。

13 結果は表 38 に示されている。

14 全ての試験において陰性であったことから、メフェントリフルコナゾールに遺伝  
15 毒性はないものと考えられた。(参照 2、50~56)

16  
17 表 38 遺伝毒性試験結果概要(原体)

試験	対象	処理濃度・投与量	結果
<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験① <i>Salmonella typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537 株) <i>Escherichia coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	1.0~5,000 µg/プレート(+/-S9)	陰性
	復帰突然変異試験② <i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	1.0~5,000 µg/プレート(+/-S9)	陰性
	遺伝子突然変異試験① マウスリンパ腫由来細胞 (L5178Y TK <sup>+/+</sup> )	3.75~45 µg/mL(4時間処理: +/-S9) 7.5~60.0 µg/mL(24時間処理: -S9) (48時間培養後標本作製)	陰性
	遺伝子突然変異試験② マウスリンパ腫由来細胞 (L5178Y TK <sup>+/+</sup> )	3.1~37.5 µg/mL(4時間処理: -S9) 6.3~50.0 µg/mL(4時間処理: +S9) 12.5~62.5 µg/mL(24時間処理: -S9) (48時間培養後標本作製)	陰性
	小核試験 チャイニーズハムスター 肺由来細胞(V79)	1.56~50 µg/mL(+/-S9) (4時間処理) 0.39~12.5 µg/mL(+/-S9) (24時間処理)	陰性
	小核試験 ヒト末梢血リンパ球	2.0~8.2 µg/mL (4時間処理: +/-S9、20時間処理: -S9)	陰性

<i>in vivo</i>	小核試験	NMRI マウス(骨髄細胞) (一群雄各 5 匹)	375、750 及び 1,500 mg/kg 体重 (375 及び 750 mg/kg 体重投与群：単回 経口投与 24 時間後に試料採取、1,500 mg/kg 体重投与群：単回経口投与 24 及 び 48 時間後に試料採取)	陰性
----------------	------	------------------------------	--	----

注) +/-S9：代謝活性化系存在下及び非存在下

代謝物 F022（家畜由来）の細菌を用いた復帰突然変異試験、マウスリンパ腫由来細胞（L5178Y TK<sup>+/+</sup>）を用いた遺伝子突然変異試験及びヒト末梢血リンパ球を用いた小核試験（*in vitro*）が実施された。

結果は表 39 に示されているとおり、全ての試験において陰性であった。（参照 2、57～59）

表 39 遺伝毒性試験結果概要（代謝物 F022）

試験	対象	処理濃度・投与量	結果
<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験 <i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	1.0～1,000 µg/プレート(+/-S9)	陰性
	遺伝子突然変異試験 マウスリンパ腫由来細胞 (L5178Y TK <sup>+/+</sup> )	2.34～100 µg/mL(4 時間処理：+/-S9) 1.56～50.0 µg/mL(24 時間処理：-S9)	陰性
	小核試験 ヒト末梢血リンパ球	10.7～32.7 µg/mL(4 時間処理：+S9) 6.1～18.7 µg/mL(4、20 時間処理：-S9)	陰性

注) +/-S9：代謝活性化系存在下及び非存在下

### 1 III. 食品健康影響評価

2 参照に挙げた資料を用いて、農薬「メフェントリフルコナゾール」の食品健康影  
3 響評価を実施した。

4 <sup>14</sup>Cで標識したメフェントリフルコナゾールのラットを用いた動物体内運命試験  
5 の結果、吸収率は少なくとも低用量群で 77.5%、高用量群で 49.8%と算出された。  
6 残留放射能濃度は、主に消化管、肝臓、副腎及び腎臓で比較的高く認められた。投  
7 与放射能は主に胆汁を介して糞中に排泄され、糞中の主要成分として未変化のメ  
8 フェントリフルコナゾールのほか、代謝物 F015 及び F016/F017 が、胆汁中では  
9 代謝物 F035、F044、F045 等が認められた。尿中の主要成分として、代謝物 F001、  
10 F003/F049 及び F063 が認められた。血漿、肝臓及び腎臓中の主要成分として、未  
11 変化のメフェントリフルコナゾールのほか、代謝物 F015 及び F016/F017 が認め  
12 られた。

13 <sup>14</sup>Cで標識したメフェントリフルコナゾールの畜産動物（ヤギ及びニワトリ）を  
14 用いた体内運命試験の結果、可食部における主要成分として未変化のメフェントリ  
15 フルコナゾールのほか、10%TRR を超える代謝物として F001（1,2,4-トリアゾール  
16 ）及び F022 のほか、ヤギでは F016、F038、F038/F064、F041、F043、F068  
17 及び F072 が、ニワトリでは F023、F024、F025 及び F034 が、それぞれ認められ  
18 た。

19 <sup>14</sup>Cで標識したメフェントリフルコナゾールを用いた植物体内運命試験の結果、  
20 主要成分として未変化のメフェントリフルコナゾールのほか、10%TRR を超える  
21 代謝物として F019（異性体を含む。）、F029（トリアゾールアラニン）及び F030  
22 （トリアゾール酢酸）が認められた。

23 メフェントリフルコナゾール並びに代謝物 F001、F029、F030 及び F031 を分  
24 析対象化合物とした作物残留試験の結果、メフェントリフルコナゾールの最大残留  
25 値はタルトチェリー（果実）の 2.43 mg/kg、代謝物の最大残留値は、F001 では、  
26 ソルガム（穀粒）、いんげんまめ（乾燥子実）、なたね（種子）及びレモン（果実）  
27 の 0.02 mg/kg、F029 では、らっかせい（子実）の 8.88 mg/kg、F030 では、大麦  
28 （穀粒）の 0.27 mg/kg、F031 では、らっかせい（子実）の 0.90 mg/kg であった。

29 メフェントリフルコナゾール並びに代謝物 F001、F022、F029、F030 及び F031  
30 を分析対象化合物とした畜産物残留試験（泌乳牛及び産卵鶏）の結果、泌乳牛の乳  
31 汁中におけるメフェントリフルコナゾール及び代謝物の最大残留値は、それぞれ  
32 148 mg/kg 飼料投与群における 0.37 µg/g 及び 141 mg/kg 飼料投与群における F001  
33 の 0.33 µg/g であった。臓器及び組織中ではいずれも 141 mg/kg 飼料投与群におけ  
34 るメフェントリフルコナゾールの 3.58 µg/g 及び F029 の 0.78 µg/g（いずれも肝臓）  
35 が最大であった。産卵鶏では、メフェントリフルコナゾール及び代謝物の最大残留  
36 値は、卵中ではいずれも 17.3 mg/kg 飼料投与群における 0.04 µg/g 及び F001 の  
37 0.10 µg/g であり、臓器及び組織中ではいずれも 17.3 mg/kg 飼料投与群における  
38 0.25 µg/g 及び F022 の 0.36 µg/g（いずれも脂肪）であった。

1 各種毒性試験結果から、メフェントリフルコナゾール投与による影響は体重（増  
2 加抑制）及び肝臓（肝細胞肥大、肝細胞壊死：マウス）に認められた。神経毒性、  
3 発がん性、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。

4 ラットを用いた 2 世代繁殖試験において、F<sub>1</sub> 親動物の着床数が僅かに減少し、産  
5 児数の減少が認められた。

6 植物体内運命試験及び畜産動物を用いた体内運命試験の結果、10%TRR を超え  
7 る代謝物として、植物では可食部及び家畜の飼料として供される部位において  
8 F029 及び F030、畜産動物では可食部において F001、F016、F022（抱合体を含  
9 む。）、F038、F041 並びにメフェントリフルコナゾール及びその水酸化体の抱合  
10 体が認められた。代謝物 F001、F016 及び F038 はラットにおいて認められ、代謝  
11 物 F041 は F016 を経由して生成されると考えられる。代謝物 F029 及び F030 は  
12 ラットにおいて認められず、植物及び畜産動物を用いた体内運命試験並びに残留試  
13 験の結果、メフェントリフルコナゾールよりも多く認められたが、毒性はメフェン  
14 トリフルコナゾールに比べて弱い（参照 61）。代謝物 F022 について、ラットにお  
15 いて生成する可能性があると考えられたが、ラットを用いた急性毒性試験及びマウ  
16 スを用いた亜急性毒性試験の結果から、毒性はメフェントリフルコナゾールと同程  
17 度又は弱く、メフェントリフルコナゾールに比べて畜産動物（産卵鶏）における残  
18 留値が高かった。

19 以上のことから、農産物中の暴露評価対象物質をメフェントリフルコナゾール  
20 （親化合物のみ）、畜産物中の暴露評価対象物質をメフェントリフルコナゾール及  
21 び代謝物 F022（抱合体を含む。）と設定した。

22 各試験における無毒性量等は表 40 に、単回経口投与等により惹起されると考え  
23 られる毒性影響等は表 41 に示されている。

24 食品安全委員会農薬専門調査会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、  
25 マウスを用いた 90 日間亜急性毒性試験の 2 mg/kg 体重/日であったが、より長期の  
26 18 か月発がん性試験での 3.5 mg/kg 体重/日が、マウスにおける無毒性量としてよ  
27 り適切であると判断した。したがって、食品安全委員会農薬専門調査会は、これを  
28 根拠として、安全係数 100 で除した 0.035 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）  
29 と設定した。

30 また、メフェントリフルコナゾールの単回経口投与等により生ずる可能性のある  
31 毒性影響に対する無毒性量又は最小毒性量のうち最小値は、ラットを用いた急性神  
32 経毒性試験の 600 mg/kg 体重であり、カットオフ値（500 mg/kg 体重）以上であっ  
33 たことから、急性参照用量（ARfD）は設定する必要がないと判断した。

34

ADI	0.035 mg/kg 体重/日
（ADI 設定根拠資料）	発がん性毒性試験
（動物種）	マウス
（期間）	18 か月間

	(投与方法)	混餌
	(無毒性量)	3.5 mg/kg 体重/日
	(安全係数)	100
1	ARfD	設定の必要なし
2		
3	<参考>	
4	<EFSA、2018年>	
	ADI	0.035 mg/kg 体重/日
	(ADI 設定根拠資料)	発がん性試験
	(動物種)	マウス
	(期間)	18 か月間
	(投与方法)	混餌
	(無毒性量)	3.5 mg/kg 体重/日
	(安全係数)	100
5	ARfD	0.15 mg/kg 体重
	(ARfD 設定根拠資料)	発生毒性試験
	(動物種)	ウサギ
	(期間)	妊娠 6～28 日
	(投与方法)	強制経口
	(無毒性量)	15 mg/kg 体重/日
	(安全係数)	100
6		(参照 62)
7		
8	<EPA、2019年>	
	cRfD	0.035 mg/kg 体重/日
	(cRfD 設定根拠資料)	発がん性試験
	(動物種)	マウス
	(期間)	18 か月間
	(投与方法)	混餌
	(無毒性量)	3.5 mg/kg 体重/日
	(不確実係数)	100
9	aRfD	設定の必要なし
	(一般の集団)	
	aRfD	0.73 mg/kg 体重

(13～49 歳の女性)	
(aRfD 設定根拠資料)	繁殖試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 世代
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	73 mg/kg 体重/日
(不確実係数)	100

(参照 63～64)

1  
2

1

表40 各試験における無毒性量等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 <sup>1)</sup>	
ラット	90日間 亜急性 毒性試験	0、400、1,200、 3,600 ppm	雄：27.2 雌：30.4	雄：76.3 雌：90.5	雌雄：ALP 増加等	
		雄：0、27.2、76.3、 256 雌：0、30.4、90.5、 314				
	2年間 慢性毒性 /発がん 性併合 試験	0、100、600、3,600 ppm	雄：4.6 雌：41.4	雄：28.5 雌：312	雌雄：ALP 増加等  (発がん性は認められ ない)	
		雄：0、4.6、28.5、 185 雌：0、6.4、41.4、 312				
2世代 繁殖試験	0、25、75、200	親動物 P 雄：0、24.1、 72.2、191 P 雌：0、24.3、 72.9、194 F <sub>1</sub> 雄：0、23.9、 72.1、192 F <sub>1</sub> 雌：0、24.1、 72.2、193	親動物 P 雄：24.1 P 雌：24.3 F <sub>1</sub> 雄：23.9 F <sub>1</sub> 雌：24.1  児動物 P 雄：72.2 P 雌：72.9 F <sub>1</sub> 雄：72.1 F <sub>1</sub> 雌：72.2  繁殖能 P 雄：72.2 P 雌：72.9 F <sub>1</sub> 雄：72.1 F <sub>1</sub> 雌：72.2	親動物 P 雄：72.2 P 雌：72.9 F <sub>1</sub> 雄：72.1 F <sub>1</sub> 雌：72.2  児動物 P 雄：191 P 雌：194 F <sub>1</sub> 雄：192 F <sub>1</sub> 雌：193  繁殖能 P 雄：191 P 雌：194 F <sub>1</sub> 雄：192 F <sub>1</sub> 雌：193	親動物：ALP 増加等 児動物：体重増加抑制 等  繁殖能：着床数減少等	
		発生毒性 試験	0、50、150、400	母動物：150 胎児：400	母動物：400 胎児：-	母動物：体重増加抑制 及び摂餌量減少 胎児：毒性所見なし  (催奇形性は認められ ない)
		90日間 亜急性 毒性試験	0、10、50、250、 750 ppm	雄：2 雌：15	雄：11 雌：67	雌雄：肝絶対及び比重 量増加、小葉中心性/ び慢性肝細胞肥大及 びT.Chol 減少
			雄：0、2、11、58、 174 雌：0、3、15、67、 211			

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 <sup>1)</sup>
	18か月間 発がん性 試験	雄：0、20、50、 200 ppm 雌：雄：0、20、 50、250 ppm 雄：0、3.5、9.1、 36.0 雌：0、4.9、12.6、 61.5	雄：3.5 雌：4.9	雄：9.1 雌：12.6	雄：肝細胞脂肪化(大 滴性)等 雌：体重増加抑制  (発がん性は認められ ない)
ウサギ	発生毒性 試験	0、5、15、25	母動物：25 胎児：25	母動物：－ 胎児：－	母動物：毒性所見なし 胎児：毒性所見なし  (催奇形性は認められ ない)
イヌ	90日間 亜急性 毒性試験	0、15、90、180	雄：15 雌：90	雄：90 雌：180	雌雄：小葉中心性肝細 胞好酸性変化、ALP 増加等
	1年間 慢性毒性 試験	0、10、30、150	雄：30 雌：30	雄：150 雌：150	雌雄：小葉中心性/び 漫性肝細胞肥大、 ALP 増加等
ADI			NOAEL：3.5 SF：100 ADI：0.035		
ADI 設定根拠資料			マウス 18か月間発がん性試験		

- 1 ADI：許容一日摂取量、NOAEL：無毒性量、SF：安全係数、
- 2 ー：最小毒性量は設定できなかった。
- 3 <sup>1)</sup>：備考には最小毒性量で認められた毒性所見の概要を示した。
- 4

1  
2

表 41 単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重)	無毒性量及び急性参照用量設定に関連するエンドポイント <sup>1)</sup> (mg/kg 体重)
ラット	急性毒性試験	雌：2,000	— うずくまり、一般状態不良及び立毛
	急性神経毒性試験	0、200、600、2,000	雌雄：600 雌雄：協調性障害（不安定歩行）、自発運動量減少等
ARfD			設定の必要なし (カットオフ値 (500 mg/kg 体重) 以上)

3 ARfD：急性参照用量  
4 —：無毒性量は設定できなかった。  
5 <sup>1)</sup>：最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。  
6

1

2 &lt;別紙 1 : 代謝物/分解物略称&gt;

記号	化学名
F001	1,2,4-(1 <i>H</i> )-triazol
F002	6-Hydroxy-3methyl-3-[(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-yl)-2-benzofuran-1(3 <i>H</i> )-one
F003	4-[2-Hydroxy-1-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3-(trifluoromethyl)phenol
F005	4-{4-[2-Hydroxy-1-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3-(trifluoromethyl)phenoxy}phenol
F006	6-(4-Chlorophenoxy)-3-methyl-3-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-ylmethyl)-2-benzofuran-1(3 <i>H</i> )-one
F007	6-(4-Hydroxyphenoxy)-3-methyl-3-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-ylmethyl)-2-benzofuran-1(3 <i>H</i> )-one
F008	6-(5-Chloro-2-hydroxyphenyl)-3-methyl-3-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-ylmethyl)-2-benzofuran-1(3 <i>H</i> )-one
F009	(構造未決定の代謝物)
F010	(構造未決定の代謝物)
F011	2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-1-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-ylhexopyranoside
F012	2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-1-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl 6-O-(carboxyacetyl)hexopyranoside
F015	2-Chloro-4-{4-[2-hydroxy-1-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3-(trifluoromethyl)phenoxy}phenol
F016	2-Chloro-5-{4-[2-hydroxy-1-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3-(trifluoromethyl)phenoxy}phenol
F017	5-Chloro-2-{4-[2-hydroxy-1-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3-(trifluoromethyl)phenoxy}phenol
F018	(構造未決定の代謝物)
F019	(構造未決定の代謝物)
F020	(構造未決定の代謝物)
F021	(構造未決定の代謝物)
F022	2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl] propane-1,2-diol
F023	2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-2-hydroxypropyl (9 <i>Z</i> ,11 <i>E</i> )-octadeca-9,11-dienoate
F024	2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-2-hydroxypropyl (9 <i>Z</i> )-octadeca-9-enoate
F025	2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-2-hydroxypropyl hexadecanoate
F026	(構造未決定の代謝物)
F029	2-Amino-3-(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-yl)propionic acid
F030	(1 <i>H</i> 1,2,4-triazol-1-yl)acetic acid

F031	2-Hydroxy-3-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propanoic acid
F034	gamma-glutamyl- <i>S</i> -(5-Chloro-6-hydroxy-2-{4-[2-hydroxy-1-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3-(trifluoromethyl)phenoxy}cyclohexa-2,4-dien-1-yl)cysteinylglycine
F035	5-Chloro-2-{4-[2-hydroxy-1-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3-(trifluoromethyl)phenoxy}phenyl hexopyranosiduronic acid
F038	(2 <i>R</i> )-2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-2-hydroxypropanoic acid
F039	(2 <i>S</i> )-2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-3-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propane-1,2-diol
F041	3-Chloro-6-{4-[2-hydroxy-1-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3-(trifluoromethyl)phenoxy}cyclohexa-3,5-diene-1,2-diol
F042	2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-2-hydroxy-3-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propanoic acid
F043	2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-2-hydroxypropyl hydrogen sulfate
F044	2-Chloro-4-{4-[2-hydroxy-1-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3-(trifluoromethyl)phenoxy}phenyl hexopyranosiduronic acid
F045	2-Chloro-5-{4-[2-hydroxy-1-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3-(trifluoromethyl)phenoxy}phenyl hexopyranosiduronic acid
F049	(構造未決定の代謝物)
F050	(構造未決定の代謝物)
F052	(構造未決定の代謝物)
F054	(構造未決定の代謝物)
F055	(構造未決定の代謝物)
F057	(構造未決定の代謝物)
F058	4-Chlorophenyl hydrogen sulfate
F059	(構造未決定の代謝物)
F060/F098	(構造未決定の代謝物) (M750F098 は、M750F060 の塩素転移異性体を含む)
F061	(構造未決定の代謝物)
F062	(構造未決定の代謝物)
F063	(構造未決定の代謝物)
F064	(構造未決定の代謝物)
F065	(構造未決定の代謝物)
F066	(構造未決定の代謝物)
F067	(構造未決定の代謝物)
F068	2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-1-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl hexopyranosiduronic acid
F069	(構造未決定の代謝物)
F071	(構造未決定の代謝物)

F072	2-[4-(4-Chlorophenoxy)-2-(trifluoromethyl)phenyl]-2-hydroxy 3-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propyl hydrogen sulfate
F073	2-Chloro-4-{4-[2-hydroxy-1-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)propan-2-yl]-3- (trifluoromethyl)phenoxy}phenyl hydrogen sulfate
F075	(構造未決定の代謝物)
F076	(構造未決定の代謝物)
F078	(構造未決定の代謝物)
F079	(構造未決定の代謝物)
F081	(構造未決定の代謝物)
F082	(構造未決定の代謝物)
F083	(構造未決定の代謝物)
F084	(構造未決定の代謝物)
F085	(構造未決定の代謝物)
F087	(構造未決定の代謝物)
F089	(構造未決定の代謝物)
F091	(構造未決定の代謝物)
F099	(構造未決定の代謝物)
F100	(構造未決定の代謝物)
F104	(構造未決定の代謝物)
F105	(構造未決定の代謝物)
F108	(構造未決定の代謝物)
F110	(構造未決定の代謝物)

## 1 &lt;別紙 2：検査値等略称&gt;

略称	名称
ai	有効成分量 (active ingredient)
Alb	アルブミン
ALP	アルカリフォスファターゼ
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ [=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT) ]
AUC	薬物濃度曲線下面積
BBCH	<b>B</b> iologische <b>B</b> undesanstalt <b>B</b> undessortenamt and <b>C</b> hemical industry 植物 成長の段階を表す
C <sub>max</sub>	最高濃度
CMC	カルボキシメチルセルロース
EFSA	欧州食品安全機関
EPA	米国環境保護庁
Glu	グルコース (血糖)
LC <sub>50</sub>	半数致死濃度
LD <sub>50</sub>	半数致死量
PHI	最終使用から収穫までの日数
PLT	血小板数
PTT	部分トロンボプラスチン時間
T <sub>1/2</sub>	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T.Chol	総コレステロール
TG	トリグリセリド
T <sub>max</sub>	最高濃度到達時間
TP	総タンパク
TRR	総残留放射能

2

## 1 &lt;別紙3：作物残留試験成績(海外)&gt;

## 2 作物名：稲

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031	
米国 2014 年	CL152 (露地)	穀粒	12	294 <sup>EC</sup>	2	21	1.63	<0.01	0.04	0.05	<0.01	
							1.68	<0.01	0.04	0.05	<0.01	
	XL745 Hybrid (露地)	穀粒		295 <sup>EC</sup>	2	23	1.13	<0.01	0.04	0.07	<0.01	
							1.10	<0.01	0.05	0.06	<0.01	
	Che- niere (露地)	穀粒		307 <sup>EC</sup>	2	21	1.86	<0.01	0.02	0.03	<0.01	
							1.81	<0.01	0.02	0.03	<0.01	
	CL 111 (露地)	穀粒		298 <sup>EC</sup>	2	21	1.69	<0.01	0.09	0.03	<0.01	
							1.64	<0.01	0.08	0.03	<0.01	
	XL729 (露地)	穀粒		301 <sup>EC</sup>	2	21	0.88	<0.01	0.06	0.09	<0.01	
							0.81	<0.01	0.07	0.09	<0.01	
	CL XL745 (露地)	穀粒		299 <sup>EC</sup>	2	21	0.38	<0.01	0.06	0.05	<0.01	
							0.37	<0.01	0.06	0.05	<0.01	
					2	21	0.63	<0.01	0.22	0.09	<0.01	
							0.63	<0.01	0.07	0.09	0.01	
	Francis (露地)	穀粒		299 <sup>EC</sup>	2	21	1.68	<0.01	0.05	0.03	<0.01	
							1.80	<0.01	0.05	0.03	<0.01	
	Presidio (露地)	穀粒		300 <sup>EC</sup>	2	0*	11.3	<0.01	0.05	0.06	0.09	
							11.3	<0.01	0.05	0.06	0.06	
							14*	0.45	<0.01	0.06	0.08	0.01
								0.48	<0.01	0.06	0.06	0.01
21			0.23				<0.01	0.07	0.10	<0.01		
			0.31				<0.01	0.06	0.09	<0.01		
28			0.41				<0.01	0.05	0.07	<0.01		
			0.44				<0.01	0.07	0.09	<0.01		
35	0.33	<0.01	0.05	0.08	<0.01							
	0.27	<0.01	0.05	0.08	<0.01							
LX745 (露地)	穀粒	301 <sup>EC</sup>	2	21	1.17	<0.01	0.21	0.26	<0.01			
					1.14	<0.01	0.19	0.22	<0.01			
M205	穀	296 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)  (露地)	分析部位  粒	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾー ール	F001	F029	F030	F031
							<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
298 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			

- 1 EC : 10%乳剤茎葉散布
- 2 ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。
- 3

1 作物名：小麦

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Faller (露地)	穀粒	25	300 <sup>EC</sup>	2	21	0.05	<0.01	0.16	0.06	<0.01
							0.06	<0.01	0.18	0.06	<0.01
	Oklee (露地)	穀粒		300 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.05	0.02	<0.01
							<0.01	<0.01	0.05	0.02	<0.01
							<0.01	<0.01	0.10	0.02	<0.01
	Prosper (露地)	穀粒		298 <sup>EC</sup>	2	21	0.02	<0.01	0.22	0.06	<0.01
							0.03	<0.01	0.26	0.08	<0.01
				302 <sup>EC</sup>	2	0*	0.41	<0.01	0.17	0.09	<0.01
							0.30	<0.01	0.15	0.09	<0.01
						14*	0.16	<0.01	0.13	0.07	<0.01
							0.13	<0.01	0.15	0.07	<0.01
						21	0.11	<0.01	0.15	0.08	<0.01
							0.13	<0.01	0.15	0.08	<0.01
				28	0.13	<0.01	0.14	0.08	<0.01		
					0.11	<0.01	0.15	0.08	<0.01		
	35	0.08		<0.01	0.16	0.10	<0.01				
0.07		<0.01	0.15	0.10	<0.01						
Alturas (露地)	穀粒	296 <sup>EC</sup>	2	21	0.09	<0.01	0.05	0.01	<0.01		
					0.17	<0.01	0.05	0.01	<0.01		
米国 2015 年	GA Gore (露地)	穀粒	302 <sup>EC</sup>	2	21	0.08	<0.01	0.11	0.07	<0.01	
						0.11	<0.01	0.13	0.07	<0.01	
	TV8848 (露地)	穀粒	302 <sup>EC</sup>	2	21	0.02	<0.01	0.27	0.18	<0.01	
						0.05	<0.01	0.23	0.17	<0.01	
	Elgin (露地)	穀粒	303 <sup>EC</sup>	2	21	0.12	<0.01	0.34	0.13	<0.01	
						0.16	<0.01	0.35	0.13	<0.01	
	Roane (露地)	穀粒	296 <sup>EC</sup>	2	21	0.03	<0.01	0.26	0.06	<0.01	
						0.03	<0.01	0.26	0.06	<0.01	
						0.07	<0.01	0.26	0.05	<0.01	
	LA841 (露地)	穀粒	299 <sup>EC</sup>	2	21	0.36	<0.01	0.73	0.24	<0.01	
						0.17	NA	0.98	NA	NA	
	Prosper	穀	295 <sup>EC</sup>	2	20*	0.07	<0.01	0.34	0.09	<0.01	

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)  (露地)	分析部位  粒	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾール	F001	F029	F030	F031
カナ ダ 2015 年	Divide (露地)	穀粒		303 <sup>EC</sup>	2	21	0.07	<0.01	0.28	0.09	<0.01
							0.09	<0.01	0.08	0.03	<0.01
	TAM 113 (露地)	穀粒		299 <sup>EC</sup>	2	20*	0.06	<0.01	0.08	0.03	<0.01
							0.04	<0.01	0.03	0.01	<0.01
	TAM 111 (露地)	穀粒		302 <sup>EC</sup>	2	21	0.03	<0.01	0.03	0.01	<0.01
							0.02	<0.01	0.06	0.02	<0.01
	TAM 112 (露地)	穀粒		300 <sup>EC</sup>	2	21	0.02	<0.01	0.12	0.03	<0.01
							0.03	NA	NA	NA	NA
	LCS Wizard (露地)	穀粒		297 <sup>EC</sup>	2	21	0.14	<0.01	0.08	0.02	<0.01
							0.10	NA	NA	NA	NA
							0.12	<0.01	0.11	0.02	<0.01
	Marchwe II (露地)	穀粒		303 <sup>EC</sup>	2	21	0.10	<0.01	0.09	0.02	<0.01
							0.11	<0.01	0.10	0.02	<0.01
	AC Carberry (露地)	穀粒		295 <sup>EC</sup>	2	21	0.09	<0.01	0.07	0.01	<0.01
							0.09	<0.01	0.07	0.01	<0.01
		穀粒		303 <sup>EC</sup>	2	21	0.11	<0.01	0.09	0.02	<0.01
							0.12	NA	NA	NA	NA
	Cardale (露地)	穀粒		300 <sup>EC</sup>	2	21	0.08	<0.01	0.60	0.22	<0.01
0.10							<0.01	0.74	0.26	<0.01	
AC Vespar (露地)	穀粒		302 <sup>EC</sup>	2	21	0.13	<0.01	0.35	0.11	<0.01	
						0.08	NA	NA	NA	NA	
Harvest (露地)	穀粒		304 <sup>EC</sup>	2	21	0.08	<0.01	0.07	0.02	<0.01	
						0.09	NA	NA	NA	NA	
Cardale (露地)	穀粒		299 <sup>EC</sup>	2	21	0.07	<0.01	0.07	0.02	<0.01	
						0.08	NA	NA	NA	NA	
Brandon (露地)	穀粒		305 <sup>EC</sup>	2	21	0.09	<0.01	0.23	0.06	<0.01	
						0.10	NA	NA	NA	NA	

1 EC : 10%乳剤茎葉散布、NA:未分析又は試料なし  
2 ・農薬の使用時期 (PHI) が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。  
3

## 1 作物名：大麦

実施場所(国)実施年	品種(栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量(g ai/ha)	回数(回)	PHI(日)	残留値(mg/kg)				
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2014年	AC Minoa (露地)	穀粒	10	302 <sup>EC</sup>	2	21	0.19	<0.01	0.14	0.09	<0.01
							0.21	<0.01	0.15	0.08	<0.01
	Robust (露地)	穀粒		0*	0.22	<0.01	0.62	0.14	0.02		
					0.19	NA	0.58	NA	NA		
				14*	<0.01	<0.01	0.63	0.15	0.02		
					<0.01	NA	0.50	NA	NA		
				21	<0.01	<0.01	0.62	0.15	0.02		
					<0.01	NA	0.61	NA	NA		
				28	<0.01	<0.01	0.62	0.14	0.02		
					<0.01	NA	0.62	NA	NA		
35	<0.01	<0.01	0.62	0.15	0.02						
	<0.01	NA	0.58	NA	NA						
Haybet (露地)	穀粒	300 <sup>EC</sup>	2	21	0.38	<0.01	0.31	0.03	<0.01		
					0.35	NA	NA	NA	NA		
Baroness (露地)	穀粒	307 <sup>EC</sup>	2	21	0.27	<0.01	0.06	0.01	<0.01		
					0.23	NA	NA	NA	NA		
米国 2015年	Helena barley (露地)	穀粒	301 <sup>EC</sup>	2	21	0.84	<0.01	0.13	0.02	<0.01	
						0.75	NA	NA	NA	NA	
カナダ 2015年	Newdale (露地)	穀粒	302 <sup>EC</sup>	2	21	0.51	<0.01	0.24	0.06	<0.01	
						0.45	<0.01	0.26	0.06	<0.01	
	CDC Austen-son (露地)	穀粒	289 <sup>EC</sup>	2	21	1.95	<0.01	0.62	0.17	<0.01	
						1.39	<0.01	0.55	0.16	<0.01	
	Coalition (露地)	穀粒	303 <sup>EC</sup>	2	21	0.65	<0.01	0.84	0.27	0.02	
						0.77	<0.01	0.91	0.26	0.02	
	Conlon (露地)	穀粒	304 <sup>EC</sup>	2	21	0.37	<0.01	0.12	0.04	<0.01	
						0.31	<0.01	0.12	0.04	<0.01	
309 <sup>EC</sup>	2	21	0.48	<0.01	0.77	0.19	<0.01				
			0.64	<0.01	0.74	0.17	<0.01				

2 EC：10%乳剤茎葉散布、NA：未分析又は試料なし

3 ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。

4

## 1 作物名：飼料用とうもろこし

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	232180 (露地)	子実	20	302 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.21	<0.01	0.01
							<0.01	<0.01	0.19	<0.01	0.01
	Dekalb (露地)	子実		305 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.35	<0.01	0.09
							<0.01	<0.01	0.36	<0.01	0.09
	DEK 49-94RI B (露地)	子実		297 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.08	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.08	<0.01	<0.01
	DKC33- 53RIBA F2 (露地)	子実		297 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.14	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.14	<0.01	<0.01
	2Y188 (露地)	子実		302 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.33	<0.01	0.05
							<0.01	<0.01	0.40	<0.01	0.05
	DKC 49-29 RIB (露地)	子実		300 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
	G96A69 -3111 (露地)	子実		295 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	Pioneer P1105 AM (露地)	子実		298 <sup>EC</sup>	2	20*	<0.01	<0.01	0.09	<0.01	0.02
							<0.01	<0.01	0.09	<0.01	0.02
DKC 38-03 RIB (露地)	子実	304 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.13	<0.01	<0.01		
					<0.01	<0.01	0.14	<0.01	<0.01		
PO876 CHR (露地)	子実	300 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.33	<0.01	0.02		
					<0.01	<0.01	0.30	<0.01	0.02		
DK 1431 (露地)	子実	302 <sup>EC</sup>	2	0*	<0.01	<0.01	0.07	<0.01	<0.01		
					<0.01	<0.01	0.07	<0.01	<0.01		
					14*	<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01	
						<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01	
21	<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01						

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
							メフェ ントリ フルコ ナゾール	F001	F029	F030	F031	
							<0.01	<0.01	0.08	<0.01	<0.01	
		子実		303 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.08	<0.01	<0.01	
							<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01	
							<0.01	<0.01	0.08	<0.01	<0.01	
							<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01	
							<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01	
							<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01	
	Pioneer 9834 (露地)	子実			300 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
								<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
	Pioneer P1498 AM (露地)	子実			303 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.07	<0.01	<0.01
								<0.01	<0.01	0.08	<0.01	<0.01
	Pioneer P1360 HR (露地)	子実			302 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01
								<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01
	P1498 AM (露地)	子実			299 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.10	<0.01	<0.01
								<0.01	<0.01	0.11	<0.01	<0.01
	RL8899 YHB (露地)	子実			298 <sup>EC</sup>	2	22	<0.01	<0.01	0.16	<0.01	0.06
								<0.01	<0.01	0.18	<0.01	0.06
	Dekalb DKC63- 87 (露地)	子実			301 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.12	<0.01	0.03
								<0.01	<0.01	0.14	<0.01	0.03
	DK 59-90 RIB (露地)	子実			299 <sup>EC</sup>	2	19*	<0.01	<0.01	0.20	<0.01	0.01
								<0.01	<0.01	0.20	<0.01	0.02
	P1395 AM (露地)	子実			299 <sup>EC</sup>	2	22	<0.01	<0.01	0.12	<0.01	0.03
								<0.01	<0.01	0.12	<0.01	0.03

1 EC : 10%乳剤茎葉散布、  
 2 ・農薬の使用時期 (PHI) が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。  
 3  
 4

## 1 作物名：ソルガム

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031	
米国 2014 年	53-67 (露地)	穀粒	9	298 <sup>EC</sup>	2	22	0.49	<0.01	0.08	0.05	0.03	
							0.34	<0.01	<0.01	0.05	0.05	
	L655 (露地)	穀粒		300 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	
							<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	
	85Y40 (露地)	穀粒		303 <sup>EC</sup>	2	21	0.46	<0.01	<0.01	0.02	0.02	
							0.36	<0.01	<0.01	0.02	0.02	
	M3838 C (露地)	穀粒		300 <sup>EC</sup>	2	21	0.27	0.02	0.04	0.10	0.10	
							0.34	0.02	0.10	0.11	0.10	
	DKS29 -28 (露地)	穀粒		302 <sup>EC</sup>	2	21	0.76	<0.01	0.09	0.08	<0.01	
							0.79	<0.01	0.11	0.10	<0.01	
	DKS51 -01 (露地)	穀粒		311 <sup>EC</sup>	2	21	0.22	<0.01	0.02	0.01	<0.01	
							0.26	<0.01	0.02	0.02	<0.01	
	A1005 964 (露地)	穀粒		300 <sup>EC</sup>	2	21	0.56	<0.01	0.07	0.04	<0.01	
							0.48	<0.01	0.08	0.04	<0.01	
	DKS44 -20 (露地)	穀粒		296 <sup>EC</sup>	2	21	0.18	<0.01	0.06	0.02	<0.01	
							0.18	<0.01	0.05	0.02	<0.01	
	H-390 W (露地)	穀粒		302 <sup>EC</sup>	2	21	0*	1.03	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
								1.00	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
14*			1.16				<0.01	0.02	0.01	<0.01		
			1.25				<0.01	0.02	0.01	<0.01		
21			1.03				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			1.09				<0.01	0.02	<0.01	<0.01		
28			1.22				<0.01	0.02	0.01	<0.01		
			1.11				<0.01	0.02	0.01	<0.01		
35	1.18	<0.01	0.02	0.01	<0.01							
	1.13	<0.01	0.02	0.01	<0.01							

2 EC：10%乳剤茎葉散布

3 ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。

4

## 1 作物名: スイートコーン

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	BC-0805 (露地)	子実	13	456 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.17	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.18	<0.01	<0.01
	Precious Gem (露地)	子実		449 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.15	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.15	<0.01	<0.01
	Passion II (露地)	子実		448 <sup>EC</sup>	3	20	<0.01	<0.01	0.30	<0.01	0.03
		子実					<0.01	<0.01	0.30	<0.01	0.03
	NK-199 (露地)	子実		459 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.18	<0.01	0.02
							<0.01	<0.01	0.19	<0.01	0.03
	Over- land (露地)	子実		449 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.06	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.06	<0.01	<0.01
	Ambro- sia (露地)	子実		449 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.05	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.05	<0.01	<0.01
				452 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.12	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.14	<0.01	<0.01
				452 <sup>EC</sup>	3	0*	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
						14	<0.01	<0.01	0.05	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
						21	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
28	<0.01	<0.01	0.05	<0.01	<0.01						
	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01						
35	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	<0.01						
	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01						
276 A (露地)	子実	452 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.08	<0.01	<0.01		
					0.02	<0.01	0.08	<0.01	<0.01		
Silver Queen (露地)	子実	449 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.11	<0.01	0.01		
					<0.01	<0.01	0.11	<0.01	0.01		

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
カナ ダ 2014 年	Honey and Cream (露地)	子実		480 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.08	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.08	<0.01	<0.01
カナ ダ 2015 年	Mirai 148-4 (露地)	子実		451 <sup>EC</sup>	3	22	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01

1 EC：10%乳剤茎葉散布

2 分析部位：子実は全て穂軸付きが用いられた

3 ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用。方法から逸脱している場合は、該当箇所\*を付した。

4

## 1 作物名:大豆

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031	
米国 2014 年	HBK 7028 (露地)	子実	20	305 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.32	0.04	0.08	
							0.01	<0.01	0.32	0.04	0.08	
	Asgrow AG 7231 (露地)	子実		304 <sup>EC</sup>	2	21	0.10	<0.01	0.12	<0.01	0.01	
							0.02	<0.01	0.12	0.01	0.01	
	P95 Y70 (露地)	子実		301 <sup>EC</sup>	2	21	0.31	<0.01	0.36	<0.01	0.03	
							0.30	<0.01	0.33	<0.01	0.02	
		子実		301 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.02	
							<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.02	
	子実	304 <sup>EC</sup>		2	21	0.05	<0.01	0.15	<0.01	0.02		
						0.04	<0.01	0.15	<0.01	0.02		
	Terral Rev 56R63 (露地)	子実		298 <sup>EC</sup>	2	21	0.03	<0.01	0.27	0.02	0.03	
							0.03	<0.01	0.26	0.02	0.03	
	11R08 RR2Y (露地)	子実		309 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01	
							<0.01	<0.01	0.10	<0.01	<0.01	
	P05T 24R PC35 (露地)	子実		305 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.01	
							<0.01	<0.01	0.04	0.02	0.02	
	SO2 M9 (露地)	子実		305 <sup>EC</sup>	2	0*	0.20	<0.01	0.43	0.03	0.06	
							0.22	<0.01	NA	0.02	0.06	
							7*	<0.01	<0.01	0.11	0.03	0.07
								<0.01	<0.01	0.13	0.03	0.08
14*			0.01				<0.01	0.10	0.03	0.07		
			<0.01				<0.01	0.12	0.03	0.08		
21			<0.01				<0.01	0.13	0.04	0.08		
			<0.01				<0.01	0.12	0.03	0.08		
28	<0.01	<0.01	0.15	0.03	0.09							
	<0.01	<0.01	0.16	0.03	0.09							
NT0090 RR (露地)	子実	302 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	0.01			
					<0.01	<0.01	0.03	<0.01	0.01			

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)						
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031		
	92Y75 (露地)	子実		299 <sup>EC</sup>	2	0*	<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01		
							0.02	<0.01	0.10	<0.01	<0.01		
						7*	0.01	<0.01	0.14	<0.01	<0.01		
							<0.01	<0.01	0.14	<0.01	<0.01		
						14*	<0.01	<0.01	0.12	<0.01	<0.01		
							<0.01	<0.01	0.10	<0.01	<0.01		
		21				<0.01	<0.01	0.13	<0.01	<0.01			
						<0.01	<0.01	0.12	<0.01	<0.01			
		28				<0.01	<0.01	0.13	<0.01	<0.01			
						<0.01	<0.01	0.13	<0.01	<0.01			
		子実				301 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	0.01
									<0.01	<0.01	0.04	<0.01	0.01
	子実	302 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.04	0.01	0.02				
					<0.01	<0.01	0.04	0.01	0.02				
	A10243 41 (露地)	子実	307 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	48E3 RR (露地)	子実	300 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.06	0.01	0.02			
						<0.01	<0.01	0.06	0.01	0.02			
	NK 584-P4 (露地)	子実	298 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.05	0.02	0.03			
						<0.01	<0.01	0.05	0.02	0.03			
	5N479 R2 (露地)	子実	299 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.07	0.07	0.06			
						<0.01	<0.01	0.06	0.05	0.05			
	HBK RY 4620 (露地)	子実	306 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.09	<0.01	0.02			
						<0.01	<0.01	0.08	<0.01	0.02			
P31T 11R (露地)	子実	298 <sup>EC</sup>	2	21	0.01	<0.01	0.03	<0.01	0.02				
					0.01	<0.01	0.03	<0.01	0.02				
不明 (露地)	子実	299 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	0.06	0.04	0.06				
					<0.01	<0.01	0.07	0.04	0.07				

1 EC: 10%乳剤茎葉散布、NA:未分析又は試料なし

2 ・農薬の使用時期 (PHI) が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。

3

4

## 1 作物名：いんげんまめ

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	CA Red Kidney (露地)	子実	10	452 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.16	<0.01	<0.01
							<0.01	NA	NA	NA	NA
	Great north- ern (露地)	子実		451 <sup>EC</sup>	3	21	0.02	<0.01	0.07	<0.01	<0.01
							<0.01	NA	<0.01	NA	NA
	Taylor Pinto Bean (露地)	子実		461 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	0.02	0.28	<0.01	<0.01
							0.02	NA	NA	NA	NA
Red Kidney (露地)	子実	445 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
					<0.01	NA	NA	NA	NA		
Blue lake 274 bean (露地)	子実	458 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.10	<0.01	<0.01		
					<0.01	NA	NA	NA	NA		
米国 2015 年	Pinto field bean (露地)	子実	10	452 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							<0.01	NA	NA	NA	NA
	Pinto III (露地)	子実		436 <sup>EC</sup>	3	0*	0.03	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.03	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
						7*	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
						14*	<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.11	<0.01	<0.01
						21	0.01	<0.01	0.19	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.07	<0.01	<0.01
	28	<0.01		<0.01	0.14	<0.01	<0.01				
		<0.01		<0.01	0.17	<0.01	<0.01				
Buster Pinto Bean (露地)	子実	452 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.10	<0.01	<0.01		
					<0.01	NA	NA	NA	NA		

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用 量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾー ール	F001	F029	F030	F031
カナ ダ 2015 年	Wind- breaks (露地)	子 実		451 <sup>EC</sup>	3	21	0.03	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.07	NA	NA	NA	NA
	Windbr eaker Pinto Beans (露地)	子 実		450 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.13	<0.01	<0.01
							<0.01	NA	NA	NA	NA

- 1 EC : 10%乳剤茎葉散布、NA:未分析又は試料なし
- 2 ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。
- 3

## 1 作物名：未成熟いんげんまめ

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Carson (露地)	さや付き	6	452 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.07	<0.01	<0.01
							<0.01	NA	0.09	NA	NA
	Caprice (露地)	さや付き	449 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.18	<0.01	<0.01	
						<0.01	NA	0.21	NA	NA	
	Buffalo bean (露地)	さや付き	451 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.05	<0.01	<0.01	
						<0.01	NA	0.04	NA	NA	
	Bush blue lake (露地)	さや付き	456 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.05	<0.01	<0.01	
						<0.01	NA	0.05	NA	NA	
	Carson bush wax (露地)	さや付き	467 <sup>EC</sup>	3	0*	0.02	<0.01	0.06	<0.01	<0.01	
						0.02	<0.01	0.06	<0.01	<0.01	
						7*	<0.01	<0.01	0.07	<0.01	<0.01
							0.04	<0.01	0.08	<0.01	<0.01
14*						0.02	<0.01	0.07	<0.01	<0.01	
						0.02	<0.01	0.06	<0.01	<0.01	
21						<0.01	<0.01	0.05	<0.01	<0.01	
						0.02	<0.01	0.05	<0.01	<0.01	
28	0.03	<0.01	0.05	<0.01	<0.01						
	0.02	<0.01	0.05	<0.01	<0.01						
米国 2015 年	Blue lake 274 bean (露地)	さや付き	6	456 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
							<0.01	NA	0.03	NA	NA
	Jackson Wonder Lima bean (露地)	さやなし	456 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.92	<0.01	<0.01	
						<0.01	<0.01	0.09	<0.01	<0.01	
	Jackson Wonder Lima bean (露地)	さやなし	449 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.26	<0.01	<0.01	
						<0.01	<0.01	0.31	<0.01	<0.01	

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位 し	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)								
							メフェ ントリ フルコ ナゾー ール	F001	F029	F030	F031				
		さ や な し		451 <sup>EC</sup>	3	0*	<0.01	<0.01	1.10	<0.01	<0.01				
							<0.01	<0.01	1.09	<0.01	<0.01				
						7*	<0.01	0.02	0.66	<0.01	<0.01				
							<0.01	<0.01	0.92	<0.01	0.02				
						14*	<0.01	<0.01	0.62	<0.01	0.01				
							<0.01	<0.01	1.09	<0.01	0.02				
						21	<0.01	<0.01	1.34	<0.01	0.01				
							<0.01	<0.01	1.32	<0.01	0.02				
						28	<0.01	<0.01	1.30	<0.01	0.04				
							<0.01	<0.01	1.14	0.01	0.04				
						Ford- hook 242 Bush Beans (露地)	さ や な し	449 <sup>EC</sup>	3	21	0.02	<0.01	0.11	<0.01	<0.01
											0.01	<0.01	0.13	<0.01	<0.01
						Roma (露地)	さ や な し	445 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.06	<0.01	<0.01
											<0.01	<0.01	0.06	<0.01	<0.01
						Kingston Green Baby Lima (露地)	さ や な し	451 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.11	<0.01	<0.01
											<0.01	<0.01	0.13	<0.01	<0.01

1 EC: 10%乳剤茎葉散布、NA:未分析又は試料なし  
 2 ・農薬の使用時期 (PHI) が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。  
 3

- 1  
2 作物名：えんどう

実施場所(国)実施年	品種(栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量(g ai/ha)	回数(回)	PHI(日)	残留値(mg/kg)				
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2014年	4010 Forage Pea (露地)	子実	8	460 <sup>EC</sup>	3	21	0.02	<0.01	0.99	<0.01	<0.01
							<0.01	NA	1.01	NA	NA
	954-Genie (露地)	子実		450 <sup>EC</sup>	3	21	0.08	<0.01	2.16	<0.01	0.05
							0.10	NA	2.42	NA	NA
米国 2015年	Oregon Trail Peas (露地)	子実	449 <sup>EC</sup>	3	21	0.01	<0.01	3.82	<0.01	0.04	
						0.01	NA	3.60	NA	NA	
	Austrian Winter Peas (露地)	子実	451 <sup>EC</sup>	3	21	0.02	<0.01	1.80	<0.01	0.02	
						0.02	NA	1.74	NA	NA	
	Banner peas (露地)	子実	455 <sup>EC</sup>	3	0*	0.02	<0.01	1.34	<0.01	<0.01	
						0.02	<0.01	1.30	<0.01	<0.01	
						7*	<0.01	<0.01	1.74	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	1.70	<0.01	<0.01
						14*	<0.01	<0.01	1.74	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	1.79	<0.01	<0.01
						21	<0.01	<0.01	2.03	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	1.79	<0.01	<0.01
	28	<0.01	<0.01	1.53	<0.01	<0.01					
		<0.01	<0.01	1.66	<0.01	<0.01					
Columbia (露地)	子実	453 <sup>EC</sup>	3	21	0.01	<0.01	1.80	<0.01	0.02		
					0.01	NA	1.74	NA	NA		
カナダ 2015年	Meadow peas (露地)	子実	455 <sup>EC</sup>	3	21	0.02	<0.01	1.59	<0.01	<0.01	
						0.02	NA	1.70	NA	NA	
	Treasure Peas (露地)	子実	451 <sup>EC</sup>	3	21	0.01	<0.01	0.90	<0.01	0.02	
						0.01	<0.01	0.94	<0.01	0.02	

- 1 EC：10%乳剤茎葉散布、NA：未分析又は試料なし
- 2 ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。
- 3

1

2 作物名：未成熟えんどう

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)							
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031			
米国 2014 年	Knight (露地)	さやなし	9	454 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	1.12	<0.01	0.02			
							<0.01	NA	0.73	NA	NA			
		さや付き				21	<0.01	<0.01	0.86	<0.01	<0.01			
							<0.01	NA	0.81	NA	NA			
		Oregon Sugar Pod II (露地)				さやなし	21	457 <sup>EC</sup>	3	<0.01	<0.01	0.39	<0.01	<0.01
										<0.01	NA	0.76	NA	NA
	さや付き			21	<0.01	<0.01	0.38			<0.01	<0.01			
					<0.01	NA	NA			NA	NA			
	Alaska Garden Pea (露地)	さやなし		21	454 <sup>EC</sup>	3	<0.01	<0.01	1.36	<0.01	<0.01			
							<0.01	NA	1.32	NA	NA			
		さや付き		21			<0.01	<0.01	0.53	<0.01	<0.01			
							<0.01	NA	0.44	NA	NA			
さやなし		21	459 <sup>EC</sup>	3			<0.01	<0.01	0.71	<0.01	<0.01			
							<0.01	NA	0.85	NA	NA			
さや付き	21	0.02			<0.01	0.53	<0.01	<0.01						
		0.03			NA	0.68	NA	NA						
米国 2015 年	Wando Pea (露地)	さやなし			444 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.69	<0.01	<0.01		
								<0.01	NA	0.72	NA	NA		
		さや付	21	<0.01			<0.01	0.33	<0.01	<0.01				
				<0.01			NA	NA	NA	NA				

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位 き	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
							メフェ ントリ フルコ ナゾール	F001	F029	F030	F031	
	Naches pea (露地)	さやなし	451 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
						<0.01	NA	0.24	NA	NA		
		さや付き			21	<0.01	<0.01	0.29	<0.01	<0.01		
						<0.01	NA	NA	NA	NA		
	Super sugar snap (露地)	さやなし			448 <sup>EC</sup>	3	0*	0.04	<0.01	0.33	<0.01	<0.01
								0.07	<0.01	0.28	<0.01	<0.01
							7*	<0.01	<0.01	0.36	<0.01	<0.01
								0.02	<0.01	0.34	<0.01	<0.01
			14*	<0.01			<0.01	0.32	<0.01	<0.01		
				<0.01			<0.01	0.34	<0.01	<0.01		
		21	<0.01	<0.01			0.22	<0.01	<0.01			
			<0.01	<0.01			0.24	<0.01	<0.01			
		さや付き	28	<0.01			<0.01	0.29	<0.01	<0.01		
				NA			NA	NA	NA	NA		
0*	0.98		<0.01	0.17			<0.01	<0.01				
	1.29		<0.01	0.14			<0.01	<0.01				
7*	0.41	<0.01	0.13	<0.01	<0.01							
	0.18	<0.01	0.13	<0.01	<0.01							
14*	0.23	<0.01	0.12	<0.01	<0.01							
	0.07	<0.01	0.12	<0.01	<0.01							
21	0.10	<0.01	0.11	<0.01	<0.01							
	0.05	<0.01	0.11	<0.01	<0.01							
28	0.04	<0.01	0.10	<0.01	<0.01							
	0.06	<0.01	0.10	<0.01	<0.01							
カナ ダ 2015 年	Homes teader peas (露地)	さやなし	456 <sup>EC</sup>	3	21	<0.01	<0.01	0.80	<0.01	<0.01		
						<0.01	<0.01	0.96	<0.01	<0.01		
		さや付き			21	0.02	<0.01	0.69	<0.01	<0.01		

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位 や付き	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031
	Mr. Big (露地)	さやなし		453 <sup>EC</sup>		21	<0.01	<0.01	0.37	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.36	<0.01	<0.01
		さや付き				21	0.02	<0.01	0.15	<0.01	<0.01
							0.03	NA	NA	NA	NA
		0.02				NA	0.53	NA	NA		
		0.02				NA	0.53	NA	NA		

- 1 EC : 10%乳剤茎葉散布、NA:未分析又は試料なし  
 2 ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。  
 3

1  
2 作物名：レンズ豆

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
カナ ダ 2015 年	CDC Invinc ible (露地)	子 実	3	449 <sup>EC</sup>	3	0*	0.97	<0.01	0.71	<0.01	0.01
							1.22	<0.01	0.55	<0.01	0.01
						7*	0.91	<0.01	0.69	<0.01	0.02
							0.93	<0.01	0.64	<0.01	0.01
						14*	1.43	<0.01	0.78	<0.01	0.02
							0.85	<0.01	0.88	<0.01	0.02
						21	0.70	<0.01	0.58	<0.01	<0.01
							0.65	<0.01	0.76	<0.01	0.01
		28				0.48	<0.01	0.80	<0.01	0.02	
						0.61	<0.01	0.90	<0.01	0.02	
米国 2015 年	不明 (露地)	子 実	3	447 <sup>EC</sup>	3	21	0.13	<0.01	0.78	<0.01	<0.01
							0.14	<0.01	1.01	<0.01	0.01
米国 2015 年	不明 (露地)	子 実	3	453 <sup>EC</sup>	3	21	0.06	<0.01	2.16	0.01	0.03
							0.06	<0.01	2.44	0.01	0.04

3 EC：10%乳剤茎葉散布  
4 ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。  
5

- 1  
2 作物名：てんさい

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	不明 (露地)	塊根	13	300 <sup>EC</sup>	2	14*	0.58	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.57	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						21	0.40	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.40	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.17	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		28		0.37	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
				0.09	<0.01	0.02	<0.01	<0.01			
		塊根		318 <sup>EC</sup>	2	14*	0.06	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
							0.05	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
						21	0.06	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
	0.03						<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
	0.05					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
	塊根	299 <sup>EC</sup>		2	21	0.03	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	
						0.02	<0.01	0.03	<0.01	<0.01	
	48607 TT (露地)	塊根		303 <sup>EC</sup>	2	21	0.02	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
							0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
		塊根		307 <sup>EC</sup>	2	21	0.04	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
							0.05	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
		塊根		300 <sup>EC</sup>	2	21	0.09	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
							0.09	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
塊根		299 <sup>EC</sup>	2	21	0.32	<0.01	0.02	<0.01	<0.01		
					0.23	<0.01	0.01	<0.01	<0.01		
Phoenix (露地)		塊根	299 <sup>EC</sup>	2	21	0.08	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
						0.07	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
Beta 2028 (露地)	塊根	302 <sup>EC</sup>	2	21	0.04	<0.01	0.02	<0.01	<0.01		
					0.04	<0.01	0.02	<0.01	<0.01		
米国 2015 年	SX152 1WRR (露地)	塊根	298 <sup>EC</sup>	2	21	0.05	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						0.06	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
カナ ダ	47RR 75 (露地)	塊根	307 <sup>EC</sup>	2	21	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						0.05	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
2015 年	9103 RR (露地)	塊 根		306 <sup>EC</sup>	2	21	0.15	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
							0.15	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
	塊 根	299 <sup>EC</sup>		2	21	0.11	<0.01	0.05	<0.01	<0.01	
						0.13	<0.01	0.05	<0.01	<0.01	

- 1 EC : 10%乳剤茎葉散布
- 2 ・農薬の使用時期 (PHI) が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。
- 3

- 1  
2 作物名：らっかせい

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Bailey (露地)	子実	12	598 <sup>EC</sup>	3	14	<0.01	<0.01	0.30	<0.01	0.03
							<0.01	<0.01	0.27	<0.01	0.03
	Geor- gia 06G (露地)	子実		600 <sup>EC</sup>	3	14	<0.01	<0.01	<0.25	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	8.88	0.18	0.90
				601 <sup>EC</sup>	3	14	<0.01	<0.01	4.37	0.17	0.48
							<0.01	<0.01	3.99	0.16	0.44
				600 <sup>EC</sup>	3	13*	<0.01	<0.01	3.46	0.126	0.44
							<0.01	<0.01	4.45	0.122	0.56
				593 <sup>EC</sup>	3	14	<0.01	<0.01	0.40	<0.01	0.08
							<0.01	<0.01	0.33	0.010	0.07
				597 <sup>EC</sup>	3	14	<0.01	<0.01	0.19	<0.01	0.04
							<0.01	<0.01	0.24	<0.01	0.04
				596 <sup>EC</sup>	3	8*	<0.01	<0.01	3.38	0.04	0.33
							0.01	<0.01	3.90	0.04	0.37
						10*	<0.01	<0.01	3.66	0.05	0.36
							<0.01	<0.01	3.81	0.04	0.35
	14	<0.01				<0.01	3.28	0.04	0.34		
		<0.01				<0.01	3.30	0.04	0.36		
	17	<0.01		<0.01	3.79	0.05	0.41				
		<0.01		<0.01	3.25	0.04	0.363				
	22	<0.01		<0.01	3.53	0.05	0.42				
		<0.01		<0.01	3.65	0.041	0.45				
	Geor- gia 09B (露地)	子実		599 <sup>EC</sup>	3	14	<0.01	<0.01	0.46	<0.01	0.23
							<0.01	<0.01	0.49	<0.01	0.21
	593 <sup>EC</sup>	子実		3	14	<0.01	<0.01	<0.25	<0.01	0.05	
						<0.01	<0.01	<0.25	<0.01	0.05	
	Geor- gia 09G (露地)	子実		597 <sup>EC</sup>	3	14	<0.01	<0.01	1.32	0.02	0.13
							<0.01	<0.01	1.48	0.03	0.16
Tamnu t OL06	子実	587 <sup>EC</sup>	3	15	<0.01	<0.01	0.70	<0.01	0.06		
					<0.01	<0.01	0.55	<0.01	0.06		

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)  (露地)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
	ACI149 (露地)	子実		588 <sup>EC</sup>	3	14	<0.01	<0.01	<0.25	<0.01	0.12
							<0.01	<0.01	<0.25	<0.01	0.12

- 1 EC : 10%乳剤茎葉散布  
 2 ・農薬の使用時期 (PHI) が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。  
 3

- 1  
2 作物名：なたね

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Flint (露地)	種子	13	299 <sup>EC</sup>	2	21	0.27	<0.01	2.39	0.02	0.13
							0.23	0.01	0.16	0.02	0.26
	5440 (露地)	種子		7*	0.21	<0.01	0.82	0.01	0.03		
					0.41	<0.01	0.81	0.01	0.03		
				10*	0.21	<0.01	0.83	0.01	0.02		
					0.38	<0.01	0.80	0.02	0.03		
				14*	0.39	<0.01	0.81	0.01	0.03		
					0.20	<0.01	0.63	0.01	0.03		
				21	0.78	<0.01	0.79	0.02	0.02		
					0.70	<0.01	0.97	0.02	0.02		
	28	0.47		<0.01	0.72	0.02	0.03				
		0.35		<0.01	0.75	0.02	0.03				
	L252 (露地)	種子		300 <sup>EC</sup>	2	21	0.04	<0.01	0.37	<0.01	0.02
0.04			<0.01				0.37	<0.01	0.02		
09H77 57 (露地)	種子	302 <sup>EC</sup>	2	21	0.01	<0.01	0.39	<0.01	0.03		
					0.01	<0.01	0.34	<0.01	0.02		
V1037 (露地)	種子	294 <sup>EC</sup>	2	20*	0.06	<0.01	0.64	<0.01	0.01		
					0.05	<0.01	0.81	<0.01	0.01		
L252 (露地)	種子	309 <sup>EC</sup>	2	22	0.05	<0.01	0.73	<0.01	0.03		
					0.04	<0.01	0.69	<0.01	0.03		
米国 2015 年	L252 (露地)	種子	302 <sup>EC</sup>	2	21	0.07	<0.01	0.38	<0.01	<0.01	
						0.05	<0.01	0.35	<0.01	<0.01	
カナ ダ 2015 年	Canter ra 1970 (露地)	種子	304 <sup>EC</sup>	2	21	0.12	<0.01	1.00	0.01	0.08	
						0.11	<0.01	1.09	<0.01	0.05	
	Liberty Link L252 (露地)	種子	327 <sup>EC</sup>	2	21	0.01	<0.01	0.13	<0.01	<0.01	
						<0.01	<0.01	0.17	<0.01	<0.01	
	Round Ready 45H31	種子	300 <sup>EC</sup>	2	21	0.03	0.02	0.24	<0.01	<0.01	
						0.05	<0.01	0.23	<0.01	<0.01	

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)  (露地)	分析部位  種子	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
		種子		295 <sup>EC</sup>	2	21	<0.01	<0.01	1.12	0.01	0.03
							<0.01	<0.01	1.26	0.01	0.04
	Round Ready D7454 (露地)	種子		300 <sup>EC</sup>	2	21	0.32	0.02	0.58	<0.01	0.01
							0.18	<0.01	0.57	<0.01	0.02
		種子		305 <sup>EC</sup>	2	21	0.13	<0.01	0.85	<0.01	0.02
							0.16	<0.01	0.85	<0.01	0.02

- 1 EC : 10%乳剤茎葉散布  
 2 ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。  
 3

- 1  
2 作物名：ぶどう

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)							
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031			
米国 2014 年	Cayuga white (露地)	果実	13	449 <sup>SC</sup>	3	14	0.69	<0.01	0.06	<0.01	0.06			
							0.63	<0.01	0.05	<0.01	0.06			
						21	0.76	<0.01	0.06	<0.01	0.07			
							0.73	<0.01	0.06	<0.01	0.08			
						14	0.83	<0.01	0.04	<0.01	0.05			
							0.82	<0.01	0.04	<0.01	0.04			
				21	0.78	<0.01	0.04	<0.01	0.04					
					0.75	<0.01	0.06	<0.01	0.06					
				Corot noir (露地)	果実	13	449 <sup>SC</sup>	3	0*	0.28	<0.01	0.02	<0.01	0.04
										0.34	<0.01	0.02	<0.01	0.05
									3*	0.27	<0.01	0.02	<0.01	0.05
										0.31	<0.01	0.02	<0.01	0.04
	7*	0.25	<0.01						0.03	<0.01	0.06			
		0.22	<0.01						0.03	<0.01	0.05			
	14	0.20	<0.01						0.02	<0.01	0.06			
		0.19	<0.01						0.03	<0.01	0.05			
	21	0.17	<0.01						0.03	<0.01	0.05			
		0.20	<0.01						0.03	<0.01	0.05			
	454 <sup>SC</sup>	0*	0.60						<0.01	0.03	<0.01	0.06		
			0.54						<0.01	0.03	<0.01	0.06		
		3*	0.74	<0.01	0.03	<0.01	0.06							
			0.54	<0.01	0.03	<0.01	0.06							
		7*	0.49	<0.01	0.03	<0.01	0.05							
			0.46	<0.01	0.03	<0.01	0.05							
	14	0.30	<0.01	0.03	<0.01	0.05								
		0.20	<0.01	0.03	<0.01	0.04								
	21	0.24	<0.01	0.03	<0.01	0.05								
		0.21	<0.01	0.03	<0.01	0.05								
	Thomp son	果実	13	460 <sup>SC</sup>	3	14	0.18	<0.01	0.02	<0.01	0.01			
							0.28	<0.01	0.02	<0.01	<0.01			

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)  seed-less (露地)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031	
				448 <sup>SC</sup>	3	21	0.17	<0.01	0.02	<0.01	0.01	
							0.12	<0.01	0.02	<0.01	0.02	
						14	0.84	<0.01	0.03	<0.01	0.02	
							0.60	<0.01	0.03	<0.01	0.02	
						21	0.53	<0.01	0.02	<0.01	0.02	
							0.36	<0.01	0.03	<0.01	0.02	
				459 <sup>SC</sup>	14	0.74	<0.01	0.04	<0.01	0.05		
						0.63	<0.01	0.03	<0.01	0.06		
					21	0.42	<0.01	0.04	<0.01	0.05		
						0.35	<0.01	0.03	<0.01	0.06		
					14	0.31	<0.01	0.03	<0.01	0.04		
						0.39	<0.01	0.03	<0.01	0.05		
	21	0.28	<0.01	0.04	<0.01	0.04						
		0.53	<0.01	0.04	<0.01	0.05						
	448 <sup>SC</sup>					3	14	0.38	<0.01	0.02	0.03	0.07
								0.33	<0.01	0.02	0.03	0.07
							21	0.32	<0.01	0.02	0.03	0.07
								0.29	<0.01	0.02	0.03	0.07
							14	0.38	<0.01	0.01	0.03	0.02
								0.38	<0.01	<0.01	0.03	0.02
	21	0.32	<0.01	<0.01	0.03	0.02						
		0.25	<0.01	<0.01	0.03	0.02						
	457 <sup>SC</sup>					3	14	0.47	<0.01	0.02	<0.01	0.05
								0.56	<0.01	0.02	<0.01	0.05
21							0.56	<0.01	0.02	<0.01	0.05	
							0.69	<0.01	0.02	<0.01	0.04	
14							1.04	<0.01	0.03	0.01	0.12	
							1.01	<0.01	0.03	0.01	0.10	
21	0.95	<0.01	0.03	0.01	0.10							
	0.84	<0.01	0.02	0.01	0.10							
460 <sup>SC</sup>					3	14	0.29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
							0.33	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						21	0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
							0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						14	0.29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
							0.33	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
21	0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							
	0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							
450 <sup>SC</sup>					3	14	0.29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
							0.33	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						21	0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
							0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						14	0.29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
							0.33	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
21	0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							
	0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							
449 <sup>SC</sup>					3	14	0.29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
							0.33	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						21	0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
							0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						14	0.29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
							0.33	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
21	0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							
	0.45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)						
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031		
		果実		447 <sup>SC</sup>		14	0.37	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
							0.22	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
						21	0.34	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
							0.08	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
						21	0.14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
				451 <sup>SC</sup>	14	0.41	<0.01	0.02	<0.01	0.04			
						0.55	<0.01	0.03	<0.01	0.04			
						0.31	<0.01	0.02	<0.01	0.04			
					21	0.31	<0.01	0.03	<0.01	0.04			
		449 <sup>SC</sup>	14	0.41	<0.01	0.02	<0.01	0.04					
				0.50	<0.01	0.03	<0.01	0.04					
			21	0.42	<0.01	0.03	<0.01	0.05					
				0.33	<0.01	0.02	<0.01	0.04					
		果実		457 <sup>SC</sup>	3	14	0.09	<0.01	<0.01	<0.01	0.02		
							0.13	<0.01	<0.01	<0.01	0.03		
						21	0.08	<0.01	<0.01	<0.01	0.03		
							0.06	<0.01	<0.01	<0.01	0.02		
						14	0.32	<0.01	<0.01	<0.01	0.02		
							0.36	<0.01	<0.01	<0.01	0.03		
				21	0.27	<0.01	<0.01	<0.01	0.02				
					0.30	<0.01	<0.01	<0.01	0.02				
				Ala- cante (露地)	果実	448 <sup>SC</sup>	3	0*	0.29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
									0.28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
								3*	0.20	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
									0.24	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
7*	0.19	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
	0.18	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
14	0.19	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
	0.12	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
21	0.13	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
	0.13	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
454 <sup>SC</sup>	3	0*	0.28					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			0.40					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
カナ ダ 2014 年	Chardo nnay (露地)	果実		448 <sup>SC</sup>	3	3*	0.30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.32	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						7*	0.36	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.36	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						14	0.25	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.40	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				21	0.23	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
					0.26	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
				452 <sup>SC</sup>	14	1.10	<0.01	0.03	<0.01	0.02	
						1.03	<0.01	0.03	<0.01	0.02	
					21	0.66	<0.01	0.03	<0.01	0.02	
						0.86	<0.01	0.03	<0.01	0.02	
	14	0.81	<0.01		0.04	<0.01	0.02				
		0.99	<0.01		0.04	<0.01	0.01				
	21	0.58	<0.01	0.04	<0.01	0.02					
		0.86	<0.01	0.05	<0.01	0.02					
	452 <sup>SC</sup>	14	0.23	<0.01	0.04	<0.01	0.08				
			0.30	<0.01	0.04	<0.01	0.08				
		21	0.33	<0.01	0.04	<0.01	0.09				
			0.23	<0.01	0.04	<0.01	0.09				
		14	0.38	<0.01	0.05	<0.01	0.09				
			0.43	<0.01	0.05	<0.01	0.09				
	21	0.22	<0.01	0.05	<0.01	0.08					
		0.25	<0.01	0.05	<0.01	0.09					
449 <sup>SC</sup>	14	0.63	<0.01	0.03	<0.01	0.04					
		0.70	<0.01	0.03	<0.01	0.04					
	21	NA	NA	NA	NA	NA					
		NA	NA	NA	NA	NA					
	14	0.45	<0.01	0.03	<0.01	0.03					
		0.44	<0.01	0.04	<0.01	0.04					
21	NA	NA	NA	NA	NA						
	NA	NA	NA	NA	NA						
441 <sup>SC</sup>	14	0.45	<0.01	0.03	<0.01	0.03					
		0.44	<0.01	0.04	<0.01	0.04					
	21	NA	NA	NA	NA	NA					
		NA	NA	NA	NA	NA					

1 SC: 40%フロアブル剤茎葉散布、NA: 試料なし(風害のため採取できず)

- 1  
2
- ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。

- 1  
2 作物名：りんご

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Cortland (露地)	果実	15	451 <sup>SC</sup>	3	0	0.49	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
							0.42	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
				448 <sup>SC</sup>		0	0.28	<0.01	0.04	<0.01	0.02
		0.27			<0.01		0.04	<0.01	0.02		
		458 <sup>SC</sup>		3	0	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
						<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
	459 <sup>SC</sup>	0			<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01		
				<0.01	<0.01	0.02	<0.01	0.01			
	Greening (露地)	果実		448 <sup>SC</sup>	0	0.30	<0.01	0.05	<0.01	0.01	
						0.30	<0.01	0.04	<0.01	0.01	
				454 <sup>SC</sup>	0	0.26	<0.01	0.07	<0.01	0.02	
						0.28	<0.01	0.08	<0.01	0.02	
	Rome (露地)	果実	3	452 <sup>SC</sup>	0	0.38	<0.01	0.06	<0.01	0.02	
						0.46	<0.01	0.07	<0.01	0.03	
					3	0.27	<0.01	0.07	<0.01	0.02	
						0.30	<0.01	0.07	<0.01	0.03	
					7	0.36	<0.01	0.07	<0.01	0.03	
						0.28	<0.01	0.07	<0.01	0.02	
				14	0.17	<0.01	0.07	<0.01	0.02		
					0.16	<0.01	0.08	<0.01	0.02		
				21	0.18	<0.01	0.08	<0.01	0.02		
					0.19	<0.01	0.08	<0.01	0.03		
				449 <sup>SC</sup>	0	0.33	<0.01	0.07	<0.01	0.03	
						0.37	<0.01	0.07	<0.01	0.03	
3	0.19	<0.01	0.07		<0.01	0.03					
	0.18	<0.01	0.07		<0.01	0.03					
7	0.19	<0.01	0.07		<0.01	0.03					
	0.27	<0.01	0.08		<0.01	0.03					
14	0.18	<0.01	0.07	<0.01	0.03						
	0.13	<0.01	0.07	<0.01	0.02						
21	0.15	<0.01	0.08	<0.01	0.02						

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
							0.12	<0.01	0.06	<0.01	0.02
	Golden Delicious (露地)	果実		447 <sup>SC</sup>	3	0	0.24	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						0	0.17	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.12	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	Granny Smith (露地)	果実		453 <sup>SC</sup>	3	0	0.32	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.19	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						0	0.32	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.54	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		果実		453 <sup>SC</sup>	3	0	0.41	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.37	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						0	0.32	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	Gala (露地)	果実		449 <sup>SC</sup>	3	0	0.60	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
							0.50	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
						0	0.38	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.32	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
	Brae- burn (露地)	果実		453 <sup>SC</sup>	3	0	0.30	<0.01	0.04	<0.01	0.01
							0.30	<0.01	0.04	<0.01	0.01
						3	0.19	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.29	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
						7	0.19	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.28	<0.01	0.04	<0.01	0.01
						14	0.19	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.25	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
21				0.17		<0.01	0.03	<0.01	<0.01		
				0.11		<0.01	0.04	<0.01	0.01		
456 <sup>SC</sup>				0		0.19	<0.01	0.03	<0.01	<0.01	
						0.25	<0.01	0.04	<0.01	<0.01	
				3		0.16	<0.01	0.05	<0.01	<0.01	
						0.17	<0.01	0.03	<0.01	<0.01	
				7		0.12	<0.01	0.05	<0.01	<0.01	

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2015 年	Red Delicious (露地)	果実		449 <sup>SC</sup>	3	0	0.14	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.11	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
						14	0.11	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.14	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
						21	0.12	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
							0.46	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	Rome (露地)	果実		452 <sup>SC</sup>	3	0	0.27	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.35	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						0	0.39	<0.01	0.10	0.01	0.04
							0.47	<0.01	0.13	0.01	0.04
						0	0.33	<0.01	0.16	0.02	0.05
							0.27	<0.01	0.17	<0.01	0.05
カナダ 2015 年 (露地)	Northern Spyes (露地)	果実		455 <sup>SC</sup>	3	0	0.37	<0.01	0.07	<0.01	0.04
							0.36	<0.01	0.08	<0.01	0.05
						0	0.30	<0.01	0.03	<0.01	0.03
							0.29	<0.01	0.03	<0.01	0.03
						0	0.16	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.16	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
カナダ 2015 年 (露地)	Ida Red (露地)	果実		445 <sup>SC</sup>	3	0	0.16	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.13	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						0	0.26	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.26	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						0	0.18	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.15	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
カナダ 2015 年 (露地)	Gala (露地)	果実		428 <sup>SC</sup>	3	0	0.48	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.46	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						0	0.38	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.55	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						0	0.48	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.46	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
0	0.38	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01						
	0.55	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01						

1 SC : 40%フロアブル剤茎葉散布

2

- 1  
2 作物名：なし

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Bart- lett (露地)	果実	9	450 <sup>SC</sup>	3	0	0.29	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
							0.30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				457 <sup>SC</sup>		0	0.27	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
		0.27			<0.01		0.02	<0.01	<0.01		
		果実		457 <sup>SC</sup>	3	0	0.35	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.33	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				453 <sup>SC</sup>	0	0.27	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						0.23	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		果実		451 <sup>SC</sup>	3	0	0.28	<0.01	<0.01	<0.01	0.01
	0.36		<0.01				<0.01	<0.01	<0.01		
	453 <sup>SC</sup>		0	0.32		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		0.27		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				
	Parker (露地)	果実	3	0	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	0.01		
					<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01		
					442 <sup>SC</sup>	0	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	<0.01	<0.01	0.02	<0.01			<0.01				
	Olym- pic (露地)	果実	3	0	0.28	<0.01	0.07	<0.01	0.02		
					0.40	<0.01	0.02	<0.01	<0.01		
					450 <sup>SC</sup>	0	0.21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.24	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	20 <sup>th</sup> Centu- ry (露地)	果実	3	0	0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
0.19					<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
3					0.14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
					0.18	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
7					0.31	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
					0.53	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
14					0.39	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
					0.65	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
21					0.30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
					0.39	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
445 <sup>SC</sup>	0	0.25	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01					

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)						
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031		
							0.50	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
							0.26	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
						3	0.54	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
							0.32	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
						7	0.37	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
							0.89	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
						14	0.46	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
							0.26	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
						21	0.24	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
							455 <sup>SC</sup>	3	0	0.46	<0.01	<0.01	<0.01
						0.34				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						D' Anjou (露地)	果実	449 <sup>SC</sup>	0	0.24	<0.01	<0.01	<0.01
0.26	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01									
カナ ダ 2015 年	Bosc (露地)	果実	439 <sup>SC</sup>	3	0	0.72	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
						0.79	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			435 <sup>SC</sup>	0	0.72	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				
					1.12	<0.01	0.01	<0.01	<0.01				
	Bart- lett (露地)	果実	442 <sup>SC</sup>	3	0	0.67	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
						0.79	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			434 <sup>SC</sup>	0	0.48	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				
					0.56	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				

1 SC : 40%フロアブル剤茎葉散布  
2

- 1  
2 作物名：おうとう

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Skeena (露地)	果実	4	456 <sup>SC</sup>	3	0	0.93	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
							0.98	<0.01	0.05	<0.01	<0.01
				454 <sup>SC</sup>	0	1.14	<0.01	0.04	<0.01	<0.01	
						0.96	<0.01	0.04	<0.01	<0.01	
米国 2015 年	Royal Hazel (露地)	果実	4	446 <sup>SC</sup>	3	0	0.33	<0.01	0.10	0.01	<0.01
							0.56	<0.01	0.12	<0.01	<0.01
				445 <sup>SC</sup>	0	1.05	<0.01	0.08	<0.01	<0.01	
						1.10	<0.01	0.12	0.01	<0.01	
	Tulare (露地)	果実	4	451 <sup>SC</sup>	3	0	0.93	<0.01	0.24	<0.01	<0.01
							1.06	<0.01	0.25	<0.01	<0.01
				451 <sup>SC</sup>	0	0.88	<0.01	0.24	<0.01	<0.01	
						0.96	<0.01	0.37	<0.01	<0.01	
	Rainier (露地)	果実	4	451 <sup>SC</sup>	3	0	0.65	<0.01	1.12	0.03	0.05
							0.60	<0.01	1.08	0.03	0.06
						3	0.36	<0.01	0.79	0.02	0.03
							0.57	<0.01	1.17	0.04	0.06
						7	0.49	<0.01	1.08	0.03	0.06
							0.46	<0.01	1.04	0.03	0.05
				14	0.27	<0.01	1.21	0.03	0.05		
					0.33	<0.01	0.94	0.03	0.05		
21				0.27	<0.01	1.06	0.03	0.05			
				0.20	<0.01	0.80	0.02	0.04			
452 <sup>SC</sup>				3	0	1.10	<0.01	1.35	0.03	0.06	
						0.78	<0.01	1.22	0.03	0.05	
	3	0.52	<0.01		1.16	0.03	0.06				
		0.86	<0.01		0.95	0.03	0.05				
	7	0.42	<0.01		1.24	0.03	0.04				
		0.39	<0.01		0.82	0.03	0.04				
14	0.59	<0.01	1.03	0.04	0.06						
	0.26	<0.01	0.75	0.03	0.04						
21	0.36	<0.01	1.28	0.04	0.06						

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ル	F001	F029	F030	F031
							0.29	<0.01	1.05	0.03	0.05

1 SC : 40%フロアブル剤茎葉散布

2

- 1  
2 作物名：タルトチェリー

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Bala- ton (露地)	果実	4	448 <sup>SC</sup>	3	0	1.23	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
							1.66	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
				453 <sup>SC</sup>	0	2.29	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
						1.80	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
米国 2015 年	Montm orency (露地)	果実	4	452 <sup>SC</sup>	3	0	0.99	<0.01	0.26	0.04	0.16
							0.91	<0.01	0.31	0.04	0.17
				454 <sup>SC</sup>	0	1.38	<0.01	0.34	0.05	0.16	
						1.39	<0.01	0.33	0.04	0.14	
	Meteor (露地)	果実	4	462 <sup>SC</sup>	3	0	0.05	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				459 <sup>SC</sup>	0	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						0.02	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
カナ ダ 2015 年	North Star (露地)	果実	4	452 <sup>SC</sup>	3	0	1.43	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							1.66	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				462 <sup>SC</sup>	0	2.07	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						2.43	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	

3 SC : 40%フロアブル剤茎葉散布

4

- 1  
2 作物名: もも

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Virgil (露地)	果実	13	452 <sup>SC</sup>	3	0	0.43	<0.01	0.18	0.01	0.02
							0.32	<0.01	0.19	0.01	0.03
				449 <sup>SC</sup>		0	0.49	<0.01	0.13	<0.01	0.02
							0.46	<0.01	0.14	<0.01	0.02
	Encor (露地)	果実		455 <sup>SC</sup>		0	0.33	<0.01	0.09	<0.01	0.02
							0.36	<0.01	0.10	0.01	0.02
				452 <sup>SC</sup>		0	0.39	<0.01	0.16	0.01	0.01
							0.37	<0.01	0.21	0.01	0.02
	Tyler (露地)	果実		458 <sup>SC</sup>		0	0.32	<0.01	0.11	0.01	0.02
							0.32	<0.01	0.12	0.01	0.02
				449 <sup>SC</sup>		0	0.40	<0.01	0.16	0.01	0.02
							0.43	<0.01	0.17	0.01	0.02
	John Boy (露地)	果実		455 <sup>SC</sup>		0	0.32	<0.01	2.04	0.12	0.18
							0.26	<0.01	2.42	0.10	0.18
				459 <sup>SC</sup>		0	0.63	<0.01	1.59	0.08	0.14
							0.56	<0.01	1.82	0.10	0.14
	Late Ross (露地)	果実		451 <sup>SC</sup>		0	0.29	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.28	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
				452 <sup>SC</sup>		0	0.64	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.79	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
Ross (露地)	果実	454 <sup>SC</sup>	0	0.39	<0.01	0.04	<0.01	<0.01			
				0.61	<0.01	0.04	<0.01	<0.01			
		450 <sup>SC</sup>	0	0.92	<0.01	0.05	<0.01	0.01			
				1.00	<0.01	0.05	<0.01	0.01			
Glow- ing Star (露地)	果実	453 <sup>SC</sup>	0	0.34	<0.01	0.04	<0.01	<0.01			
				0.19	<0.01	0.04	<0.01	<0.01			
		453 <sup>SC</sup>	0	0.35	<0.01	0.03	<0.01	<0.01			
				0.36	<0.01	0.04	<0.01	<0.01			
米国 2015	Hawth orne	果実		458 <sup>SC</sup>	0	0.37	<0.01	0.28	0.02	0.04	
						0.41	<0.01	0.30	0.02	0.04	

実施場所 (国) 実施年 年	品種 (栽培形態)  (露地)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031	
				457 <sup>SC</sup>		0	0.49	<0.01	0.07	<0.01	<0.01	
							0.54	<0.01	0.08	<0.01	0.01	
	June Prince (露地)	果実			451 <sup>SC</sup>	3	0	0.39	<0.01	1.24	0.06	0.11
								0.30	<0.01	1.20	0.06	0.10
							0	0.48	<0.01	0.88	0.05	0.08
								0.45	<0.01	0.89	0.06	0.09
							0	0.32	<0.01	0.13	<0.01	<0.01
								0.49	<0.01	0.14	<0.01	<0.01
		3	0.19	<0.01	0.12	<0.01		<0.01				
			0.20	<0.01	0.13	<0.01		<0.01				
		7	0.12	<0.01	0.14	<0.01	<0.01					
			0.17	<0.01	0.13	<0.01	<0.01					
		14	0.07	<0.01	0.14	<0.01	<0.01					
			0.08	<0.01	0.13	<0.01	<0.01					
	453 <sup>SC</sup>	果実			454 <sup>SC</sup>	0	0.36	<0.01	0.13	<0.01	<0.01	
							0.31	<0.01	0.12	<0.01	<0.01	
						3	0.25	<0.01	0.14	<0.01	<0.01	
							0.20	<0.01	0.13	<0.01	<0.01	
		7	0.12	<0.01	0.12	<0.01	<0.01					
			0.14	<0.01	0.10	<0.01	<0.01					
		14	0.11	<0.01	0.10	<0.01	<0.01					
			0.07	<0.01	0.10	<0.01	<0.01					
	Red Haven (露地)	果実			445 <sup>SC</sup>	3	0	0.25	<0.01	0.05	<0.01	<0.01
								0.19	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
0					0.87		<0.01	0.06	<0.01	<0.01		
					1.04	<0.01	0.07	<0.01	<0.01			
カナダ 2015 年	Glowing Star (露地)	果実		458 <sup>SC</sup>	3	0	0.57	<0.01	0.68	0.01	0.04	
							0.53	<0.01	0.39	0.01	0.04	
				459 <sup>SC</sup>		0	0.67	<0.01	0.37	0.01	0.05	
							0.73	<0.01	0.49	0.02	0.05	
	Bright on	果実			452 <sup>SC</sup>	3	0	0.27	<0.01	0.44	0.01	0.02
							5	1.34	<0.01	2.74	0.24	0.14

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)  (露地)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031
							566 <sup>SC</sup>	0	0.63	<0.01	0.61
	5	0.36	<0.01	0.55	0.02	0.04					

1 SC : 40%フロアブル剤茎葉散布  
2

- 1  
2 作物名：プラム

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Shiro (露地)	果実	10	450 <sup>SC</sup>	3	0	0.33	<0.01	0.23	<0.01	0.01
							0.31	<0.01	0.23	<0.01	0.01
				445 <sup>SC</sup>		0	0.28	<0.01	0.13	<0.01	<0.01
							0.24	<0.01	0.10	<0.01	<0.01
	Black Ice (露地)	果実		437 <sup>SC</sup>	3	0	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
				438 <sup>SC</sup>		0	0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
	French (露地)	果実		446 <sup>SC</sup>	3	0	0.03	<0.01	0.11	<0.01	0.02
							0.02	<0.01	0.11	<0.01	0.02
				444 <sup>SC</sup>		0	0.03	<0.01	0.12	<0.01	0.03
							0.03	<0.01	0.13	<0.01	0.03
		果実		445 <sup>SC</sup>	3	0	0.23	<0.01	0.07	<0.01	0.01
							0.18	<0.01	0.05	<0.01	<0.01
				445 <sup>SC</sup>		0	0.29	<0.01	0.05	<0.01	<0.01
							0.31	<0.01	0.05	<0.01	<0.01
	Angele no (露地)	果実		3	454 <sup>SC</sup>	0	0.20	<0.01	0.18	<0.01	<0.01
							0.20	<0.01	0.11	<0.01	0.02
						3	0.23	<0.01	0.22	<0.01	<0.01
							0.19	<0.01	0.22	<0.01	<0.01
						7	0.17	<0.01	0.22	<0.01	<0.01
0.13			<0.01				0.23	<0.01	<0.01		
14			0.11		<0.01	0.23	<0.01	<0.01			
			0.08		<0.01	0.25	<0.01	<0.01			
21			0.12		<0.01	0.25	<0.01	<0.01			
			0.07		<0.01	0.25	<0.01	<0.01			
450 <sup>SC</sup>			0		0.14	<0.01	0.14	<0.01	<0.01		
					0.14	<0.01	0.14	<0.01	<0.01		
	3	0.17	<0.01	0.16	<0.01	<0.01					
		0.15	<0.01	0.15	<0.01	<0.01					
	7	0.12	<0.01	0.15	<0.01	<0.01					
		0.12	<0.01	0.15	<0.01	<0.01					

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)						
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031		
米国 2015 年	Yu- mmy Beaut (露地)	果実		461 <sup>SC</sup>	3	0	0.07	<0.01	0.40	<0.01	<0.01		
							0.06	<0.01	0.43	<0.01	<0.01		
						0	0.14	<0.01	0.32	<0.01	<0.01		
							0.11	<0.01	0.32	<0.01	<0.01		
						Early Italian (露地)	果実	0	0.25	<0.01	0.27	<0.01	<0.01
									0.26	<0.01	0.27	<0.01	<0.01
	0	0.18		<0.01	0.19			<0.01	<0.01				
		0.20		<0.01	0.19			<0.01	<0.01				
	カナ ダ 2015 年	Ger- man (露地)		果実		449 <sup>SC</sup>	3	0	0.84	<0.01	0.09	<0.01	<0.01
									0.96	<0.01	0.08	<0.01	<0.01
								0	1.05	<0.01	0.09	<0.01	<0.01
									0.91	<0.01	0.09	<0.01	<0.01
Italian (露地)		果実	0	0.66		<0.01	0.06	<0.01	<0.01				
				0.83		<0.01	0.05	<0.01	<0.01				
			0	0.95		<0.01	0.05	<0.01	<0.01				
				1.01		<0.01	0.06	<0.01	<0.01				
PR HI (露地)		果実	0	0.30		<0.01	0.20	<0.01	<0.01				
				0.21		<0.01	0.18	<0.01	<0.01				
			0	0.38		<0.01	0.23	<0.01	<0.01				
				0.35		<0.01	0.22	<0.01	<0.01				

1 SC : 40%フロアブル剤茎葉散布  
2

1

2 作物名:ばれいしょ

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2015 年	Dark Red Nor- land (露地)	塊茎	20	464 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							<0.01	NA	NA	NA	NA
	Reba (露地)	塊茎		0*	<0.01	<0.01	0.10	<0.01	<0.01		
					<0.01	NA	NA	NA	NA		
				3*	<0.01	<0.01	0.18	<0.01	<0.01		
					<0.01	NA	NA	NA	NA		
				6*	<0.01	<0.01	0.11	<0.01	<0.01		
					<0.01	NA	NA	NA	NA		
				10	<0.01	<0.01	0.13	<0.01	<0.01		
					<0.01	NA	NA	NA	NA		
	14	<0.01		<0.01	0.15	<0.01	<0.01				
		<0.01		NA	NA	NA	NA				
	Wa- neta (露地)	塊茎		467 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.05	<0.01	<0.01
							<0.01	NA	NA	NA	NA
	Red Nor- land (露地)	塊茎		451 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
							<0.01	NA	NA	NA	NA
	Yukon Gold (露地)	塊茎		454 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
		<0.01					NA	NA	NA	NA	
	塊茎	455 <sup>EC</sup>		3	7	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	
						<0.01	NA	NA	NA	NA	
Red Pon- tiac (露地)	塊茎	448 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01		
	<0.01				NA	NA	NA	NA			
塊茎	449 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01			
				<0.01	NA	NA	NA	NA			
Elkton (露地)	塊茎	447 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.23	<0.01	0.03		
					<0.01	NA	NA	NA	NA		
Kenne beck	塊茎	442 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.11	<0.01	<0.01		
					<0.01	NA	NA	NA	NA		

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態) (露地)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)									
							メフェン トリフル コナゾール	F001	F029	F030	F031					
	(露地)	塊茎		458 <sup>EC</sup>	3	0*	0.02	<0.01	0.04	<0.01	<0.01					
							0.03	NA	NA	NA	NA					
						3*	0.02	<0.01	0.05	<0.01	<0.01					
							0.01	NA	NA	NA	NA					
						7	0.02	<0.01	0.09	<0.01	<0.01					
							0.01	NA	NA	NA	NA					
						10	0.01	<0.01	0.05	<0.01	<0.01					
							0.03	NA	NA	NA	NA					
						14	0.03	<0.01	0.05	<0.01	<0.01					
							0.05	NA	NA	NA	NA					
						Atlantic (露地)	塊茎	塊茎	452 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.07	<0.01	<0.01
												<0.01	NA	NA	NA	NA
	454 <sup>EC</sup>	塊茎	塊茎	3	7	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01						
						<0.01	NA	NA	NA	NA						
	Contential Russet (露地)	塊茎	塊茎	457 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01					
							<0.01	NA	NA	NA	NA					
	Red La Soda (露地)	塊茎	塊茎	448 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01					
							<0.01	NA	NA	NA	NA					
	Russet Bur- bank (露地)	塊茎	塊茎	451 <sup>EC</sup>	3	6*	<0.01	<0.01	0.07	<0.01	<0.01					
							<0.01	NA	NA	NA	NA					
	Stan- dard Russet Nor- kotah (露地)	塊茎	塊茎	454 <sup>EC</sup>	3	6*	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01					
							<0.01	NA	NA	NA	NA					
	カナ ダ 2015 年	Wiscon sin Nor- land (露地)	塊茎	455 <sup>EC</sup>	3	6*	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01					
							<0.01	NA	NA	NA	NA					
Russet Bur- bank		塊茎	449 <sup>EC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	0.17	<0.01	<0.01						
						<0.01	NA	NA	NA	NA						

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態) (露地)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
							メフェン トリフル コナゾー ール	F001	F029	F030

- 1 EC : 10%フロアブル剤茎葉散布、NA:未分析又は試料なし
- 2 ・農薬の使用時期（PHI）が、申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に\*を付した。
- 3

1

2 作物名: オレンジ

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾー ール	F001	F029	F030	F031
米国 2016 年	Valencia (露地)	果実	12	460 <sup>EC</sup>	3	0	0.15	<0.01	0.13	0.01	0.03
							0.13	<0.01	0.12	0.01	0.03
				460 <sup>EC</sup>		0	0.18	<0.01	0.10	0.01	0.03
							0.16	<0.01	0.10	0.01	0.03
		果実		459 <sup>EC</sup>	3	0	0.17	<0.01	0.04	<0.01	0.01
							0.13	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
				462 <sup>EC</sup>	0	0.16	<0.01	0.05	<0.01	0.01	
						0.19	<0.01	0.05	<0.01	0.01	
		果実		443 <sup>EC</sup>	3	0	0.21	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
							0.17	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				447 <sup>EC</sup>	0	0.16	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						0.14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
	果実	457 <sup>EC</sup>		3	0	0.17	<0.01	0.06	<0.01	0.02	
						0.22	<0.01	0.06	<0.01	0.02	
		455 <sup>EC</sup>		0	0.16	<0.01	0.08	0.01	0.03		
					0.14	<0.01	0.11	0.02	0.04		
	Navel (露地)	果実		452 <sup>EC</sup>	3	0	0.15	<0.01	0.08	<0.01	0.03
							0.19	<0.01	0.09	0.01	0.04
				457 <sup>EC</sup>	0	0.21	<0.01	0.11	0.02	0.05	
						0.20	<0.01	0.11	0.02	0.05	
		果実		454 <sup>EC</sup>	3	0	0.19	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
							0.19	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
	Hamlin (露地)	果実		444 <sup>EC</sup>	3	0	0.45	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
							0.48	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
448 <sup>EC</sup>		0	0.15	<0.01	0.01	<0.01	<0.01				
			0.18	<0.01	0.02	<0.01	<0.01				
果実	448 <sup>EC</sup>	3	0	0.30	<0.01	0.02	<0.01	<0.01			
					0.20	<0.01	0.02	<0.01	<0.01		

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)						
							メフェ ントリ フルコ ナゾール	F001	F029	F030	F031		
				455 <sup>EC</sup>		7	0.35	<0.01	0.01	<0.01	<0.01		
							0.22	<0.01	0.02	<0.01	<0.01		
						14	0.43	<0.01	0.03	<0.01	0.02		
							0.33	<0.01	0.03	<0.01	0.01		
						21	0.34	<0.01	0.03	<0.01	0.02		
							0.35	<0.01	0.03	<0.01	0.01		
						28	0.30	<0.01	0.03	<0.01	0.01		
							0.33	<0.01	0.04	<0.01	0.02		
						0	0.22	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
							0.23	<0.01	0.02	<0.01	<0.01		
						7	0.19	<0.01	0.01	<0.01	<0.01		
							0.21	<0.01	0.02	<0.01	<0.01		
				14	0.19	<0.01	0.02	<0.01	<0.01				
					0.15	<0.01	0.02	<0.01	<0.01				
				21	0.14	<0.01	0.01	<0.01	<0.01				
					0.17	<0.01	0.02	<0.01	<0.01				
				28	0.13	<0.01	0.02	<0.01	0.01				
					0.12	<0.01	0.02	<0.01	<0.01				
				Atwood (露地)	果実	449 <sup>EC</sup>	3	0	0.21	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
									0.28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						451 <sup>EC</sup>	0	0.13	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
								0.13	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
				Werley (露地)	果実	452 <sup>EC</sup>	3	0	0.21	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
									0.25	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
453 <sup>EC</sup>	0	0.14	<0.01			0.03	<0.01	<0.01					
		0.18	<0.01			0.03	<0.01	<0.01					
米国 2016 ~ 2017 年	Atwood (露地)	449 <sup>EC</sup>	3	0	0.16	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				
					0.13	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				
		447 <sup>EC</sup>	0	0.15	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01					
				0.15	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01					
米国	Valencia	果		447 <sup>EC</sup>	3	0	0.30	<0.01	0.03	<0.01	<0.01		

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031
2017年	(露地)	実		452 <sup>EC</sup>		0	0.36	<0.01	0.04	<0.01	<0.01
							0.17	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
							0.18	<0.01	0.03	<0.01	<0.01

EC : 10%乳剤茎葉散布

1  
2

1  
2

作物名：グレープフルーツ

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2016 年	Flame (露地)	果実	6	452 <sup>EC</sup>	3	0	0.14	<0.01	0.06	<0.01	0.01
							0.24	<0.01	0.08	<0.01	0.02
				457 <sup>EC</sup>	0	0.24	<0.01	0.08	<0.01	0.02	
						0.23	<0.01	0.07	<0.01	0.01	
	Ray Red (露地)	果実		444 <sup>EC</sup>	3	0	0.13	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
							0.13	<0.01	0.03	<0.01	<0.01
				444 <sup>EC</sup>	0	0.12	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	
						0.11	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	
	Rio Red (露地)	果実		466 <sup>EC</sup>	3	0	0.19	<0.01	0.13	0.01	0.03
							0.18	<0.01	0.14	0.01	0.03
				463 <sup>EC</sup>	0	0.11	<0.01	0.12	0.01	0.03	
						0.12	<0.01	0.14	0.02	0.04	
Melo- gold (露地)	果実	450 <sup>EC</sup>	3	0	0.12	<0.01	0.02	<0.01	<0.01		
					0.08	<0.01	0.01	<0.01	<0.01		
		454 <sup>EC</sup>	0	0.07	<0.01	0.02	<0.01	<0.01			
				0.07	<0.01	0.01	<0.01	<0.01			
米国 2016 ～ 2017	Melo- gold (露地)	果実	6	454 <sup>EC</sup>	3	0	0.20	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.13	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				454 <sup>EC</sup>	0	0.07	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						0.07	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
	Ray Ruby (露地)	果実		451 <sup>EC</sup>	3	0	0.20	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7		0.20	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						0.18	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
				14		0.13	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
						0.16	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	
21	0.12	<0.01	0.01	<0.01	<0.01						
	0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01						
28	0.13	<0.01	0.010	<0.01	<0.01						
	0.08	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01						

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾー ール	F001	F029	F030	F031
		果実		451 <sup>EC</sup>	3	0	0.13	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.15	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						7	0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.10	<0.01	0.010	<0.01	<0.01
						14	0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.10	<0.01	0.010	<0.01	<0.01
						21	0.06	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.07	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						28	0.07	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.06	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

1 EC : 10%乳剤茎葉散布  
2

1  
2

作物名：レモン

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2016 年	Meyer (露地)	果実	6	452 <sup>EC</sup>	3	0	0.28	<0.01	0.04	<0.01	0.02
							0.25	<0.01	0.05	<0.01	0.02
				454 <sup>EC</sup>		0	0.38	<0.01	0.05	<0.01	0.02
							0.27	<0.01	0.04	<0.01	0.01
	Bearss (露地)	果実		454 <sup>EC</sup>	0	0.35	<0.01	0.02	<0.01	0.02	
						0.32	<0.01	0.02	<0.01	0.02	
				445 <sup>EC</sup>	0	0.32	<0.01	0.02	<0.01	0.02	
						0.24	<0.01	0.03	<0.01	0.02	
	Lisbon (露地)	果実		449 <sup>EC</sup>	0	0.33	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	
						0.26	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	
				453 <sup>EC</sup>	0	0.23	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	
						0.19	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	
果実		450 <sup>EC</sup>	0	0.48	<0.01	0.01	<0.01	<0.01			
				0.39	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
		456 <sup>EC</sup>	0	0.32	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
				0.33	<0.01	0.01	<0.01	<0.01			
米国 2017 年	Lisbon (露地)	果実	6	447 <sup>EC</sup>	3	0	0.59	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.62	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
				450 <sup>EC</sup>		0	0.19	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.24	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	果実	450 <sup>EC</sup>		0	0.43	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
					0.31	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		7		0.29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
					0.24	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		14		0.25	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
					0.29	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		21		0.28	0.02	<0.01	<0.01	<0.01			
					0.20	0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
28	0.24	0.01	<0.01	<0.01	<0.01						
		0.18	0.01	<0.01	<0.01	<0.01					

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾー ール	F001	F029	F030	F031
		果実		448 <sup>EC</sup>	3	0	0.16	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.18	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						7	0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						14	0.11	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						21	0.06	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.07	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						28	0.07	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
							0.07	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

1 EC : 10%乳剤茎葉散布

2

- 1  
2 作物名：ペカン

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Sum- ner (露地)	仁	5	455 <sup>SC</sup>	3	13*	<0.01	<0.01	0.56	0.06	0.13
							<0.01	<0.01	0.48	0.05	0.13
				452 <sup>SC</sup>		13*	<0.01	<0.01	0.89	0.07	0.18
							<0.01	<0.01	0.78	0.05	0.14
		仁		447 <sup>SC</sup>	3	0*	<0.01	<0.01	0.70	0.05	0.16
							<0.01	<0.01	0.68	0.05	0.16
					3*	<0.01	<0.01	0.62	0.05	0.14	
						<0.01	<0.01	0.51	0.06	0.15	
					7*	<0.01	<0.01	0.64	0.06	0.16	
						<0.01	<0.01	0.65	0.06	0.17	
					15	<0.01	<0.01	0.58	0.05	0.14	
						<0.01	<0.01	0.59	0.05	0.13	
	21	<0.01		<0.01	0.66	0.06	0.14				
		<0.01		<0.01	0.68	0.06	0.14				
	仁	447 <sup>SC</sup>		3	0*	<0.01	<0.01	0.48	0.05	0.15	
						<0.01	<0.01	0.56	0.06	0.16	
				3*	<0.01	<0.01	0.47	0.05	0.15		
					<0.01	<0.01	0.53	0.06	0.16		
				7*	<0.01	<0.01	0.47	0.06	0.16		
					<0.01	<0.01	0.49	0.06	0.16		
				15	<0.01	<0.01	0.64	0.06	0.18		
					<0.01	<0.01	0.63	0.06	0.17		
	21	<0.01		<0.01	0.54	0.07	0.15				
		<0.01		<0.01	0.57	0.07	0.15				
Caddo (露地)	仁	3	456 <sup>SC</sup>	14	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01		
					<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01		
		447 <sup>SC</sup>	14	<0.01	<0.01	0.03	<0.01	<0.01			
				<0.01	<0.01	0.03	<0.01	<0.01			
Merra- mec	仁	3	446 <sup>SC</sup>	13*	<0.01	<0.01	NA	0.02	0.04		
					<0.01	<0.01	0.16	0.02	0.04		

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)  (露地)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
							メフェ ントリ フルコ ナゾー ール	F001	F029	F030	F031	
				446 <sup>SC</sup>		13*	<0.01	<0.01	0.10	0.02	0.04	
							<0.01	<0.01	0.10	0.02	0.04	
	Kanza (露地)	仁			449 <sup>SC</sup>	3	15	0.01	<0.01	0.04	<0.01	0.01
								<0.01	<0.01	0.04	<0.01	0.01
					454 <sup>SC</sup>	15	<0.01	<0.01	0.07	<0.01	0.02	
							<0.01	<0.01	0.07	<0.01	0.02	

1 SC : 40%フロアブル剤茎葉散布  
2

- 1  
2 作物名：ピスタチオ

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェントリフルコナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Ker- man (露地)	仁	3	445 <sup>SC</sup>	3	14	0.06	<0.01	<0.2	<0.01	<0.01
							0.03	<0.01	<0.2	<0.01	<0.01
				444 <sup>SC</sup>		14	<0.01	<0.01	<0.2	<0.01	0.01
							0.01	<0.01	<0.2	<0.01	<0.01
				451 <sup>SC</sup>		14	<0.01	<0.01	<0.2	<0.01	0.02
							<0.01	<0.01	<0.2	<0.01	0.02
		458 <sup>SC</sup>		14	<0.01	<0.01	<0.2	<0.01	0.03		
					0.01	<0.01	0.22	<0.01	0.03		
		Pio- neer (露地)		仁	453 <sup>SC</sup>	0*	<0.01	<0.01	0.64	<0.01	0.05
							<0.01	<0.01	0.82	<0.01	0.06
					3*	0.06	<0.01	0.69	<0.01	0.06	
						<0.01	<0.01	0.43	<0.01	0.04	
	7*				<0.01	<0.01	0.41	<0.01	0.04		
					<0.01	<0.01	0.37	<0.01	0.04		
	14			<0.01	<0.01	0.36	<0.01	0.04			
				<0.01	<0.01	0.37	<0.01	0.05			
	21			0.01	<0.01	0.29	<0.01	0.04			
				0.01	<0.01	0.28	<0.01	0.04			
	仁			454 <sup>SC</sup>	0*	<0.01	<0.01	0.67	<0.01	0.04	
						0.01	<0.01	0.40	<0.01	0.04	
		3*		0.04	<0.01	0.32	<0.01	0.04			
				0.02	<0.01	0.42	<0.01	0.05			
		7*		<0.01	<0.01	0.43	<0.01	0.04			
				<0.01	<0.01	0.42	<0.01	0.04			
14	<0.01	<0.01	0.32	<0.01	0.04						
	<0.01	<0.01	0.34	<0.01	0.04						
21	0.01	<0.01	0.38	<0.01	0.05						
	0.01	<0.01	0.38	<0.01	0.05						

- 3 SC : 40%フロアブル剤茎葉散布  
4

1

2 作物名:アーモンド

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
							メフェ ントリ フルコ ナゾール	F001	F029	F030	F031
米国 2014 年	Nonpa- reil (露地)	仁		445 <sup>SC</sup>	3	14	<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	<0.01
				445 <sup>SC</sup>		14	<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	<0.01
							<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	<0.01
		仁		452 <sup>SC</sup>	14	<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	0.01	
						<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	0.01	
				448 <sup>SC</sup>	14	<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	0.01	
						<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	0.01	
	Fritz (露地)	仁		458 <sup>SC</sup>	3	0*	<0.01	<0.01	1.86	0.02	0.03
							<0.01	<0.01	2.12	0.02	0.04
						3*	<0.01	0.01	2.24	0.02	0.03
							<0.01	<0.01	2.16	0.02	0.03
						7*	<0.01	<0.01	2.31	0.03	0.05
							<0.01	<0.01	2.39	0.03	0.06
						14	<0.01	0.01	2.10	0.03	0.03
							<0.01	<0.01	1.94	0.03	0.03
		21			<0.01	<0.01	1.70	0.03	0.03		
					<0.01	<0.01	2.13	0.03	0.03		
		仁			462 <sup>SC</sup>	0*	<0.01	<0.01	3.14	0.02	0.04
							<0.01	<0.01	3.07	0.03	0.04
						3*	<0.01	0.03	2.43	0.02	0.04
							<0.01	0.03	2.41	0.02	0.04
						7*	<0.01	<0.01	2.46	0.04	0.06
							<0.01	<0.01	2.34	0.03	0.06
14	<0.01		<0.01	2.64		0.03	0.03				
	<0.01		<0.01	2.42		0.03	0.03				
21	<0.01	<0.01	2.96	0.04	0.04						
	<0.01	<0.01	2.96	0.03	0.04						
仁	454 <sup>SC</sup>	3	14	<0.01	<0.01	1.36	0.02	0.02			
				<0.01	<0.01	1.33	0.02	0.02			

実施場所 (国) 実施年	品種 (栽培形態)	分析部位	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
							メフェ ントリ フルコ ナゾー ール	F001	F029	F030	F031	
				452 <sup>SC</sup>		14	0.02	<0.01	1.88	0.02	0.03	
							0.02	<0.01	1.64	0.03	0.03	
	Mon- terey (露地)	仁			449 <sup>SC</sup>	3	15	<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	<0.01
								<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	<0.01
					454 <sup>SC</sup>		15	<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	<0.01
								<0.01	<0.01	<0.4	<0.01	<0.01

1 SC : 40%フロアブル剤茎葉散布

2

3

1 <別紙4:畜産物残留試験成績>

2 ①泌乳牛-投与期間-

3

乳汁及び組織中の残留値(μg/g)

用量		1.57 mg/kg 飼料相当						7.49 mg/kg 飼料相当						49.0 mg/kg 飼料相当					
試料	試料採取日	メフェントリフルコナゾール	F001	F022	F029	F030	F031	メフェントリフルコナゾール	F001	F022	F029	F030	F031	メフェントリフルコナゾール	F001	F022	F029	F030	F031
乳汁 <sup>a</sup>	投与3~28日	<0.01	0.02 (0.02)	NA	0.01 (0.02)	ND	ND	0.01 (0.01)	0.03 (0.05)	NA	<0.01	ND	ND	0.06 (0.11)	0.11 (0.14)	0.01 (0.01)	0.01 (0.01)	ND	ND
乳脂肪	投与21日	<0.01	0.01 (0.01)	<0.01	<0.01	ND	ND	0.05 (0.06)	0.02 (0.03)	0.01 (0.01)	<0.01	ND	ND	0.42 (0.46)	0.09 (0.09)	0.06 (0.07)	<0.01	ND	ND
無脂肪乳	投与21日	<0.01	0.02 (0.02)	NA	<0.01	ND	ND	<0.01	0.03 (0.04)	NA	<0.01	ND	ND	0.01 (0.02)	0.13 (0.13)	NA	<0.01	ND	ND
筋肉 <sup>b</sup>	投与28日 <sup>c</sup>	<0.01	0.01 (0.01)	NA	0.04 (0.06)	<0.01	ND	<0.01	0.03 (0.03)	NA	0.05 (0.06)	<0.01	ND	0.07 (0.11)	0.11 (0.11)	<0.01	0.06 (0.07)	<0.01	ND
肝臓		0.03 (0.03)	0.01 (0.02)	NA	0.14 (0.17)	<0.01	ND	0.15 (0.18)	0.03 (0.03)	<0.01	0.17 (0.22)	<0.01	ND	0.99 (1.40)	0.12 (0.12)	0.02 (0.02)	0.22 (0.23)	<0.01	ND
腎臓		0.01 (0.01)	0.01 (0.02)	NA	0.04 (0.05)	0.01 (0.02)	ND	0.05 (0.07)	0.03 (0.03)	<0.01	0.05 (0.07)	0.01 (0.01)	ND	0.29 (0.51)	0.09 (0.12)	0.02 (0.02)	0.05 (0.07)	0.01 (0.02)	ND
腎周囲脂肪		0.02 (0.02)	<0.01	NA	<0.01	<0.01	ND	0.05 (0.06)	0.01 (0.02)	<0.01	0.02 (0.02)	<0.01	ND	0.65 (0.90)	0.02 (0.03)	0.08 (0.09)	0.01 (0.01)	<0.01	ND
腸間膜脂肪		0.02 (0.02)	<0.01	NA	<0.01	<0.01	ND	0.05 (0.08)	0.01 (0.01)	0.01 (0.01)	0.02 (0.02)	<0.01	ND	0.53 (0.57)	0.02 (0.04)	0.08 (0.09)	0.01 (0.02)	<0.01	ND
皮下脂肪		0.02 (0.02)	<0.01	NA	0.01 (0.02)	<0.01	ND	0.02 (0.04)	0.02 (0.02)	<0.01	0.02 (0.04)	<0.01	ND	0.48 (0.78)	0.03 (0.07)	0.05 (0.08)	0.02 (0.02)	<0.01	ND

4 注) 数値は3例の平均値、():最大値、NA:該当なし、ND:検出されず  
 5 F001、F030及びF031は投与5~28日の平均値、F022は投与21日の分析値

- 1 a：投与期間中、午前、午後の2回/日に採取された平均値を示す。
- 2 b：腰部及び後肢筋の等量混合試料、c：最終投与22～24時間後
- 3

1 -投与期間（続き）-

2

乳汁及び組織中の残留値（ $\mu\text{g/g}$ ）

用量		141 mg/kg 飼料相当						148 mg/kg 飼料相当					
試料	試料採取日	メフェントリフルコナゾール	F001	F022	F029	F030	F031	メフェントリフルコナゾール	F001	F022	F029	F030	F031
乳汁 <sup>a</sup>	投与3~28日	0.20 (0.35)	0.27 (0.33)	NA	0.01 (0.01)	ND	ND	0.23 (0.37)	0.22 (0.32)	0.02 (0.02)	0.01 (0.02)	<0.01	ND
乳脂肪	投与21日	1.23 (1.95)	0.23 (0.29)	NA	<0.01	ND	ND	1.46 (2.16)	0.18 (0.21)	0.10 (0.11)	<0.01	ND	ND
無脂肪乳	投与21日	0.07 (0.10)	0.24 (0.31)	NA	0.02 (0.04)	ND	ND	0.04 (0.07)	0.23 (0.23)	NA	0.02 (0.03)	ND	ND
筋肉 <sup>b</sup>	投与28日 <sup>c</sup>	0.16 (0.22)	0.28 (0.33)	0.02 (0.02)	0.18 (0.26)	<0.01	ND	NA	NA	NA	NA	NA	NA
肝臓		3.03 (3.58)	0.26 (0.30)	0.04 (0.04)	0.65 (0.78)	<0.01	ND	NA	NA	NA	NA	NA	NA
腎臓		1.29 (1.88)	0.28 (0.39)	0.04 (0.04)	0.19 (0.23)	0.03 (0.04)	ND	NA	NA	NA	NA	NA	NA
腎周囲脂肪		1.71 (2.29)	0.11 (0.19)	0.16 (0.21)	0.06 (0.08)	<0.01	ND	NA	NA	NA	NA	NA	NA
腸間膜脂肪		1.16 (1.87)	0.11 (0.25)	0.13 (0.20)	0.02 (0.03)	<0.01	ND	NA	NA	NA	NA	NA	NA
皮下脂肪		0.59 (1.20)	0.17 (0.28)	0.07 (0.13)	0.06 (0.09)	<0.01	ND	NA	NA	NA	NA	NA	NA

3 注) 数値は3例の平均値、():最大値、NA:該当なし、ND:検出されず  
 4 F001、F030及びF031は投与5~28日の平均値、F022は投与21日の分析値  
 5 a:投与期間中、午前、午後の2回/日に採取された平均値を示す。  
 6 b:腰部及び後肢筋の等量混合試料、c:最終投与22~24時間後

7

1 - 消失期間 -

2

乳汁及び組織中の残留値 (µg/g)

用量	148 mg/kg 飼料相当 (休薬3日)						148 mg/kg 飼料相当 (休薬7日)						148 mg/kg 飼料相当 (休薬14日)					
	メフェ ントリ フルコ ナゾー ル	F001	F022	F029	F030	F031	メフェ ントリ フルコ ナゾー ル	F001	F022	F029	F030	F031	メフェ ントリ フルコ ナゾー ル	F001	F022	F029	F030	F031
乳汁 <sup>a</sup>	<0.01	0.15 (0.17)	NA	NA	NA	NA	<0.01	0.05	NA	NA	NA	NA	<0.01	NA	NA	NA	NA	NA
筋肉 <sup>b</sup>	0.06	0.14	<0.01	0.05	<0.01	ND	<0.01	0.05	<0.01	0.04	ND	ND	ND	0.02	<0.01	0.08	<0.01	ND
肝臓	0.89	0.17	0.02	0.23	<0.01	ND	0.02	0.05	ND	0.22	<0.01	ND	<0.01	0.02	0.01	0.40	<0.01	ND
腎臓	0.28	0.14	0.01	0.06	<0.01	ND	<0.01	0.04	<0.01	0.08	<0.01	ND	ND	0.01	<0.01	0.12	0.02	ND
腎周囲 脂肪	0.54	<0.01	0.10	<0.01	ND	ND	0.02	<0.01	0.05	<0.01	ND	ND	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	ND	ND
腸間膜 脂肪	2.25	0.09	0.15	0.02	<0.01	ND	0.02	<0.01	0.05	<0.01	ND	ND	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	ND	ND
皮下 脂肪	1.47	0.04	0.11	<0.01	ND	ND	0.32	0.01	0.07	<0.01	ND	ND	0.02	<0.01	0.02	0.01	ND	ND

3

注) 数値は1例の値

4

a: 投与期間中、午前、午後の2回/日に採取され、休薬3日は2例の平均値

5

b: 腰部及び後肢筋の等量混合試料

6

NA: 該当なし、ND: 検出されず

7

1 ①産卵鶏 - 投与期間 -

2

卵及び組織中の残留値 (µg/g)

用量		0.18 mg/kg 飼料相当						1.7 mg/kg 飼料相当					
試料	試料採取日	メフェントリフルコナゾール	F001	F022	F029	F030	F031	メフェントリフルコナゾール	F001	F022	F029	F030	F031
卵 <sup>a</sup>	投与14～33日	NA	<0.01	<0.01	NA	NA	NA	<0.01	0.01 (0.01)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
卵黄	投与24日	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
卵白		NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
筋肉	投与34日 <sup>b</sup>	<0.01	<0.01	<0.01	0.02 (0.02)	<0.01	<0.01	<0.01	0.01 (0.01)	<0.01	0.02 (0.02)	<0.01	<0.01
肝臓		<0.01	<0.01	<0.01	0.02 (0.03)	<0.01	<0.01	0.01 (0.02)	0.01 (0.02)	0.02 (0.02)	0.02 (0.03)	<0.01	<0.01
脂肪(腹腔内)		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.03 (0.04)	<0.01	<0.01
皮膚(脂肪付き)		<0.01	<0.01	0.01 (0.02)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02 (0.02)	<0.01	<0.01

3 注) 数値は3亜群(4例/亜群)の平均値、():亜群別最大値

4 <sup>a</sup>: 投与期間中、午前、午後の2回/日に採取され、平均値を示す。

5 <sup>b</sup>: 最終投与3時間(0.18 mg/kg 飼料相当及び1.7 mg/kg 飼料相当投与群)又は5時間(5.1 mg/kg 飼料及び17.3 mg/kg 飼料相当投与群)以内に採取

6 NA: 該当なし

7

1 - 投与期間（続き） -

2

卵及び組織中の残留値（ $\mu\text{g/g}$ ）

用量		5.1 mg/kg 飼料相当						17.3 mg/kg 飼料相当					
試料	試料採取日	メフェントリフルコナゾール	F001	F022	F029	F030	F031	メフェントリフルコナゾール	F001	F022	F029	F030	F031
卵 <sup>a</sup>	投与14～33日	<0.01	0.02 (0.03)	0.02 (0.02)	<0.01	<0.01	<0.01	0.03 (0.04)	0.08 (0.10)	0.07 (0.09)	<0.01	<0.01	<0.01
卵黄	投与24日	NA	NA	NA	NA	NA	NA	0.08 (0.09)	0.05 (0.05)	0.02 (0.02)	0.02 (0.03)	<0.01	<0.01
卵白		NA	NA	NA	NA	NA	NA	<0.01	0.08 (0.09)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
筋肉	投与34日 <sup>b</sup>	<0.01	0.03 (0.04)	<0.01	0.02 (0.02)	<0.01	<0.01	0.02 (0.03)	0.10 (0.11)	0.03 (0.04)	0.02 (0.02)	<0.01	<0.01
肝臓		0.02 (0.02)	0.03 (0.03)	0.03 (0.03)	0.03 (0.03)	<0.01	<0.01	0.10 (0.20)	0.10 (0.12)	0.15 (0.20)	0.02 (0.03)	<0.01	<0.01
脂肪 (腹腔内)		0.02 (0.03)	<0.01	0.07 (0.07)	<0.01	<0.01	<0.01	0.17 (0.25)	<0.01	0.31 (0.36)	<0.01	<0.01	<0.01
皮膚(脂肪付き)		0.01 (0.01)	0.01 (0.02)	0.04 (0.04)	<0.01	<0.01	<0.01	0.10 (0.15)	0.04 (0.04)	0.18 (0.19)	<0.01	<0.01	<0.01

3

注) 数値は3亜群(4例/亜群)の平均値、():亜群別最大値

4

<sup>a</sup>: 投与期間中、午前、午後の2回/日に採取され、平均値を示す。

5

<sup>b</sup>: 最終投与3時間(0.18 mg/kg 飼料相当及び1.7 mg/kg 飼料相当投与群)又は(5時間5.1 mg/kg 飼料相当及び17.3 mg/kg 飼料相当投与群)以内に採取

6

NA: 該当なし

7

8

9

1 - 消失期間 -

2 卵及び組織中の残留値 (µg/g)

用量 (試料採取日)	17.2 mg/kg 飼料相当 (投与終了時)						17.2 mg/kg 飼料相当 (休薬2日)					
	メフェント リフルコナ ゾール	F001	F022	F029	F030	F031	メフェント リフルコナ ゾール	F001	F022	F029	F030	F031
卵 <sup>a</sup>	0.03 (0.04)	0.07 (0.09)	0.06 (0.08)	<0.01	<0.01	<0.01	0.02 (0.03)	0.07 (0.07)	0.06 (0.07)	<0.01	<0.01	<0.01
筋肉	NA	NA	NA	NA	NA	NA	<0.01	0.02	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
肝臓	NA	NA	NA	NA	NA	NA	<0.01	0.02	0.02	0.03	<0.01	<0.01
脂肪(腹腔内)	NA	NA	NA	NA	NA	NA	<0.01	<0.01	0.06	<0.01	<0.01	<0.01
皮膚(脂肪付き)	NA	NA	NA	NA	NA	NA	<0.01	<0.01	0.04	<0.01	<0.01	<0.01
用量 (試料採取日)	17.2 mg/kg 飼料相当 (休薬7日)						17.2 mg/kg 飼料相当 (休薬14日)					
試料	メフェント リフルコナ ゾール	F001	F022	F029	F030	F031	メフェント リフルコナ ゾール	F001	F022	F029	F030	F031
卵 <sup>a</sup>	<0.01	<0.01	0.01 (0.01)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
筋肉	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
肝臓	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
脂肪(腹腔内)	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
皮膚(脂肪付き)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

3 注) 数値は1亜群(4例)の分析値、():亜群別最大値、ただし、  
 4 a: 投与期間中、午前、午後の2回/日に採取され、投与終了時及び休薬2日は3亜群(12例)、休薬7日は2亜群(8例)の平均値  
 5 NA: 該当なし

1 <参照>

- 2 1. 食品健康影響評価について(令和元年5月22日付け厚生労働省発生食0522第9
- 3 号)
- 4 2. 概要書 メフェントリフルコナゾール(殺菌剤)(平成30年8月2日): BASF
- 5 ジャパン株式会社、一部公表予定
- 6 3. <sup>14</sup>C- BAS 750 F (14C-chlorophenyl and trifluoromethylring-U-<sup>14</sup>C labels):
- 7 Study on Kinetics and Excretion in Wistar Rats after Single and Reated Oral
- 8 Administration (GLP 対応)、WIL Research Europe B.V.、2015年、未公表
- 9 4. <sup>14</sup>C- BAS 750 F (triazole-3(5)-C<sup>14</sup>):Study on the Biokinetics in rats (GLP 対応)、
- 10 BASF SE Experimental Toxicology and Ecology、2016年、未公表
- 11 5. Excretion and metabolism of <sup>14</sup>C- BAS 750 F (Reg.No 5834378) afer oral
- 12 administration in rats (GLP 対応)、BASF SE Crop Protection Ecology and
- 13 Environmental Analytics、2016年、未公表
- 14 6. <sup>14</sup>C- BAS 750 F: Study on Plasma Kinetics in C57BL/6JRj mice (GLP 対応)、
- 15 Quotient Bioresearch(Rushden) Ltd.、BASF SE Crop Protection Ecology and
- 16 Environmental Analytics、2014年、未公表
- 17 7. The Metabolism of [<sup>14</sup>C]- Reg.No 5834378 (BAS 750 F) in Lactating Goats
- 18 (GLP 対応)、Quotient Bioresearch(Rushden)Ltd.、BASF SE Crop Protection
- 19 Ecology and Environmental Analytics、2015年、未公表
- 20 8. The Metabolism of [<sup>14</sup>C]- Reg.No 5834378 (BAS 750 F) in Laying Hens (GLP
- 21 対応)、Quotient Bioresearch(Rushden)Ltd.、BASF SE Crop Protection Ecology
- 22 and Environmental Analytics、2015年、未公表
- 23 9. Metabolism of <sup>14</sup>C LS5834378 in wheat (GLP 対応)、BASF SE Crop Protection
- 24 Ecology and Environmental Analytics、2015年、未公表
- 25 10. Metabolism of <sup>14</sup>C- BAS 750 F in soybean (GLP 対応)、BASF SE Crop
- 26 Protection Ecology and Environmental Analytics、2015年、未公表
- 27 11. Metabolism of <sup>14</sup>C- BAS 750 F in grape (GLP 対応)、BASF SE Crop Protection
- 28 Ecology and Environmental Analytics、2015年、未公表
- 29 12. Aerobic soil metabolism of BAS 750 F (GLP 対応)、BASF SE Crop Protection
- 30 Ecology and Environmental Analytics、2015年、未公表
- 31 13. Aerobic soil metabolism of trifluoromethylphenyl-labeled BAS 750 F (GLP 対
- 32 応)、BASF SE Crop Protection Ecology and Environmental Analytics、2015
- 33 年、未公表
- 34 14. BAS 750 F:Aqueous Hydrolysis at Four Different pH Values (GLP 対応)、
- 35 BASF SE Crop Protection Ecology and Environmental Analytics、2015年、未
- 36 公表
- 37 15. Aqueous Photolysis of <sup>14</sup>C- BAS 750 F (GLP 対応)、BASF Crop Protection、
- 38 2015年、未公表

- 1 16. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in/on Grapes (GLP 対応)、American  
2 Agricultural Services, Inc.、BASF Crop Protection、2016年、未公表
- 3 17. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in Cereal Grains Following  
4 Applications of BAS 750 01 F (GLP 対応)、Stewart Agricultural Research  
5 Services, Inc.、BASF Crop Protection、2016年、未公表
- 6 18. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in Sweet Corn Following  
7 Applications of BAS 750 01 F (GLP 対応)、Stewart Agricultural Research  
8 Services, Inc.、BASF Crop Protection、2016年、未公表
- 9 19. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in Legumes(Crop Groups 6 and 7)  
10 Following Applications of BAS 750 01 F (GLP 対応)、Landis International, Inc.、  
11 BASF Crop Protection、2016年、未公表
- 12 20. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in Soybean Following Applications of  
13 BAS 750 01 F (GLP 対応)、Landis International, Inc.、BASF Crop Protection、  
14 2016年、未公表
- 15 21. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in Sugar beet Following Applications  
16 of BAS 750 01 F (GLP 対応)、SGS North America, Inc.、BASF Crop Protection、  
17 2016年、未公表
- 18 22. Magnitude and Decline of the Residues of BAS 750 F in Peanut Following  
19 Applications of BAS 750 01 F (GLP 対応)、Eurofins Agrosience Services, Inc.、  
20 BASF Crop Protection、2016年、未公表
- 21 23. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in Canola Following Applications of  
22 BAS 750 01 F (GLP 対応)、Precision Study Management.、BASF Crop  
23 Protection、2016年、未公表
- 24 24. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in Pome Fruits(Crop Group11) (GLP  
25 対応)、Landis International, Inc.、BASF Crop Protection、2016年、未公表
- 26 25. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in Tree Nut Raw Agricultural  
27 Commodities (GLP 対応)、The Carringers, Inc.、BASF Crop Protection、2016  
28 年、未公表
- 29 26. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in Stone Fruits(Crop Group12) (GLP  
30 対応)、Landis International, Inc.、BASF Crop Protection、2016年、未公表
- 31 27. Magnitude of the Residues of BAS 750 F in Potates Following Treatment with  
32 BAS 750 01 F (GLP 対応)、Precision Study Management.、BASF Crop  
33 Protection、2016年、未公表
- 34 28. The Magnitude of Residues of BAS 750 F in Citrus Crop Goup 10 (GLP 対応)、  
35 Analytical Bio-Chemistry Laboratories, Inc.、BASF Crop Protection、2017年、  
36 未公表
- 37 29. Magnitude of Residues in Milk and Tissues of Dairy Cows Following Multiple  
38 Oral Administrations of BAS 750 F (GLP 対応)、Charles River Laboratories

- 1 Edinburch Ltd、2015(修正2016)年、未公表
- 2 30. Magnitude of Residues in Tissues and Eggs of Laying Hens Following
- 3 Multiple Oral Administrations of BAS 750 F (GLP 対応)、SGS INSTITUT
- 4 FRESENIUS GmbH、2015年、未公表
- 5 31. BAS 750 F Acute oral toxicity study in rats(Including analytical report) (GLP
- 6 対応)、Bioassay, Labor fuer biologische Analytik GmbH、2013年、未公表
- 7 32. BAS 750 F Acute dermal toxicity study in rats(Including analytical report)
- 8 (GLP 対応)、Bioassay, Labor fuer biologische Analytik GmbH、2013年、未
- 9 公表
- 10 33. BAS 750 F Acute inhalation toxicity study in Wistar rats-4-hour dust
- 11 exposure(head-nose only) (GLP 対応)、BASF SE Experimental Toxicology and
- 12 Ecology、2014年、未公表
- 13 34. Metabolite F022 Acute oral toxicity study in rats(Including concentration
- 14 control analysis and homogeneity control analysis) (GLP 対応)、Bioassay,
- 15 Labor fuer biologische Analytik GmbH、2015年、未公表
- 16 35. BAS 750 F Acute oral neurotoxicity study in Wistar rats Administration by
- 17 gavage (GLP 対応)、BASF SE Experimental Toxicology and Ecology、2015
- 18 年、未公表
- 19 36. BAS 750 F Acute dermal irritation/corrosion in rabbits (GLP 対応)、Bioassay,
- 20 Labor fuer biologische Analytik GmbH、2013年、未公表
- 21 37. BAS 750 F Acute eye irritation in rabbits (GLP 対応)、Bioassay, Labor fuer
- 22 biologische Analytik GmbH、2013年、未公表
- 23 38. BAS 750 F - Test for Skin Sensitization using the Guinea Pig Maximization
- 24 Test(GPMT)(Including Analytical Report) (GLP 対応)、Frey-Tox GmbH、2013
- 25 年、未公表
- 26 39. BAS 750 F Repeated dose 90-day oral toxicity study in Wistar rats
- 27 Administration via the diet (GLP 対応)、BASF SE Experimental Toxicology
- 28 and Ecology、2015年、未公表
- 29 40. 90-day oral dietary toxicity study with BAS 750 F in C57BL/6JRj
- 30 mice(Including analytical report & amendment) (GLP 対応)、WIL Research
- 31 Europe B.V.、2015年、未公表
- 32 41. BAS 750 F Repeated-dose 90-day oral toxicity study in Beagle dogs Oral
- 33 administration(capsule) (GLP 対応)、BASF SE Experimental Toxicology and
- 34 Ecology、2015年、未公表
- 35 42. BAS 750 F Repeated-dose 28-day dermal toxicity study in Wistar rats (GLP
- 36 対応)、BASF SE Experimental Toxicology and Ecology、2015年、未公表
- 37 43. Metabolite F022 Repeated-dose 28-day toxicity study in C57BL/6JRj mice
- 38 Administration via the diet(Including analytical report) (GLP 対応)、BASF SE

- 1 Experimental Toxicology and Ecology、2016 年、未公表
- 2 44. BAS 750 F Repeated-dose 12-month toxicity study in Beagle dogs Oral  
3 administration(Capsule) (GLP 対応)、BASF SE Experimental Toxicology and  
4 Ecology、2016 年、未公表
- 5 45. BAS 750 F Combined Chronic Toxicity /Carcinogenicity Study in Wistar Rats  
6 Administration via the Diet up to 24 Months(Including historical control data)  
7 (GLP 対応)、BASF SE Experimental Toxicology and Ecology、2016 年、未  
8 公表
- 9 46. 18-MONTH CARCINOGENICITY STUDY WITH BAS 750 F IN MALE AND  
10 FEMALE C57BL/6JRJ MICE(Including historical control data and analytical  
11 report) (GLP 対応)、WIL Research Europe B.V.、2015 年、未公表
- 12 47. BAS 750 F Two Generation Reproductive Toxicity Study in Wistar Rats  
13 Administration via the Diet (GLP 対応)、BASF SE Experimental Toxicology  
14 and Ecology、2015 年、未公表
- 15 48. BAS 750 F Prenatal Developmental Toxicity Study in Wistar Rats Oral  
16 Administration(Gavage) (GLP 対応)、BASF SE Experimental Toxicology and  
17 Ecology、2015 年、未公表
- 18 49. BAS 750 F Prenatal Developmental Toxicity Study in New Zealand White  
19 Rabbits- Oral Administration(Gavage)(Including Amendment No.1) (GLP 対  
20 応)、BASF SE Experimental Toxicology and Ecology、2015 (修正 2016) 年、  
21 未公表
- 22 50. BAS 750 F SALMONELLA TYPHIMURIUM /ESCHERICHIA COLI  
23 REVERSE MUTATION ASSAY(Including Analytical report) (GLP 対応)、  
24 BASF SE Experimental Toxicology and Ecology、2014 年、未公表
- 25 51. BAS 750 F SALMONELLA TYPHIMURIUM /ESCHERICHIA COLI  
26 REVERSE MUTATION ASSAY (GLP 対応)、BASF SE Experimental  
27 Toxicology and Ecology、2015 年、未公表
- 28 52. BAS 750 F: IN VITRO CELL MUTATION ASSAY AT THE THYMIDINE  
29 KINASE LOCUS(TK<sup>+/+</sup>) IN MOUSE LYMPHOMA L5178Y CELLS (GLP 対応)、  
30 Harlan Cytotest Cell Research GmbH(Haarlan CCR)、2013 年、未公表
- 31 53. BAS 750 F In vitro Cell Mutation Assay at the Thymidine Kinase Locus(TK<sup>+/+</sup>)  
32 in Mouse Lymphoma L5178Y Cells、Envigo CRS GmbH、2015 年、未公表
- 33 54. BAS 750 F IN VITRO MICRONUCLEUS ASSAY IN V79 Cells  
34 (CYTOKINESIS BLOCK METHOD) (GLP 対応)、BASF SE Experimental  
35 Toxicology and Ecology、2014 年、未公表
- 36 55. BAS 750 F Micronucleus Test In Human Lymphocytes In Vitro (GLP 対応)、  
37 Envigo CRS GmbH、2015 年、未公表
- 38 56. BAS 750 F MICRONUCLEUS TEST IN BONE MARROW CELLS OF THE

- 1 MOUSE (GLP 対応)、BASF SE Experimental Toxicology and Ecology、2014
- 2 年、未公表
- 3 57. METABOLITE F022 SALMONELLA TYPHIMURIUM /ESCHERICHIA
- 4 COLI REVERSE MUTATION ASSAY(Including Analytical Report) (GLP 対
- 5 応)、BASF SE Experimental Toxicology and Ecology、2015年、未公表
- 6 58. METABOLITE F022 IN VITRO GENE MUTATION TEST IN L5178Y
- 7 MOUSE LYMPHOMA CELLS (TK<sup>+/+</sup> LOCUS ASSAY, MICROWELL
- 8 VERSION) (GLP 対応)、BASF SE Experimental Toxicology and Ecology、2015
- 9 年、未公表
- 10 59. Metabolite F022: Micronucleus Test In Human Lymphocytes In Vitro (GLP 対
- 11 応)、Envigo CRS GmbH、2015年、未公表
- 12 60. 平成 17～19 年の食品摂取頻度・摂取量調査（薬事・食品衛生審議会食品衛生分
- 13 科会農薬・動物用医薬品部会資料、2014年2月20日）
- 14 61. 食品安全委員会：農薬評価書 トリアゾール共通代謝物、2018年、公表
- 15 62. EFSA : Peer review of the pesticide risk assessment of the active substance BAS
- 16 750 F (mefentrifluconazole) : EFSA Journal、16(7) : 5379、2018年
- 17 63. US EPA : Federal Register : “mefentrifluconazole” 84(125) : 30939～30946、
- 18 2019年
- 19 64. US EPA : Decision Memorandum : Mefentrifluconazole. Human health risk
- 20 assessment for the section 3 registration action of the new active ingredient、
- 21 2019年